

3) 報告事例について

3)–1 調査データとしての回収データの評価

本調査の調査対象は、調査票の依頼文にも書いたとおり、平成23年度の1年間に全国の児童相談所で何らかの相談対応があった、すべての性暴力被害事例である。具体的には平成23年度中に何らかの相談受理手続きのあったもの、平成23年度以前から継続して対応があり、平成23年度中にも何らかの対応があった事例で、その主訴、それ以外の付随する問題として何らかの性暴力被害問題が関与していた全ての事例を調査対象とした。性暴力被害の内容としては、性的虐待を含むすべての家庭内性暴力被害およびその疑いの事案、それ以外の家庭外性暴力被害、およびその疑いの事案である。

個々で扱うのは全て実際の事例データに基づく相談情報である。事例データが示す相談情報は、所持の体制情報とは異なる、様々な実人生の痛みと苦しみを通じてしか、我々に届くことのなかった極めて重い情報である。プライバシーへの配慮として当然そのすべてを明らかにすることはできない部分も含まれる。限られた情報群から、我々は子どもの性暴力被害の深刻な実態とその対応のための課題を学ぶことを目指す。ポイントはまず初動からである。

最初にデータの公共性、代表制を吟味する。公的サービスの課題を扱う上で、収集されたデータが対象となる母集団についてどの程度の代表性を持っているデータとなり得ているかは、極めて重要な要素である。

次に、具体的な対応課題の流れに沿ってそれらの事例対応の展開をみていく。調査票の項目は、別紙資料にあるように、まず個人の基本情報の次に時系列に個々の対応状況とその経過を項目として並べている。また、申告され、確認されていく被害内容については、刻々の変化を把握するため、繰り返して記載されるようになっている。

対応課題の時系列的な大まかな流れ、テーマは以下のとおりである。

1. 初期状況：問題の発覚状況について
2. 初動対応：問題の発覚・認知から最短時間での初期対応について
3. 調査保護を含む事実確認調査状況について
4. 再被害の阻止のための対応とその成果について
5. ケアの開始と法的対応について

これにクロスして、子どもの生活場所（在宅か施設入所中か）、被害のタイプ（家庭内被害か家庭外被害か）を掛け合わせ、調査対象をA、Bに2分類し、さらにB群を基本情報とその先の状況別にB1～B4群に分けた。それぞれに共通する調査項目と、異なる調査項目があると考えたからである。各調査票は表2に示すような5種類のデータ群に分けて回収・集計された（表36）。

表36. 本調査の事例調査の種類

| A票 | 在宅あるいは別件での一時保護中に性暴力被害について対応した事例 |
|-----|---|
| B票+ | B-1 施設入所中に家族・親族からの性暴力被害について対応し、一時保護した事例 |
| | B-2 施設入所中に家族・親族以外の人物からの性暴力被害について対応し、一時保護した事例 |
| | B-3 施設入所中に家族・親族からの性暴力被害について対応し、措置を継続した事例 |
| | B-4 施設入所中に家族・親族以外の人物からの性暴力被害について対応し、措置を継続した事例 |

まず、データの回収状況から、データの公共性、母集団の代表制について検討する（表2）。

A票：件数は1354件、子どもが在宅状態で性暴力被害が発覚した事例として、相談開始、あるいは別の相談途上にある、性暴力被害にあった子どもの実件数である。その中心群は性的虐待を含む家庭内性暴力被害にあった事例と考えられる。同じく家庭内性暴力被害を軸にしている施設入所中の事例はB1群（11件）とB3群（49件）である。A群とB1、B3群の合計値は1414件である。ちなみに平成23年度の全国児童相談所の統計上の性的虐待相談件数は1460件である。これは相談対応の延べ件数で子どもの実数ではない。一般に相談対応件数は延べ件数を表すので、実数より若干多くなることが予想され、A群、B1、B2群の合計は、統計上の性的虐待件相談件数とある程度、照合性のある対照群の範囲にあると見ることが出来そうである。ただし、今回の調査事例には前年度からの継続事案で、平成23年度は相談受理が無かった事例も調査対象としている。また、定義上、性的虐待とはならない家庭内性暴力被害事例も調査対象としているところからみると、合計1414

件という件数は若干少ないよう見える。この点は個々の群の結果を詳しく検討し、傾向性等を判断するには注意が必要であることを示しているが、これ以上の検証は難しく、一定数の事例が計上されたものと一応考えたい。

B票：全合計件数は260件である。B票は基本的に平成23年度に施設で生活している子どもで、何らかの性暴力被害問題の発覚・発見が当該年度、あるいは過年度にあった子どもの全件数を対象としている。これには過年度からの相談の全経過中のどこかで性暴力被害に関係した履歴があり、かつ平成23年度時点で施設で生活しているすべての子どもが含まれる。また平成23年度中に新たに施設入所し、その後の相談経過中に何らかの性暴力被害（家庭内・家庭外）問題が発生・発覚した事例も含まれる。

子ども虐待事案で児童福祉施設に入所し、ある時点で施設で暮らしている子どもはおよそ17000人前後である。子ども虐待相談における性的虐待相談件数は概ね3～4%前後、ただし、性的虐待は安全確保の必要性から一時保護、施設入所措置の比率がほかの虐待種別より高い領域なので、推計件数は少なく見積もってもおよそ500件前後（17000件の3%）と見込まれる。これに虐待問題以外の性暴力被害問題、施設入所後に発覚・発生する性暴力被害に関する相談事例が追加されるとすると、今回の回収事例数は明らかに少ない。

実は施設に在籍する子どもの事例については調査票回収の時点では複数の児童相談所から、性被害歴のあるすべての施設入所事例を識別することは困難、あるいは施設に暮らす子どもの性暴力被害問題については、それを検索する索引項目が業務統計上、設定されていないため、十分には検索できていない、あるいはほとんど計上されていない等の報告が寄せられた。これらの状況からみて、B票に計上されたデータは、施設入所中の性暴力被害に関する子どもの状況を正確に反映しているとはいえない結果となっていると判断される。

純粋に研究的な観点からは、B票のデータは施設入所中の子どもの全体像を正確には反映していないとみられ、特定集団の特性を代表していることが保障されないばかりか、むしろ全体把握に否定的なデータは研究対象としては棄却されるべきものである。しかし今回は、実態調査として、可能な範囲内の貴重な調査協力の結果としてのデータなので、あえて、参考的な資料データとして一定部分については集計報告することとした。

このような限定的な評価のもとであるが、収集された事例データの結果概要を見ていくこととする。

3)－2 性的虐待・家庭内性暴力と家庭外性暴力の全体状況

① 調査件数 年齢区分と男女の分布

本調査で回収された事例は、平成23年度の1年間に全国の児童相談所で何らかの相談対応があった（相談受理だけではなく）、性的虐待、家庭内性暴力被害、家庭外性暴力被害の事例で、児童相談所からの回収率は95.5%（表1）である。

事例は全部で1614件（表2）、女性1419件、男性182件、男女不明13件である。このうち在宅状態（別件での一時保護中の発覚も含む）の子どもらの発見・発覚事例は1354件、施設入所中の子どもらの発見・発覚件数は260件である。件数は児童相談所が対応した子どもの実数で、厚生労働省が発表している虐待相談件数とは基準、数え方が異なっている。

発表されている虐待相談件数は、児童相談所が当該年度内に相談受理手続きをとり、虐待を確認し、対応した相談対応数としての延べ件数である。さらにわが国の児童虐待防止法の定義による性的虐待は、子どもの親権者、監護責任者が自ら子どもに性暴力をはたらいた事案のみを指しており、子どもが生活を共にし、同居状態にあるそのほかの家族・親族、同居人等からの性暴力被害は含まれない。それらは親権者・監護責任者のネグレクトとして取り扱われることになっている（実際的にはこれに加えて各自治体の判断、計上基準にバラつきがみられる。ただし、それらはいずれも歴史的な、あるいは組織・人員定数評価など、様々な自治体独自の経過理由があつてそうなっている）公式な件数で、機械的・単純に統一され得るものばかりではない）。さらに件数は少ないようだが、在宅の子どもの家庭外性暴力被害が発生した場合、虐待相談件数には含まれないが、今回の調査では調査対象に含まれており、在宅事例の内に含まれている（A群の中には重複被害も含めて家庭外性暴力被害も含まれている）。

3)－1で触れたように、本調査では、施設入所中の性暴力被害事案については、その全てを調査対象範囲として回収できていない。さらに上で述べた在宅で発生した家庭内性暴力被害以外の何らかの性暴力被害につい

ても、児童相談所が相談として関与した事案は、調査回答の時点での全数を把握することが難しかったという報告もあった。

こうした結果となった主な理由は、現行制度で子どもの身に発生した性暴力被害事案をすべて統計的に把握できる感度を備えた報告・計上基準や統計的検索システムが全国的には設定されていないことによる。複数の児童相談所から、調査回答時点での家庭内性暴力被害以外の事案については、正確な計上体制が無いため、その全数把握には至っていない、とか、そもそもそこまで対象を広げて回答できていない、という報告があった。

結果的には、在宅・施設入所中を含め、家庭内性暴力被害の発覚事案については、子どもの安全確保上、児童相談所が具体的に直接対応する比率が高く、かなりの件数把握に到達しているとみられるが、それ以外の性暴力被害事案については参考情報としての水準にとどまっているとみなければならない。こうした水準ではあるが、本調査で把握された施設入所中に主として家庭外性暴力被害事案の発見・発覚から対応開始した事例はおよそ200件である（実際には重複被害が多く、単純に家庭外性暴力被害とは規定しにくい事例も含まれる）。

これらをあらためて男女別年齢別で示すと表37、図10のとおりである（各項目の欠損値は一部省略、年齢については当該年度以前からの事例も性暴力被害の相談受理時の年齢で統一している）。

表37. 全国児童相談所が相談対応した性暴力被害にあった子どもの男女別・学年別件数（平成23年度取扱い）

| | 性別 | 件数 | 0歳～3歳未満 | 3歳～就学前 | 小学1～3年 | 小学4～6年 | 中学生 | 高校生・その他中卒 | 無回答 |
|----|-------|------|---------|--------|--------|--------|-----|-----------|-----|
| 在宅 | 女性 | 1257 | 30 | 100 | 159 | 256 | 485 | 203 | 24 |
| | 男性 | 91 | 2 | 26 | 22 | 19 | 19 | | 3 |
| 施設 | 女性 | 162 | 10 | 26 | 29 | 27 | 38 | 28 | 4 |
| | 男性 | 91 | 2 | 12 | 23 | 36 | 16 | 2 | 0 |
| 計 | 女性 | 1419 | 40 | 126 | 188 | 283 | 523 | 231 | 28 |
| | 男性 | 182 | 4 | 38 | 45 | 55 | 35 | 2 | 3 |
| | 計 | 1601 | 44 | 164 | 233 | 338 | 558 | 233 | 31 |
| 全体 | 報告総合計 | 1614 | 44 | 164 | 235 | 341 | 562 | 234 | 34 |
| | 性別無記入 | 13 | 0 | 0 | 2 | 3 | 4 | 1 | 3 |

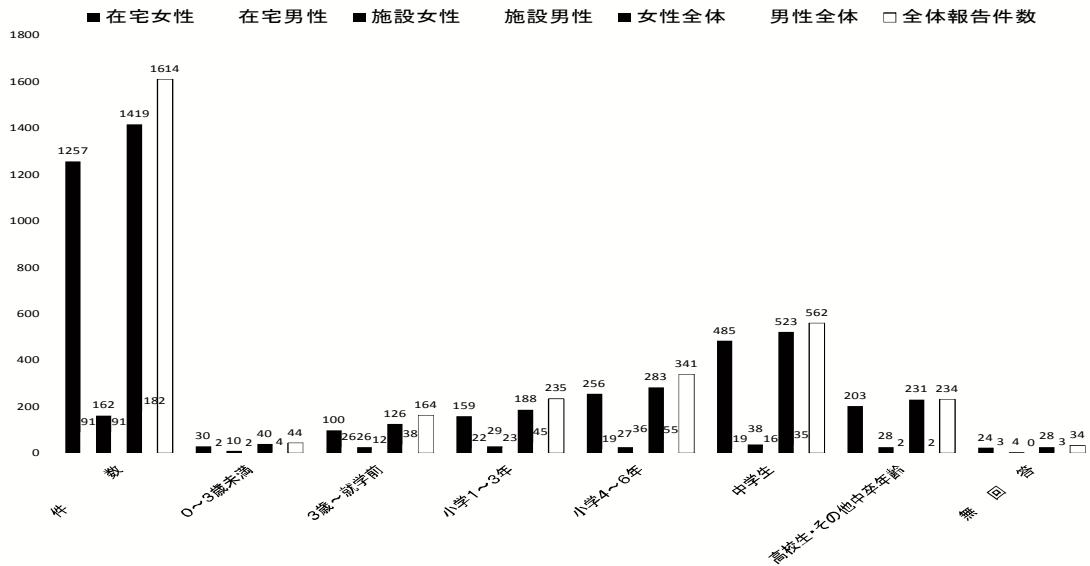


図10. 全国児童相談所が相談対応した性暴力被害児童 男女別・学年別件数（平成23年度）

今回の調査では相談受理時点での子どもの居場所がどこであったかで 在宅（別件一時保護中を含む）と施設入所中に分け、施設入所中についてはさらに主な被害が、家庭内性暴力被害にあたる家族・親族からの被害の場合と、家族・親族外の被害の場合に分けて調査設定した。さらに施設入所中の事案については、発覚時の

施設から一時的に被害にあった子どもを分離したか、そのまま施設で継続的にみたかを分けて調査した。調査票の段階での分類は表 36 のとおりとなる。

調査分類上の集計値は表 38 のとおりである（各グループ群の順を主な被害の分類から、B-1・B-3、B-2・B-4の順にして示す）。

表 38. 全国児童相談所が相談対応した性暴力被害にあった子どもの相談受理時点の場所別・男女別件数の詳細

| 調査分類 | 性別 | 件数 | 0歳未満 | 3歳就学前 | 小学1年～3年 | 小学4年～6年 | 中学生 | 他高校卒生年齢その他の | 無回答 |
|---------|-------|------|------|-------|---------|---------|-----|-------------|-----|
| A | 女性 | 1257 | 30 | 100 | 159 | 256 | 485 | 203 | 24 |
| | 男性 | 91 | 2 | 26 | 22 | 19 | 19 | | 3 |
| | 計 | 1348 | 32 | 126 | 181 | 275 | 504 | 203 | 27 |
| | 報告合計 | 1354 | 32 | 126 | 182 | 276 | 507 | 204 | 27 |
| | 性別無記入 | 6 | 0 | 0 | 1 | 1 | 3 | 1 | 0 |
| B1 | 女性 | 8 | | 2 | | 1 | 4 | 1 | |
| | 男性 | 3 | | | 2 | 1 | | | |
| | 計 | 11 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 | 1 | 0 |
| | 報告合計 | 11 | 0 | 2 | 2 | 2 | 4 | 1 | 0 |
| | 性別無記入 | 0 | | | | | | | |
| B3 | 女性 | 41 | 4 | 5 | 8 | 5 | 11 | 8 | |
| | 男性 | 6 | | | 3 | 2 | 1 | | |
| | 計 | 47 | 4 | 5 | 11 | 7 | 12 | 8 | 0 |
| | 報告合計 | 49 | 4 | 5 | 11 | 8 | 12 | 8 | 1 |
| | 性別無記入 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| B2 | 女性 | 18 | | 3 | 3 | 3 | 5 | 4 | |
| | 男性 | 13 | | | 1 | 5 | 7 | | |
| | 計 | 31 | 0 | 3 | 4 | 8 | 12 | 4 | 0 |
| | 報告合計 | 31 | | 3 | 4 | 8 | 12 | 4 | |
| | 性別無記入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B4 | 女性 | 95 | 6 | 16 | 18 | 18 | 18 | 15 | 4 |
| | 男性 | 69 | 2 | 12 | 17 | 28 | 8 | 2 | |
| | 計 | 164 | 8 | 28 | 35 | 46 | 26 | 17 | 4 |
| | 報告合計 | 169 | 8 | 28 | 36 | 47 | 27 | 17 | 6 |
| | 性別無記入 | 5 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| B1+B3 | 女性 | 49 | 4 | 7 | 8 | 6 | 15 | 9 | 0 |
| | 男性 | 9 | 0 | 0 | 5 | 3 | 1 | 0 | 0 |
| | 計 | 58 | 4 | 7 | 13 | 9 | 16 | 9 | 0 |
| | 報告合計 | 60 | 4 | 7 | 13 | 10 | 16 | 9 | 1 |
| | 性別無記入 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| B2+B4 | 女性 | 113 | 6 | 19 | 21 | 21 | 23 | 19 | 4 |
| | 男性 | 82 | 2 | 12 | 18 | 33 | 15 | 2 | 0 |
| | 計 | 195 | 8 | 31 | 39 | 54 | 38 | 21 | 4 |
| | 報告合計 | 200 | 8 | 31 | 40 | 55 | 39 | 21 | 6 |
| | 性別無記入 | 5 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 2 |
| B総計 | 女性 | 162 | 10 | 26 | 29 | 27 | 38 | 28 | 4 |
| | 男性 | 91 | 2 | 12 | 23 | 36 | 16 | 2 | 0 |
| | 計 | 253 | 12 | 38 | 52 | 63 | 54 | 30 | 4 |
| | 報告合計 | 260 | 12 | 38 | 53 | 65 | 55 | 30 | 7 |
| | 性別無記入 | 7 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 3 |
| A+B1+B3 | 女性 | 1306 | 34 | 107 | 167 | 262 | 500 | 212 | 24 |
| | 男性 | 100 | 2 | 26 | 27 | 22 | 20 | 0 | 3 |
| | 計 | 1406 | 36 | 133 | 194 | 284 | 520 | 212 | 27 |
| | 報告合計 | 1414 | 36 | 133 | 195 | 286 | 523 | 213 | 28 |
| | 性別無記入 | 8 | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 | 1 | 1 |
| 総計 | 女性 | 1419 | 40 | 126 | 188 | 283 | 523 | 231 | 28 |
| | 男性 | 182 | 4 | 38 | 45 | 55 | 35 | 2 | 3 |
| | 計 | 1601 | 44 | 164 | 233 | 338 | 558 | 233 | 31 |
| | 報告合計 | 1614 | 44 | 164 | 235 | 341 | 562 | 234 | 34 |
| | 性別無記入 | 13 | 0 | 0 | 2 | 3 | 4 | 1 | 3 |

上記表中：空欄は元データ段階「0」の意味 集計値は0表記している

② 年齢と男女

全事例の学年単位による年齢別男女数は先の表 37、38、図 10 にあるが、0~17 歳の各年齢別にみると表 39、図 11 のようになる。

表 39. 全国児童相談所が相談対応した性暴力被害にあった子どもの相談受理時点の男女別年齢別件数（平成 23 年度）

| 性別 | 件数 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 無回答 | 平均 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 総件数 | 1614 | 8 | 9 | 25 | 36 | 50 | 55 | 64 | 68 | 76 | 90 | 100 | 114 | 153 | 179 | 224 | 145 | 99 | 81 | 38 | 10.9 |
| 女 | 1419 | 6 | 9 | 23 | 25 | 40 | 46 | 43 | 52 | 65 | 73 | 76 | 99 | 136 | 165 | 210 | 141 | 98 | 81 | 31 | 11.2 |
| 男 | 182 | 2 | 0 | 1 | 11 | 10 | 9 | 21 | 15 | 10 | 16 | 24 | 15 | 14 | 13 | 12 | 4 | 0 | 0 | 5 | 8.5 |
| 男女計 | 1601 | 8 | 9 | 24 | 36 | 50 | 55 | 64 | 67 | 75 | 89 | 100 | 114 | 150 | 178 | 222 | 145 | 98 | 81 | 36 | 10.9 |
| 欠損値 | 13 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 2 | |

男女総数

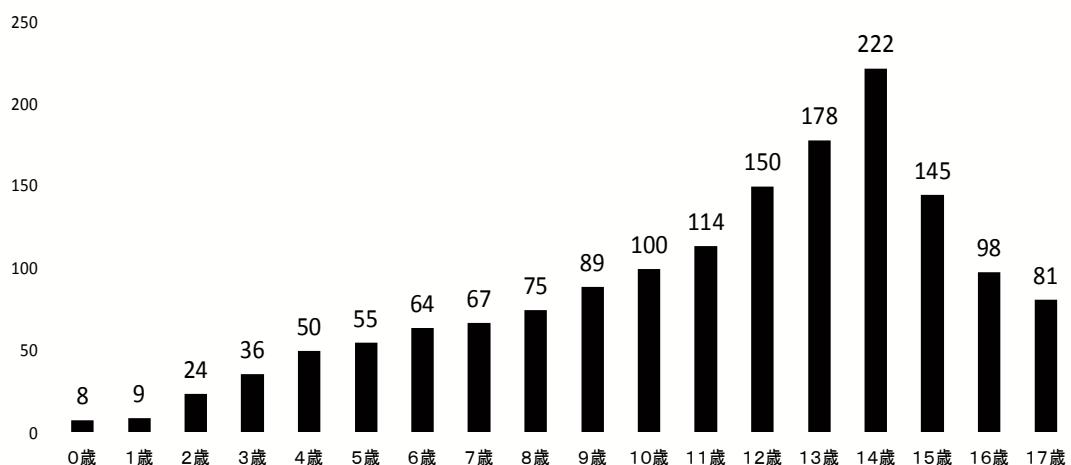


图 11. 全国児童相談所が相談対応した性暴力被害にあった子どもの相談受理時点の男女別年齢別件数（平成 23 年度）

女性と男性の人数に相当の開きがあるので、同列には比較できないが、男女を、在宅事例（表 40、図 12、13）施設入所後に家庭内性暴力被害が発覚した事例（表 41、図 14、15）、在宅事例と施設入所後に家庭内性暴力被害が発覚した事例の合計（表 42、図 16、17）、施設入所後に発見・発覚した家庭外性暴力被害事例が中心であった事例（表 43、図 18、19）、男女の合計を図 20、21 で示す（男女の全体合計は表 39、図 11 で示されている）。

表 40. 在宅（別件一時保護中を含む）で発見・発覚した性暴力被害事案の年齢別・男女別状況（平成 23 年）表 125 の A

| 性別 | 件数 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 無回答 | 平均 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 総件数 | 1354 | 3 | 9 | 17 | 27 | 41 | 42 | 46 | 53 | 57 | 73 | 79 | 94 | 128 | 158 | 208 | 130 | 87 | 70 | 32 | 11.4 |
| 女 | 1257 | 2 | 9 | 17 | 20 | 33 | 36 | 32 | 47 | 54 | 65 | 68 | 90 | 119 | 154 | 200 | 128 | 86 | 70 | 27 | 11.7 |
| 男 | 91 | 1 | 0 | 0 | 7 | 8 | 6 | 14 | 6 | 2 | 8 | 11 | 4 | 7 | 4 | 6 | 2 | 0 | 0 | 5 | 8.2 |
| 男女計 | 1348 | 3 | 9 | 17 | 27 | 41 | 42 | 46 | 53 | 56 | 73 | 79 | 94 | 126 | 158 | 206 | 130 | 86 | 70 | 32 | 11.2 |
| 欠損値 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | |

表 41. 施設入所後に家庭内性暴力被害が発見・発覚した事例の年齢別・男女別状況（平成 23 年度）表 125 の B-1+B-3

| 性別 | 件数 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 無回答 | 平均 |
|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 総件数 | 60 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 5 | 3 | 9 | 2 | 5 | 6 | 3 | 2 | 2 | 9.9 |
| 女 | 49 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 3 | 2 | 1 | 3 | 3 | 3 | 2 | 8 | 2 | 4 | 6 | 3 | 2 | 1 | 10.2 |
| 男 | 9 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 2 | 0 | 2 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 9.0 |
| 男女計 | 58 | 1 | 0 | 2 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 | 5 | 3 | 5 | 3 | 8 | 2 | 5 | 6 | 3 | 2 | 1 | 10.1 |
| 欠損値 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |

表 42. 在宅事例（表 39）と施設入所後に家庭内性暴力被害が発見・発覚した事例（表 40）合計（平成 23 年度）表の A+B-1+B-3

| 性別 | 件数 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 無回答 | 平均 |
|-----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 総件数 | 1414 | 4 | 9 | 19 | 28 | 43 | 45 | 49 | 56 | 62 | 76 | 84 | 97 | 137 | 160 | 213 | 136 | 90 | 72 | 34 | 11.1 |
| 女 | 1306 | 3 | 9 | 19 | 21 | 35 | 39 | 34 | 48 | 57 | 68 | 71 | 92 | 127 | 156 | 204 | 134 | 89 | 72 | 28 | 11.4 |
| 男 | 100 | 1 | 0 | 0 | 7 | 8 | 6 | 15 | 8 | 4 | 8 | 13 | 5 | 7 | 4 | 7 | 2 | 0 | 0 | 5 | 7.8 |
| 男女計 | 1406 | 4 | 9 | 19 | 28 | 43 | 45 | 49 | 56 | 61 | 76 | 84 | 97 | 134 | 160 | 211 | 136 | 89 | 72 | 33 | 11.1 |
| 欠損値 | 8 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 2 | 0 | 1 | 0 | 1 | | |

表43 施設入所後に家庭外性暴力被害が発見・発覚した事例の年齢別・男女別状況（平成23年度）表125のB-2+B-4

| 性別 | 件数 | 0歳 | 1歳 | 2歳 | 3歳 | 4歳 | 5歳 | 6歳 | 7歳 | 8歳 | 9歳 | 10歳 | 11歳 | 12歳 | 13歳 | 14歳 | 15歳 | 16歳 | 17歳 | 無回答 | 平均 |
|-----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 総件数 | 200 | 4 | 0 | 6 | 8 | 7 | 10 | 15 | 12 | 14 | 14 | 16 | 17 | 16 | 19 | 11 | 9 | 9 | 4 | 9.49 | |
| 女 | 113 | 3 | 0 | 4 | 4 | 5 | 7 | 9 | 4 | 8 | 5 | 5 | 7 | 9 | 9 | 6 | 7 | 9 | 9 | 3 | 9.8 |
| 男 | 82 | 1 | 0 | 1 | 4 | 2 | 3 | 6 | 7 | 6 | 8 | 11 | 10 | 7 | 9 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 9.3 |
| 男女計 | 195 | 4 | 0 | 5 | 8 | 7 | 10 | 15 | 11 | 14 | 13 | 16 | 17 | 16 | 18 | 11 | 9 | 9 | 9 | 3 | 9.6 |
| 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |

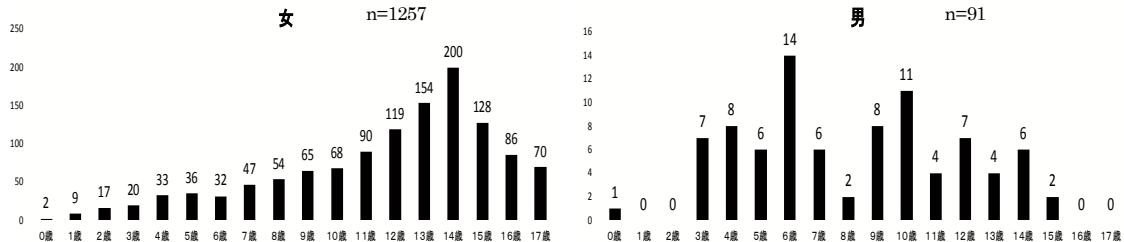


図12. 在宅(別件一時保護中を含む)で発見・発覚した性暴力被害事例(女)の年齢別状況

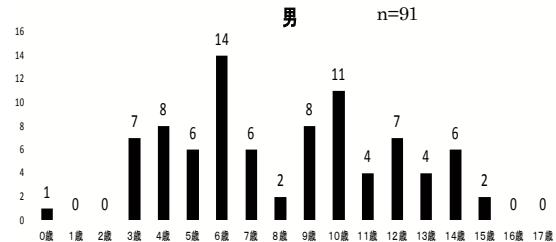


図13. 在宅(別件一時保護中を含む)で発見・発覚した性暴力被害事例(男)の年齢別状況

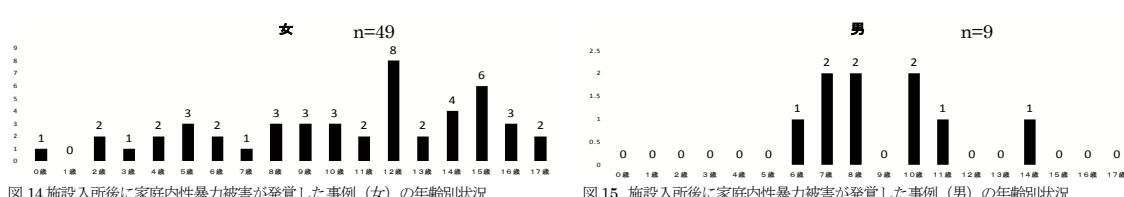


図14.施設入所後に家庭内性暴力被害が発覚した事例(女)の年齢別状況

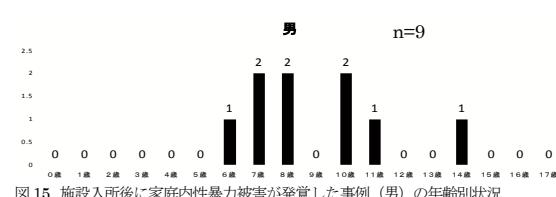


図15.施設入所後に家庭内性暴力被害が発覚した事例(男)の年齢別状況

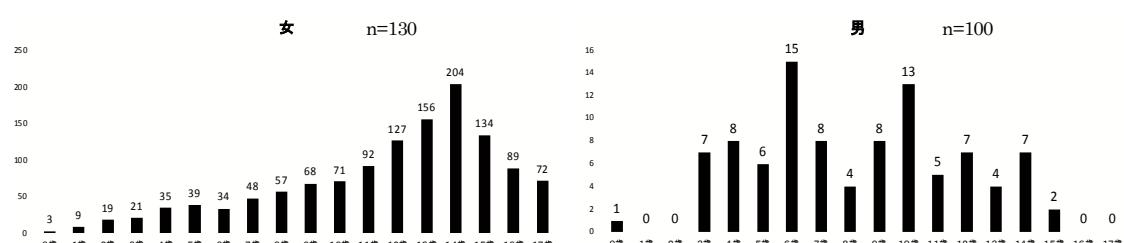


図16.在宅事例と施設入所後に家庭内性暴力が発覚した事例(女)の合計年齢別状況

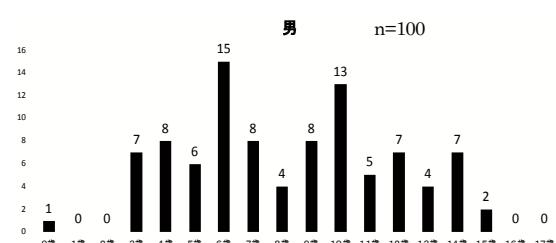


図17.在宅事例と施設入所後に家庭内性暴力が発覚した事例(男)の合計年齢別状況

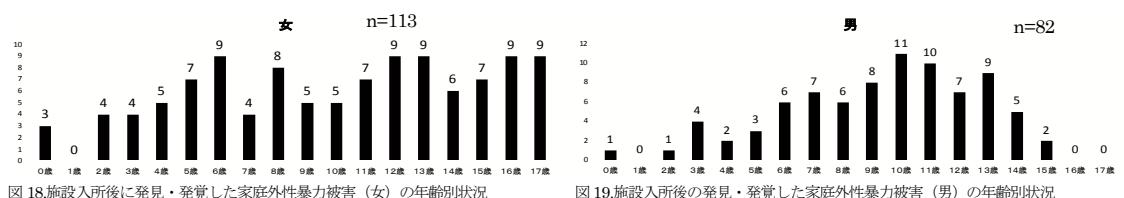


図18.施設入所後に発見・発覚した家庭外性暴力被害(女)の年齢別状況

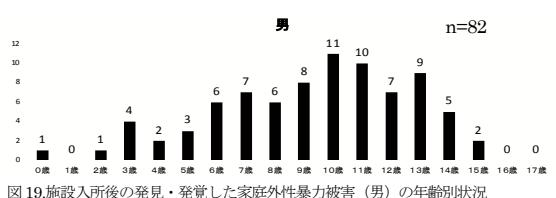


図19.施設入所後の発見・発覚した家庭外性暴力被害(男)の年齢別状況

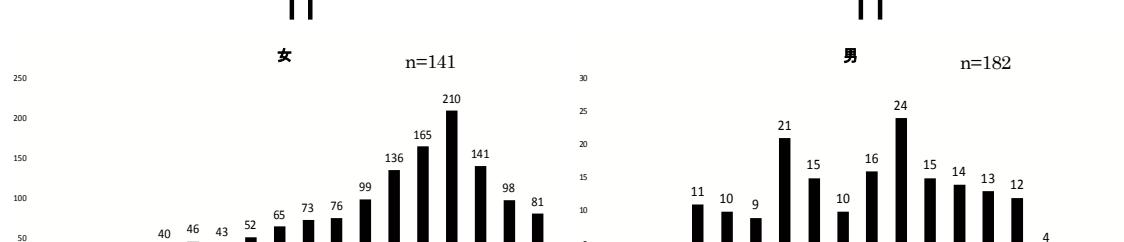


図20.家庭内・家庭外性暴力被害に遭った子ども(女)の総年齢別状況

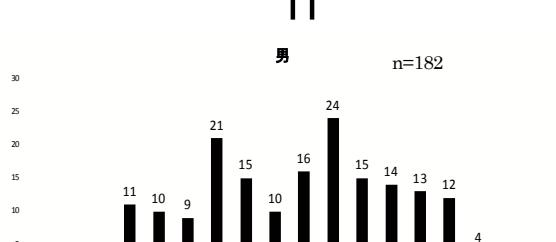


図21.家庭内・家庭外性暴力被害に遭った子ども(男)の総年齢別状況

図12～図21を見ると、女性被害者の発覚・取扱い年齢のピークは14歳で、全体に被害者の年齢別件数は14歳を頂点とした山の形を描いています。これに対して男性はいずれの項目においても事例数が少ないた

め、個々の事例数のばらつきが全体に与える影響が強く、女性と同水準では比較しにくいが、就学前には6歳、小学生時では10歳と2つのピークが認められる。

いずれもこの項の調査基準は相談受理時の年齢であり、最初に被害にあった年齢ではない。実際の被害発生はこれよりも数年は差し引いた年代までの範囲が被害の初発年齢となるとみられる。そうしてみると、男性被害者の6歳と10歳のピークは、概ね3~6歳までの被害が発覚するのが6歳、その次に発覚するのが10歳ということを表しているのかもしれない。女性については11~12歳を境に件数が急増しており、被害発覚の時期が思春期の開始と重なっているとみられる。

全体的なパターンと異なっているのが施設入所後に何らかの家庭外性暴力被害の発見・発覚から対応開始した群である。この群については3)ー1①で述べた様に、おそらく部分的な集約しかできておらず、その全体を把握するには至っていない参考レベルのデータであるが、ほかの群と異なる特徴が3つある。

まず、1つ目の特徴は男女比において男性の比率が高いことである。これは統計的には一応の暫定的評価であるが、有意差に達している（表44）。施設入所中に家庭外性暴力被害の発見・発覚から対応を開始した群では、在宅で、あるいは施設入所後に家庭内性暴力被害の発見・発覚から対応開始した群のような大きな男女差は見られていない。その理由の一つは、この群は、施設入所中の子どもという条件から、在宅児童に比べてはるかに関与観察率が高い環境下にあることが挙げられる。こうした観察条件の違いがあれば、この程度の比率で男児の被害も発見され得るということかもしれない。もう一つの関与因子は在宅と施設という生活環境条件別の被害発生率の違いであるが、例えば在宅であっても家族構成、地域環境（都市部 農村部等）、家庭への人の出入りの状態、監護責任者の動向、生活空間の広さや構造等の関与は明らかにありそうだし、施設においてもそうした生活環境条件は多様であるが、それらの基礎データはこれまでの研究では得られていない。

表44 児童相談所が認知した家族内性暴力被害群と家族外性暴力被害群における男女の比率についての検討

| | | 被害者 | | |
|-------------|-----|------|-----|------|
| | | 女性 | 男性 | 計 |
| 加害・被害 関係 | 家庭内 | 1306 | 100 | 1406 |
| | 家庭外 | 113 | 82 | 195 |
| | 計 | 1419 | 182 | 1601 |

フィッシャーの直接確率 ***:1%有意 *:5%有意
 兩側P値 0.0000 **
 片側P値 0.0000 **
 CramerのV 0.3600
 YuleのQ 0.8091

在宅で性暴力被害の発覚があったもの（表38のA群）と施設入所後に家庭内性暴力被害が発覚したもの（表38のB-1、B-3群）の合計群（家族内と分類）と施設入所中に主として家庭外性暴力被害が発覚した群（表38のB-2、B-4群）の2群（家族外と分類）を、被害者の性別について検討した。

サンプルとして統制された母集団からの発生率比較ではないこと、B-2、B-4群として計上された事例が、ごく一部の事例群である可能性が高いこと、後を見るようにこの群にも家庭内性暴力被害の重複事例が含まれているなど、制約があり、統計的な意味は相対的な水準評価に過ぎないことに留意が必要である。

特徴の2番目は、年齢別の発見・発覚数において女性被害の場合、施設に在籍している被害者は在宅事例のように2歳から17歳までの、一貫した増加の傾向性を示していないということである。個々の件数が少ないので、全体の傾向性を示すに至らない条件にあるとしても、ほぼランダムに近い特徴を示している。これらが発覚した被害者側の特徴によるものか、あるいは環境側の発見率、あるいは被害の発生率としての特徴を示すのかはこのデータからは不明である。

特徴の3番目は、同じく年齢別の発見・発覚数における男性被害の場合である。個々の件数が極めて少ないので、全体の傾向性を示すには不十分であるが、ほかの男性被害の数値もあまり件数においては変わらない中で、異なるパターンを示している。明らかに同条件の女性被害者に比べて、10~13歳をピークにした山型の増減傾向が推定される。これが発覚条件の特徴を示すのか、被害発生の特徴を示すのかは不明であるが、いずれにしても女性と男性で異なるパターンが推測され、男女とも、在宅や家族内性暴力被害事例から発見・発覚して対応開始する群とは異なるパターンを示している。これらの特徴は今後の検討の際の参考事項として明記しておきたい。

③ 受付時期と取扱い時年齢、問題発覚時期の関係

本調査では、平成23年度中に児童相談所が実際に取り扱った事例のうち、何らかの形で性暴力被害が確認されているすべての事例を対象とした。したがって、当該年度の相談受理の有無、受理内容区分は一切無視し、実質的に対応したすべての事例を対象とするように要請している。

結果的には平成 23 年度に相談開始した事例に加え、平成 23 年度以前に相談開始、性暴力被害の発覚があつた事例を多数含むことになった。その中には平成 23 年度中には相談受理手続きが取られていないが、実質的には対応が続いている事例、平成 23 年度以前には性暴力被害事案としての対応があつたが、平成 23 年度には別の相談理由での相談受理があつた事例などが含まれている。児童相談の実態において、一つの特徴的な問題をくくりだそうとするとこのような複雑な要素を識別することを調査として要請することになる。

まず、最初の問題発覚時期について 23 年度中とそれ以前の事例を区分すると表 45 のようになる。全体で 1614 件中、1046 件 : 64.8% は当該年度中の受理事案であるが、555 件 : 34.4% は平成 23 年度以前の年度の受付・相談経過において何らかの性暴力被害が認知され、かつその相談対応が平成 23 年度中にも継続していた事案である。その中には平成 23 年度には相談受理手続きが無く、統計としては件数報告されていないものや、別の相談理由で受理され、その件数が報告されているものが含まれている。

実際に児童相談所が取り扱った実態としてみるには、それらの過年度の事例をすべて当該平成 23 年度 4 月時点（平成 23 年度 4 月 2 日時点）における学年で年齢区分表記することが必要だが、その項の回答率は表 46 のように低く、実効性あるデータとはならなかった。

推定的にみると、少なくとも 1 学年度以上学年が上がる個数が各調査区分で 28.6%～66.7% あり、在宅+施設入所後に発覚した家庭内性暴力被害群合計群では 36.3%～38%、施設入所後の家庭外性暴力被害群で 34.2%～35.2% あるがそれ以上の推定は不能である。

表 45. 報告事例の相談受理年度別、男女別件数 及び平成 23 年度 4 月 2 日時点での学年別回答率

| 調査分類 | 性別 | 件数 | 平成 23 年度中 | 平成 23 年度以前からの継続 | 無回答 |
|---------|------|------|-----------|-----------------|-----|
| A | 女性 | 1257 | 827 | 422 | 8 |
| | 男性 | 91 | 65 | 26 | 0 |
| | 男女計 | 1348 | 892 | 448 | 8 |
| | 報告合計 | 1354 | 897 | 449 | 8 |
| | 欠損値 | 6 | 5 | 1 | 0 |
| B1 | 女性 | 8 | 2 | 4 | 2 |
| | 男性 | 3 | 1 | 2 | 0 |
| | 男女計 | 11 | 3 | 6 | 2 |
| | 報告合計 | 11 | 3 | 6 | 2 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B3 | 女性 | 41 | 22 | 19 | 0 |
| | 男性 | 6 | 2 | 4 | 0 |
| | 男女計 | 47 | 24 | 23 | 0 |
| | 報告合計 | 49 | 24 | 24 | 1 |
| | 欠損値 | 2 | 0 | 1 | 1 |
| B2 | 女性 | 18 | 9 | 9 | 0 |
| | 男性 | 13 | 5 | 8 | 0 |
| | 男女計 | 31 | 14 | 17 | 0 |
| | 報告合計 | 31 | 14 | 17 | 0 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B4 | 女性 | 95 | 63 | 32 | 0 |
| | 男性 | 69 | 44 | 24 | 1 |
| | 男女計 | 164 | 107 | 56 | 1 |
| | 報告合計 | 169 | 108 | 59 | 2 |
| | 欠損値 | 5 | 1 | 3 | 1 |
| A+B1+B2 | 女性 | 1306 | 851 | 445 | 10 |
| | 男性 | 100 | 68 | 32 | 0 |
| | 男女計 | 1406 | 919 | 477 | 10 |
| | 報告合計 | 1414 | 924 | 479 | 11 |
| | 欠損値 | 8 | 5 | 2 | 1 |
| B2+B4 | 女性 | 113 | 72 | 41 | 0 |
| | 男性 | 82 | 49 | 32 | 1 |
| | 男女計 | 195 | 121 | 73 | 1 |
| | 報告合計 | 200 | 122 | 76 | 2 |
| | 欠損値 | 5 | 1 | 3 | 1 |
| 総計 | 女性 | 1419 | 923 | 486 | 10 |
| | 男性 | 182 | 117 | 64 | 1 |
| | 男女計 | 1601 | 1040 | 550 | 11 |
| | 報告合計 | 1614 | 1046 | 555 | 13 |
| | 欠損値 | 13 | 6 | 5 | 2 |

表 46. 4 月 2 日時点の学年についての回答率

| 調査区分 | 性別 | 回答率 |
|-------|------|--------|
| A | 女性 | 48.8% |
| | 男性 | 49.5% |
| | 報告合計 | 48.8% |
| B - 1 | 女性 | 75.0% |
| | 男性 | 100.0% |
| B - 3 | 報告合計 | 81.8% |
| | 女性 | 85.4% |
| B - 2 | 男性 | 66.7% |
| | 報告合計 | 79.6% |
| B - 4 | 女性 | 55.6% |
| | 男性 | 53.8% |
| | 報告合計 | 54.8% |
| B - 4 | 女性 | 56.8% |
| | 男性 | 56.5% |
| | 報告合計 | 56.8% |

④ 主たる被害の種類

各個票として回収された事例は、その主たる被害内容から3)ー1①の表38で提示したA~B-4の群に分類して集計しているが、事例ごとに、児童相談所の相談受理時の被害種別を尋ねている。その結果を表47、図22~25に示す。

これをみると、まず、児童相談所が対応している子どもの性暴力被害事案のうち、性的虐待は男女とも実数でみると全体の40~50%台であることが分かる。全事例合計1614件中、男女計866事例：53.7%である。これに家族・親族・同居人からの被害を加えて、家庭内性暴力被害合計としてみると1263件：78.3%となる。男女の内訳は、女性1147件80.8%、男性109件：59.9%である（性別無記入の欠損値は7件）。

在宅事例と施設入所後、入所中に家庭内性暴力被害の発覚・発見から対応開始した事例に限定すると家庭内性暴力被害事例は男女とも85%に達する（性的虐待だけでは女性：59.1%、男性：63.0%である：性別無記入の欠損値7件）。

また、事例の中核に家庭内性暴力被害があるとされながら、受付相談種別では家庭外性暴力や不特定の者からの性暴力被害、および重複被害となっているものが家庭内性暴力被害事案の15%前後を占める。これらの事例では多数の被害が重複しており、その発覚の経緯からは家庭内性暴力被害が最初には発見されず、後に判明したものとみられる。

施設入所中に家庭外性暴力被害の発覚・発見から対応が開始された群にも、結果的に家庭内性暴力被害も認められている事例がある。B-2+B4群の28%で家庭内性暴力被害が認められており、特にB-2群：被害発覚の後に施設から再一時保護された群では、事例の全体数が少ない（グラフにするとその全体がほかの表の1目盛の中に入ってしまう）ものの、女性で55.6%、男性で30.8%が家庭内性暴力被害がみつかっている事例であることが注目される。

これらの事例では施設入所の同意取り消しや家族から被害を受ける危険性から被害者を守る必要性があつて、生活している施設から再分離する必要があつた可能性がある。またB-4群：施設入所中に家庭外性暴力被害の発覚・発見から対応が開始され、施設からの再一時保護無しに、その施設で対応継続した群の中にも家庭内性暴力被害がみとめられている事例が24.6%認められ、女性で29.2%、男性で27.5%となっており、ここだけは件数においても男女差がみられなかつたが、やはり家庭内性暴力被害の重複例が多数見つかっている。

これらの相談状況から、今回の調査で報告された事例の特徴をみると、家庭内性暴力事案が全体に占める率が高い。児童相談所の対応においてまず重点的に識別される子どもの性暴力被害事案は、親権者との関係においてしばしば介入的対応が必要となる家庭内性暴力被害事案であるとみられる。家庭内性暴力被害が疑われる事案では、児童相談所は安全確認と一時保護の判断、親権に対する児童福祉法上の判断責任を、権限執行機関として担当しているので、それらの事案は検索可能な形で情報把握されているとみられる。

これに較べると、そのほかの事案では、子どもの居場所や問題発覚の経過によっては児童相談所が常時、突出した対応を迫られているのではないために、相談受理の仕方、相談内容の認知の優先順位として、性暴力被害事案が特記的に検索可能な情報システムに組み込まれていない可能性が高い。例えば施設入所中の子どもに関する性暴力被害問題は、それが突出した処遇上の問題に発展せず、疑いの段階や指導上の配慮、注意工夫に留まる場合には、「施設指導上」の相談案件の内訳情報になり、個別事例情報としては記録されていても、年度単位の情報検索では「施設指導上の相談事案」の中に埋もれている、などの状況が推定される。それらの事例は本調査のような前年度に関する検索に際しては、容易に抽出できない状態にあるとみられる。

表47. 児童相談所が対応した性暴力被害事案の児童相談所での被害種別状況（平成23年度）項目下段は横構成比

| 調査分類 | 性別 | 件数 | 性的虐待 | 家庭内性暴力被害 | 家庭外性暴力被害 | 別件一時保護中性暴力被害 | 特定者からの被害 | その他重複被害 | 無回答 | 性的虐待・家庭内の性暴力 |
|---------|------|-------|------|----------|----------|--------------|----------|---------|------|--------------|
| | | | | | | | | | | 被害の全體 |
| A | 報告合計 | 1354 | 810 | 348 | 134 | 8 | 13 | 16 | 25 | 1158 |
| | | 100.0 | 59.8 | 25.7 | 9.9 | 0.6 | 1.0 | 1.2 | 1.8 | 85.5 |
| | 女性 | 1257 | 747 | 326 | 130 | 5 | 13 | 13 | 23 | 1073 |
| | | 100.0 | 59.4 | 25.9 | 10.3 | 0.4 | 1.0 | 1.0 | 1.8 | 85.4 |
| | 男性 | 91 | 59 | 20 | 4 | 3 | - | 3 | 2 | 79 |
| B1 | | 100.0 | 64.8 | 22.0 | 4.4 | 3.3 | - | 3.3 | 2.2 | 86.8 |
| | 男女計 | 1348 | 806 | 346 | 134 | 8 | 13 | 16 | 25 | 1152 |
| | | 100.0 | 59.8 | 25.7 | 9.9 | 0.6 | 1.0 | 1.2 | 1.9 | 85.5 |
| | 欠損値 | 6 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| | 報告合計 | 11 | 6 | 2 | - | - | - | 1 | 2 | 8 |
| B3 | | 100.0 | 54.5 | 18.2 | - | - | - | 9.1 | 18.2 | 72.7 |
| | 女性 | 8 | 4 | 2 | - | - | - | 1 | 1 | 6 |
| | | 100.0 | 50.0 | 25.0 | - | - | - | 12.5 | 12.5 | 75.0 |
| | 男性 | 3 | 2 | - | - | - | - | - | - | 2 |
| | 男女計 | 11 | 6 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 66.7 |
| B2 | | 100.0 | 54.5 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 18.2 | 72.7 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 報告合計 | 49 | 24 | 17 | 1 | - | - | 4 | 3 | 41 |
| | | 100.0 | 49.0 | 34.7 | 2.0 | - | - | 8.2 | 6.1 | 83.7 |
| | 女性 | 41 | 21 | 14 | 1 | - | - | 3 | 2 | 35 |
| B4 | | 100.0 | 51.2 | 34.1 | 2.4 | - | - | 7.3 | 4.9 | 85.4 |
| | 男性 | 6 | 2 | 3 | - | - | - | 1 | - | 5 |
| | | 100.0 | 33.3 | 50.0 | - | - | - | 16.7 | - | 83.3 |
| | 男女計 | 47 | 23 | 17 | 1 | 0 | 0 | 4 | 2 | 40 |
| | | 100.0 | 48.9 | 36.2 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 8.5 | 4.3 | 85.1 |
| A+B1+B3 | 欠損値 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| | 報告合計 | 31 | 3 | 11 | 14 | - | 1 | 2 | - | 14 |
| | | 100 | 9.7 | 35.5 | 45.2 | - | 3.2 | 6.5 | - | 45.2 |
| | 女性 | 18 | 2 | 8 | 7 | - | 1 | - | - | 10 |
| | | 100 | 11.1 | 44.4 | 38.9 | - | 5.6 | - | - | 55.6 |
| B2+B4 | 男性 | 13 | 1 | 3 | 7 | - | - | 2 | - | 4 |
| | | 100 | 7.7 | 23.1 | 53.8 | - | - | 15.4 | - | 30.8 |
| | 男女計 | 31 | 3 | 11 | 14 | 0 | 1 | 2 | 0 | 14 |
| | | 100.0 | 9.7 | 35.5 | 45.2 | 0.0 | 3.2 | 6.5 | 0.0 | 45.2 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| A+B1+B3 | 報告合計 | 169 | 23 | 19 | 80 | 1 | 6 | 30 | 10 | 42 |
| | | 100.0 | 13.6 | 11.2 | 47.3 | 0.6 | 3.6 | 17.8 | 5.9 | 24.9 |
| | 女性 | 95 | 11 | 12 | 47 | - | 5 | 17 | 3 | 23 |
| | | 100.0 | 11.6 | 12.6 | 49.5 | - | 5.3 | 17.9 | 3.2 | 24.2 |
| | 男性 | 69 | 12 | 7 | 30 | 1 | - | 13 | 6 | 19 |
| B2+B4 | | 100.0 | 17.4 | 10.1 | 43.5 | 1.4 | - | 18.8 | 8.7 | 27.5 |
| | 男女計 | 164 | 23 | 19 | 77 | 1 | 5 | 30 | 9 | 42 |
| | | 100.0 | 14.0 | 11.6 | 47.0 | 0.6 | 3.0 | 18.3 | 5.5 | 25.6 |
| | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 報告合計 | 1414 | 840 | 367 | 135 | 8 | 13 | 21 | 30 | 1207 |
| B2+B4 | | 100.0 | 59.4 | 26.0 | 9.5 | 0.6 | 0.9 | 1.5 | 2.1 | 85.4 |
| | 女性 | 1306 | 772 | 342 | 131 | 5 | 13 | 17 | 26 | 1114 |
| | | 100.0 | 59.1 | 26.2 | 10.0 | 0.4 | 1.0 | 1.3 | 2.0 | 85.3 |
| | 男性 | 100 | 63 | 23 | 4 | 3 | 0 | 4 | 3 | 86 |
| | 男女計 | 1406 | 835 | 365 | 135 | 8 | 13 | 21 | 29 | 1200 |
| A+B1+B3 | | 100.0 | 59.4 | 26.0 | 9.6 | 0.6 | 0.9 | 1.5 | 2.1 | 85.3 |
| | 欠損値 | 8 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 7 |
| B2+B4 | 報告合計 | 200 | 26 | 30 | 94 | 1 | 7 | 32 | 10 | 56 |
| | | 100.0 | 13.0 | 15.0 | 47.0 | 0.5 | 3.5 | 16.0 | 5.0 | 28.0 |
| | 女性 | 113 | 13 | 20 | 54 | 0 | 6 | 17 | 3 | 33 |
| | | 100.0 | 11.5 | 17.7 | 47.8 | 0.0 | 5.3 | 15.0 | 2.7 | 29.2 |
| | 男性 | 82 | 13 | 10 | 37 | 1 | 0 | 15 | 6 | 23 |
| B2+B4 | | 100.0 | 15.9 | 12.2 | 45.1 | 1.2 | 0.0 | 18.3 | 7.3 | 28.0 |
| | 男女計 | 195 | 26 | 30 | 91 | 1 | 6 | 32 | 9 | 56 |
| | | 100.0 | 13.3 | 15.4 | 46.7 | 0.5 | 3.1 | 16.4 | 4.6 | 28.7 |
| | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| | 報告合計 | 1614 | 866 | 397 | 229 | 9 | 20 | 53 | 40 | 1263 |
| B2+B4 | | 100.0 | 53.7 | 24.6 | 14.2 | 0.6 | 1.2 | 3.3 | 2.5 | 78.3 |
| | 女性 | 1419 | 785 | 362 | 185 | 5 | 19 | 34 | 29 | 1147 |
| | | 100.0 | 55.3 | 25.5 | 13.0 | 0.4 | 1.3 | 2.4 | 2.0 | 80.8 |
| | 男性 | 182 | 76 | 33 | 41 | 4 | 0 | 19 | 9 | 109 |
| | 男女計 | 1601 | 861 | 395 | 226 | 9 | 19 | 53 | 38 | 1256 |
| A+B1+B3 | | 100.0 | 53.8 | 24.7 | 14.1 | 0.6 | 1.2 | 3.3 | 2.4 | 78.5 |
| | 欠損値 | 13 | 5 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 2 | 7 |

上記表中：空欄は元データ段階「0」の意味 集計値は0表記している

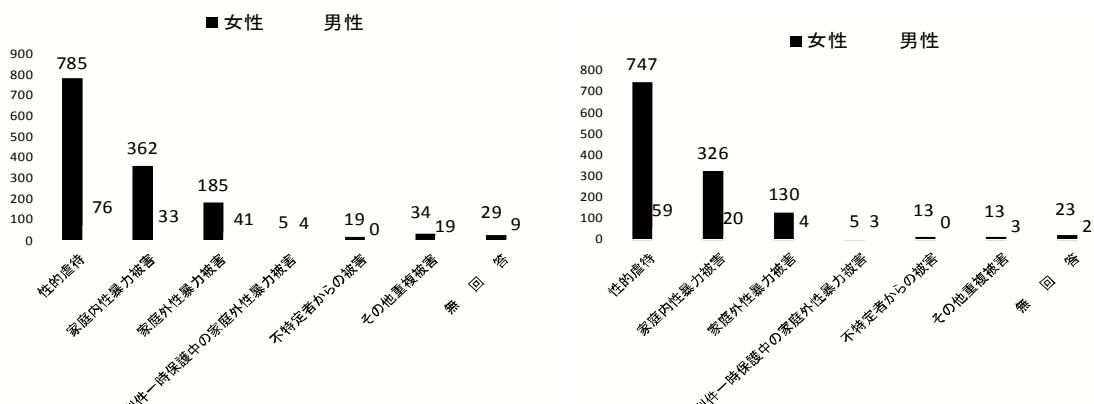


図 22. 性暴力被害事例（全数）の男女別相談種別状況（平成 23 年度）

図 23. 性暴力被害事例の男女別相談種別別状況：在宅で発覚した事例（平成 23 年度）

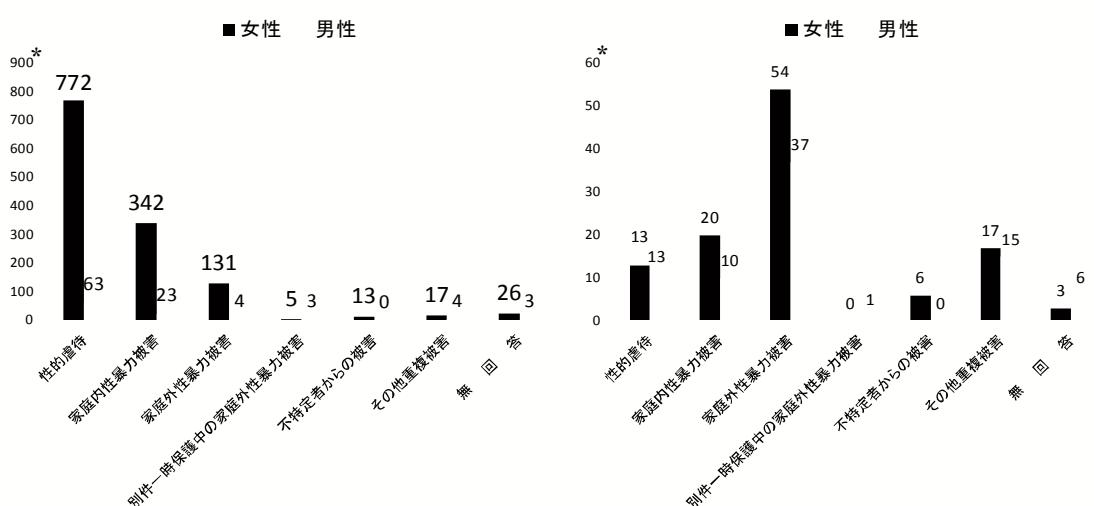


図 24. 性暴力被害事例の男女別相談種別別状況：家庭内性暴力事例の全体（平成 23 年度）

図 25. 性暴力被害事例の男女別相談種別別状況：施設入所中の家庭外性暴力被害事例（平成 23 年度）

* 右図 25 の表の縦目盛全体が左図 24 の縦目盛では 1 目盛内に入ってしまうことに注意

⑤ 性暴力被害以外の問題

性暴力被害の多くの事例は性暴力被害問題以外にも複雑な背景を持つことが多く、それらが性暴力被害の表面化が発火点となり、多問題の噴出状態となるか、逆に潜伏化して地雷原のようになることは、多くの事例経験者が知るところである。今回の調査事例についても性的虐待以外の問題を複数重複回答で尋ねたところ、その複雑な様相が浮かび上がった。表 48、図 26 にその全体像を示す。ただし、家族背景や保護者自身の問題までは今回の調査では尋ねていないのでその詳細は分からぬ。

全体に在宅での性暴力被害発覚事例では、別に随伴する問題を示さなかった事例が無回答として 30% 前後認められるが施設入所後に性暴力被害問題が発見・発覚した事例では随伴する問題が報告されなかつたのはおよそ 10% 台である。したがって少なくとも在宅の事例でほぼ 70%、施設入所事例でおよそ 80~90% は何らかの別の問題が併存して確認されていることになる。

共通して高い随伴率を示しているのはネグレクトと身体的虐待である。在宅と家庭内性暴力問題ではネグレクトは 26~27% の事例に認められ、身体的虐待は 18~19% の事例に認められる。心理的虐待は次に多い知的障害と並んで 10% 台である。

施設入所以後の性暴力被害問題の発見・発覚事例では当然ながら家庭養育困難としての養育問題が高い数値を示している（40% 台）が、ネグレクト 22.1%、身体的虐待 16.4% とこれも高い数値を示している。

表 48. 性暴力被害での相談事例における性暴力被害以外の問題状況 (平成 23 年度 性暴力被害事例 1614 件)

| 調査分類 | 性別 | 件数 | 身体的虐待 | ネグレクト | 心理的虐待 | DV 問題 | 養育困難 | 障害問題(知的) | 障害問題(身体) | 障害問題(聴覚) | 障害問題(視覚) | 障害問題(重心) | 障害問題(発達障害) | 障害問題(自閉) | 心体障害(発達問題、視覚的、知的、重身) | 性格・行動 | 育成 | 非行 | その他 | 無回答 | |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|------|----------|----------|----------|----------|----------|------------|----------|----------------------|-------|-----|------|------|------|------|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A | 報告合計 | 1354 | 246 | 363 | 173 | 135 | 81 | 138 | 5 | 5 | 1 | - | 28 | 6 | 2 | 88 | 21 | 106 | 26 | 441 | |
| | | 100.0 | 18.2 | 26.8 | 12.8 | 10.0 | 6.0 | 10.2 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | - | 2.1 | 0.4 | 0.1 | 6.5 | 1.6 | 7.8 | 1.9 | 32.6 | |
| | 女性 | 1257 | 220 | 332 | 161 | 127 | 73 | 122 | 5 | 5 | 1 | - | 25 | 4 | 2 | 83 | 18 | 103 | 24 | 417 | |
| | | 100.0 | 17.5 | 26.4 | 12.8 | 10.1 | 5.8 | 9.7 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | - | 2.0 | 0.3 | 0.2 | 6.6 | 1.4 | 8.2 | 1.9 | 33.2 | |
| | 男性 | 91 | 26 | 28 | 12 | 7 | 7 | 16 | - | - | - | - | 3 | 2 | - | 4 | 2 | 3 | 2 | 23 | |
| 男女合計 | 1348 | 246 | 360 | 173 | 134 | 80 | 138 | 5 | 5 | 1 | 0 | 28 | 6 | 2 | 87 | 20 | 106 | 26 | 440 | | |
| | | 100.0 | 18.2 | 26.7 | 12.8 | 7.7 | 5.9 | 10.2 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.1 | 0.4 | 0.1 | 6.5 | 1.5 | 7.9 | 1.9 | 32.6 | |
| B1 | 欠損値 | 6 | 0 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | |
| | 報告合計 | 11 | 3 | 6 | 1 | - | 3 | 1 | - | - | - | - | 3 | - | - | 1 | - | 1 | 1 | - | |
| | | 100.0 | 27.3 | 54.5 | 9.1 | - | 27.3 | 9.1 | - | - | - | - | 27.3 | - | - | 9.1 | - | 9.1 | 9.1 | - | |
| | 女性 | 8 | 3 | 3 | 1 | - | 3 | - | - | - | - | - | 2 | - | - | - | - | - | 1 | - | |
| | | 100.0 | 37.5 | 37.5 | 12.5 | - | 37.5 | - | - | - | - | - | 25.0 | - | - | - | - | - | 12.5 | - | |
| B3 | 男性 | 3 | - | 3 | - | - | - | 1 | - | - | - | - | 1 | - | - | 1 | - | 1 | - | - | |
| | | 100.0 | - | 100.0 | - | - | - | 33.3 | - | - | - | - | 33.3 | - | - | 33.3 | - | 33.3 | - | - | |
| B4 | 男女合計 | 11 | 3 | 6 | 1 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 1 | 0 | |
| | | 100.0 | 27.3 | 54.5 | 9.1 | 0.0 | 27.3 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 27.3 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 | 9.1 | 9.1 | 0.0 | |
| B2 | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 報告合計 | 49 | 18 | 18 | 2 | 3 | 20 | 3 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | 3 | 1 | 2 | 1 | 3 | |
| | | 100.0 | 36.7 | 36.7 | 4.1 | 6.1 | 40.8 | 6.1 | 2.0 | 2.0 | - | - | - | - | - | 6.1 | 2.0 | 4.1 | 2.0 | 6.1 | |
| | 女性 | 41 | 17 | 13 | 2 | 3 | 16 | 3 | 1 | 1 | - | - | - | - | - | 3 | - | 2 | 1 | 2 | |
| | | 100.0 | 41.5 | 31.7 | 4.9 | 7.3 | 39.0 | 7.3 | 2.4 | 2.4 | - | - | - | - | - | 7.3 | - | 4.9 | 2.4 | 4.9 | |
| B5 | 男性 | 6 | - | 5 | - | - | 4 | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | - | - | - | |
| | | 100.0 | - | 83.3 | - | - | 66.7 | - | - | - | - | - | - | - | - | 16.7 | - | - | - | - | |
| B6 | 男女合計 | 47 | 17 | 18 | 2 | 3 | 20 | 3 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 2 | 1 | 2 | |
| | | 100.0 | 36.2 | 38.3 | 4.3 | 6.4 | 42.6 | 6.4 | 2.1 | 2.1 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 6.4 | 2.1 | 4.3 | 2.1 | 4.3 | |
| B7 | 欠損値 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| | 報告合計 | 31 | 5 | 7 | 4 | 1 | 6 | 4 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | 3 | 4 | 9 | 29 | |
| | | 100.0 | 16.1 | 22.6 | 12.9 | 3.2 | 19.4 | 12.9 | - | - | - | - | - | - | - | 3.2 | 9.7 | - | 12.9 | - | |
| | 女性 | 18 | 3 | 1 | 2 | - | 4 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | 1 | - | 4 | - | 6 | |
| | | 100.0 | 16.7 | 5.6 | 11.1 | - | 22.2 | 5.6 | - | - | - | - | - | - | - | 5.6 | - | 22.2 | - | 33.3 | |
| B8 | 男性 | 13 | 2 | 6 | 2 | 1 | 2 | 3 | - | - | - | - | - | - | - | 3 | - | - | - | 3 | |
| | | 100.0 | 15.4 | 46.2 | 15.4 | 7.7 | 15.4 | 23.1 | - | - | - | - | - | - | - | 23.1 | - | - | - | 23.1 | |
| B9 | 男女合計 | 31 | 5 | 7 | 4 | 1 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 | 0 | 9 | |
| | | 100.0 | 16.1 | 22.6 | 12.9 | 3.2 | 19.4 | 12.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.2 | 9.7 | 0.0 | 12.9 | 0.0 | 29.0 |
| B10 | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | 報告合計 | 169 | 29 | 36 | 11 | 2 | 72 | 27 | 2 | 1 | - | - | 7 | - | - | 6 | 3 | 8 | 4 | 20 | |
| | | 100.0 | 17.2 | 21.3 | 6.5 | 1.2 | 42.6 | 16.0 | 1.2 | - | 0.6 | - | 4.1 | - | - | 3.6 | 1.8 | 4.7 | 2.4 | 11.8 | |
| | 女性 | 95 | 14 | 26 | 6 | 1 | 40 | 16 | 1 | - | 1 | - | 4 | - | - | 5 | 3 | 6 | 3 | 11 | |
| | | 100.0 | 14.7 | 27.4 | 6.3 | 1.1 | 42.1 | 16.8 | 1.1 | - | 1.1 | - | 4.2 | - | - | 5.3 | 3.2 | 6.3 | 3.2 | 11.6 | |
| B11 | 男性 | 69 | 13 | 10 | 5 | 1 | 32 | 10 | - | - | - | - | 3 | - | - | 1 | - | 2 | - | 7 | |
| | | 100.0 | 18.8 | 14.5 | 7.2 | 1.4 | 46.4 | 14.5 | - | - | - | - | 4.3 | - | - | 1.4 | - | 2.9 | - | 10.1 | |
| B12 | 男女合計 | 164 | 27 | 36 | 11 | 2 | 72 | 26 | 1 | 0 | 1 | 0 | 7 | 0 | 0 | 6 | 3 | 8 | 3 | 18 | |
| | | 100.0 | 16.5 | 22.0 | 6.7 | 1.2 | 43.9 | 15.9 | 0.6 | 0.0 | 0.6 | 0.0 | 4.3 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 1.8 | 4.9 | 1.8 | 11.0 | |
| B13 | 欠損値 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | |
| | 報告合計 | 1414 | 267 | 387 | 176 | 138 | 104 | 142 | 6 | 1 | 0 | 31 | 6 | 2 | 92 | 22 | 109 | 28 | 444 | | |
| | | 100.0 | 18.9 | 27.4 | 12.4 | 9.8 | 7.4 | 10.0 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.2 | 0.4 | 0.1 | 6.5 | 1.6 | 7.7 | 2.0 | 31.4 | | |
| | 女性 | 1306 | 240 | 348 | 164 | 130 | 92 | 125 | 6 | 6 | 1 | 0 | 27 | 4 | 2 | 86 | 18 | 105 | 26 | 419 | |
| | | 100.0 | 18.4 | 26.6 | 12.6 | 10.0 | 7.0 | 9.6 | 0.5 | 0.5 | 0.1 | 0.0 | 2.1 | 0.3 | 0.2 | 6.6 | 1.4 | 8.0 | 2.0 | 32.1 | |
| B14 | 男性 | 100 | 26 | 36 | 12 | 7 | 11 | 17 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 2 | 0 | 5 | 3 | 4 | 2 | 23.0 | |
| | | 100.0 | 26.0 | 36.0 | 12.0 | 7.0 | 11.0 | 17.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 4.0 | 2.0 | 0.0 | 5.0 | 3.0 | 4.0 | 2.0 | 23.0 | |
| B15 | 男女合計 | 1406 | 266 | 384 | 176 | 137 | 103 | 142 | 6 | 6 | 1 | 0 | 31 | 6 | 2 | 91 | 21 | 109 | 28 | 442 | |
| | | 100.0 | 18.9 | 27.3 | 12.5 | 9.7 | 7.3 | 10.1 | 0.4 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.2 | 0.4 | 0.1 | 6.5 | 1.5 | 7.8 | 2.0 | 31.4 | |
| B16 | 欠損値 | 8 | 1 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | |
| | 報告合計 | 200 | 34 | 43 | 15 | 3 | 78 | 31 | 2 | 0 | 1 | 0 | 7 | 0 | 1 | 9 | 3 | 12 | 4 | 29 | |
| | | 100.0 | 17.0 | 21.5 | 7.5 | 1.5 | 39.0 | 15.5 | 1.0 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 3.5 | 0.0 | 0.5 | 4.5 | 1.5 | 6.0 | 2.0 | 14.5 | |
| | 女性 | 113 | 17 | 27 | 8 | 1 | 44 | 17 | 1 | 0 | 1 | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 5 | 3 | 10 | 3 | 17 |
| | | 100.0 | 15.0 | 23.9 | 7.1 | 0.9 | 38.9 | 15.0 | 0.9 | 0.0 | 0.4 | 0.0 | 3.5 | 0.0 | 0.9 | 4.4 | 2.7 | 8.8 | 2.7 | 15.0 | |
| B17 | 男性 | 82 | 15 | 16 | 7 | 2 | 34 | 13 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 10 |
| | | 100.0 | 18.3 | 19.5 | 8.5 | 2.4 | 41.5 | 15.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 3.7 | 0.0 | 0.0 | 4.9 | 0.0 | 2.4 | 0.0 | 12.2 | |
| B18 | 男女合計 | 195 | 32 | 43 | 15 | 3 | 78 | 30 | 1 | 0 | 1 | 0 | 7 | 0 | 0 | 1 | 9 | 3 | 12 | 3 | 27 |
| | | 100.0 | 16.4 | 22.1 | 7.7 | 1.5 | 40.0 | 15.4 | 0.5 | 0.0 | 0.5 | 0.0 | 3.6 | 0.0 | 0.5 | 4.6 | 1.5 | 6.2 | 1.5 | 13.8 | |
| B19 | 欠損値 | 5 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | |
| | 報告合計 | 1614 | 301 | 430 | 191 | 141 | 182 | 173 | 8 | 6 | 2 | 0 | 38 | 6 | 3 | 101 | 25 | 121 | 32 | 473 | |
| | | 100.0 | 18.6 | 26.6 | 11.8 | 8.7 | 11.3 | 10.7 | 0.5 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.4 | 0.4 | 0.2 | 6.3 | 1.5 | 7.5 | 2.0 | 29.3 | |
| | 女性 | 1419 | 257 | 375 | 172 | 131 | 136 | 142 | 7 | 6 | 2 | 0 | 31 | 4 | 3 | 91 | 21 | 115 | 29 | 436 | |
| | | 100.0 | 18.1 | 26.4 | 12.1 | 9.2 | 9.6 | 10.0 | 0.5 | 0.4 | 0.1 | 0.0 | 2.2 | 0.3 | 0.2 | 6.4 | 1.5 | 8.1 | 2.0 | 30.7 | |
| B20 | 男性 | 182 | 41 | 52 | 19 | 9 | 45 | 30</ | | | | | | | | | | | | | |

フィッシャーの直接確率

| | DV問題 | | |
|----------|------|------|------|
| | あり | なし | 計 |
| 家庭内性暴力問題 | 138 | 1276 | 1414 |
| 家庭外性暴力問題 | 3 | 197 | 200 |
| 計 | 141 | 1473 | 1614 |

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

両側P値 0.0000 **

片側P値 0.0000 **

CramerのV 0.0964

YuleのQ 0.7531

DV問題は実質的潜在数にはもっと多いとみられるが、公的に確認されているのは、家庭内性暴力被害関係で9.7%、施設における家庭外性暴力被害関係で1.5%である。この差は統計的有意差に達している（表49）。

障害問題では知的障害が10%台で注目される。また重心以外すべての障害問題に性暴力被害事例が確認されている。発達障害は全体では2~3%台だが、施設入所後の家庭内性暴力発覚群に発達障害の比率がほかに比べて高い（施設入所後発覚した家庭内性暴力B1群：27.3%）。一部は虐待の後遺症としてのADHD様状態が含まれている可能性を感じさせる。

性格・行動問題と非行問題は全体で6~7%台と知的障害に次ぐ頻度群である。これらには性暴力被害の結果生じている問題群と性暴力被害以前から併行して発生していた問題が混在しているとみられる。

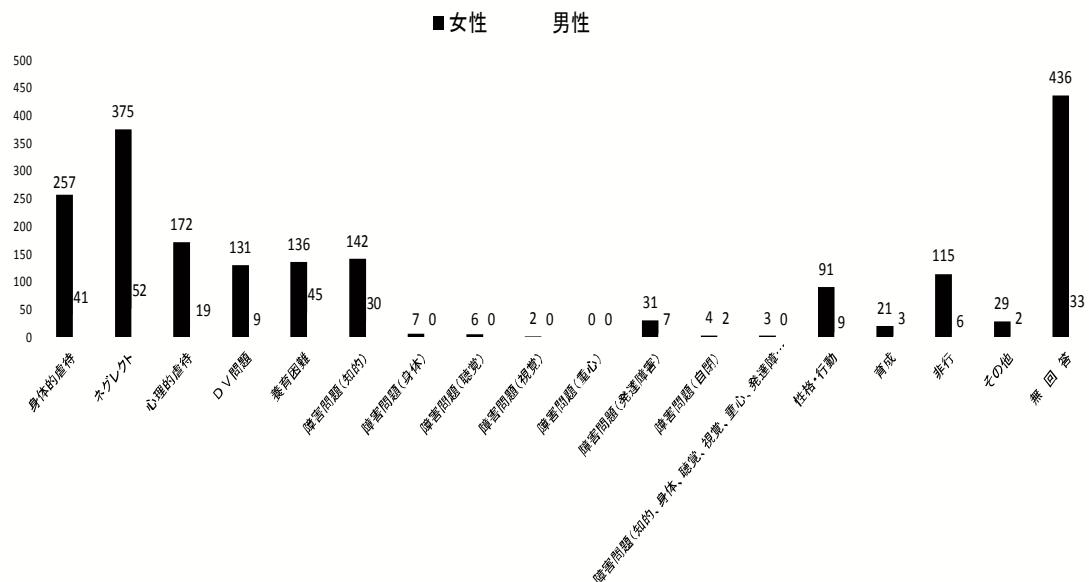


図26. 性暴力被害での相談事例における性暴力被害以外の男女別問題状況（平成23年度 性暴力被害事例1601件）

⑥ 特別な随伴問題：児童ポルノ、買春・援助交際問題

家庭内性暴力被害がほかの虐待と大きく異なるのは加害者の動機と目的に養育課題としての要件を含まず、もっぱら性的搾取と支配目的で行われる加害行為である点である。ほかの虐待と違い、犯罪的加害性がその要件の多くを占め、児童ポルノ問題、児童買春問題にも直接関係する。

家庭外性暴力被害はまさに犯罪被害そのものもあるが、今回取り上げている被害は施設という、家庭とは異なるが、もうひとつの子どもが暮らす日常生活の場における被害を取り上げている。ただこちらは十分な情報収集に至らなかったため、参考情報レベルに留まっている。

回収された事例情報では、児童ポルノ問題、児童買春問題の状況は表50のとおりである。また各問題について、在宅群と施設群での発生率の比較を試みた（表51、52）。

表50. 児童相談所における性暴力被害事例における児童ポルノ・買春関係問題の状況（平成23年度）

| | 性別 | 件数 | い画 児童 む問 題ル (疑・ 援) | 児童 む交 際買 春 疑・ い援 | 無回答 | | 性別 | 件数 | い画 児童 む問 題ル (疑・ 援) | 児童 む交 際買 春 疑・ い援 | 無回答 | |
|----|------|---------------|-----------------------------------|---------------------------------|--------------|--|---------|------|-----------------------------------|---------------------------------|-----------|--------------|
| A | 報告合計 | 1354 100.0 | 83 6.1 | 31 2.3 | 1244 91.9 | | B4 | 報告合計 | 169 100.0 | 2 1.2 | 3 1.8 | 164 97.0 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 80 6.4 | 31 2.5 | 1150 91.5 | | | 女性 | 95 100.0 | - | 3 3.2 | 92 96.8 |
| | 男性 | 91 100.0 | 3 3.3 | - | 88 96.7 | | | 男性 | 69 100.0 | 2 2.9 | - | 67 97.1 |
| | 男女合計 | 1348 100.0 | 83 6.2 | 31 2.3 | 1238 91.8 | | | 男女合計 | 164 100.0 | 2 1.2 | 3 1.8 | 159 97.0 |
| | 欠損値 | 6 | 0 | 0 | 6 | | | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| | | | | | | | | | | | | |
| B1 | 報告合計 | 11 100.0 | 2 18.2 | - | 9 81.8 | | A+B1+B3 | 報告合計 | 1414 100.0 | 86 6.1 | 31 2.2 | 1301 92.0 |
| | 女性 | 8 100.0 | 1 12.5 | - | 7 87.5 | | | 女性 | 1306 100.0 | 82 6.3 | 31 2.4 | 1197 91.7 |
| | 男性 | 3 100.0 | 1 33.3 | - | 2 66.7 | | | 男性 | 100 100.0 | 4 4.0 | 0 0.0 | 96 96.0 |
| | 男女合計 | 11 100.0 | 2 18.2 | 0 0.0 | 9 81.8 | | | 男女合計 | 1406 100.0 | 86 6.1 | 31 2.2 | 1293 92.0 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 欠損値 | 8 | 0 | 0 | 8 |
| | | | | | | | | | | | | |
| B3 | 報告合計 | 49 100.0 | 1 2.0 | - | 48 98.0 | | B2+B4 | 報告合計 | 200 100.0 | 2 1.0 | 4 2.0 | 194 97.0 |
| | 女性 | 41 100.0 | 1 2.4 | - | 40 97.6 | | | 女性 | 113 100.0 | 0 0.0 | 4 3.5 | 109 96.5 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | - | 6 100.0 | | | 男性 | 82 100.0 | 2 2.4 | 0 0.0 | 80 97.6 |
| | 男女合計 | 47 100.0 | 1 2.1 | 0 0.0 | 46 97.9 | | | 男女合計 | 195 100.0 | 2 1.0 | 4 2.1 | 189 96.9 |
| | 欠損値 | 2 | 0 | 0 | 2 | | | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 5 |
| | | | | | | | | | | | | |
| B2 | 報告合計 | 31 100.0 | - | 1 3.2 | 30 96.8 | | 総計 | 報告合計 | 1614 100.0 | 88 5.5 | 35 2.2 | 1495 92.6 |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 1 5.6 | 17 94.4 | | | 女性 | 1419 100.0 | 82 5.8 | 35 2.5 | 1306 92.0 |
| | 男性 | 13 100.0 | - | - | 13 100.0 | | | 男性 | 182 100.0 | 6 3.3 | 0 0.0 | 176 96.7 |
| | 男女合計 | 31 100.0 | 0 0.0 | 1 3.2 | 30 96.8 | | | 男女合計 | 1601 100.0 | 88 5.5 | 35 2.2 | 1482 92.6 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | | | 欠損値 | 13 | 0 | 0 | 13 |
| | | | | | | | | | | | | |

表 51. 児童ポルノ問題についての A・B 群比較
フィッシャーの直接確率

| | 児童ポルノ問題 | | 計 |
|---|---------|------|------|
| | あり | なし | |
| A | 83 | 1265 | 1348 |
| B | 5 | 248 | 253 |
| 計 | 88 | 1513 | 1601 |

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意
両側P値 0.0061 **
片側P値 0.0028 **

CramerのV 0.0669
YuleのQ 0.5299

表 52. 児童買春問題についての A・B 群比較
フィッシャーの直接確率

| | 児童買春問題 | | 計 |
|---|--------|------|------|
| | あり | なし | |
| A | 31 | 1317 | 1348 |
| B | 4 | 249 | 253 |
| 計 | 35 | 1566 | 1601 |

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意
両側P値 0.6403
片側P値 0.3297

CramerのV 0.0179
YuleのQ 0.1887

表 51、表 52 から、児童ポルノ問題は在宅事例を中心とした性暴力被害事例に集中しており、家庭内性暴力被害に多く、施設入所中の性暴力被害事例ではごくまれにしか発生・発見していないことが分かる。

児童買春は子ども自身からの行為を含み、在宅の性暴力被害群にも施設入所中の性暴力被害群においても発生・発見率に差はない（およそ 1~3% 前後）ことが認められる。

表 53 は表 50 の情報を圧縮したものだが、表 54 のような傾向が認められる。これをみると、B-1 群のみが児童ポルノ問題において発生・発見率が突出している。例数が少ないので慎重な判断が必要だが念のため、A 群との比較、ほかの B 群との比較を行ったところ、B 群の中では特異な兆候であることがうかがわれる。この点は後に検討する（A 群との比較では有意差は認めず、A 群と同類の特徴であることが認められた）。

表 53. 児童相談所が対応した性暴力被害事例における児童ポルノ問題と児童買春問題の出現率（平成 23 年度）

表 53 の児童ポルノ問題について B-1 群とそのほかの B 群を比較したところ 5% 水準で一応の傾向性は見られている（表 54）。

表 54. 施設入所中の性暴力被害事例における児童ポルノ問題の出現率非比較

| | 児童ポルノ問題 | | 計 |
|------|---------|-----|-----|
| | あり | なし | |
| 他の B | 3 | 239 | 242 |
| B-1 | 2 | 9 | 11 |
| 計 | 5 | 248 | 253 |

| | 件数 | 児童問題(～疑いノム)含・む画像 | 構成比(～発生率) | 際児童～疑い春・む～援助交 | 構成比(～発生率) | 無回答 |
|-----|------|------------------|-----------|---------------|-----------|------|
| A | 1348 | 83 | 6.2% | 31 | 2.3% | 1238 |
| B合計 | 253 | 5 | 2.0% | 4 | 1.6% | 244 |
| B-1 | 11 | 2 | 18.2% | 0 | 0.0% | 9 |
| B-3 | 47 | 1 | 2.1% | 0 | 0.0% | 46 |
| B-2 | 31 | 0 | 0.0% | 1 | 3.2% | 30 |
| B-4 | 164 | 2 | 1.2% | 3 | 1.8% | 159 |

3)ー3 在宅事例と施設入所中事例のその他の全体状況

① 発見・発覚の経緯

既に3)ー2においても在宅事例：A群と施設入所中事案：B群の状況についてみてきたが、ここで最初の発覚状況、通告状況をみておく。

性暴力被害の発見・発覚は在宅事例においては本人が誰かに被害を開示することから、通告となって児童相談所に被害の疑い情報が到達することが多い。それらの通告は通常、当人からの告白という分類ではなく、それを聞いて通告した通告者・機関が経路とされる。

平成16年の児童福祉法改正により、平成17年度からは市町村も虐待通告を受理することになり、しばしば通告受理後の初動対応としての安全確認は、市町村の通告受理部門が行うことが増えている。ただし、ガイドライン2011年版では、性的虐待の疑い通告に関しては、緊急の安全確認と調査のための保護の判断が必要となるため、できるだけ通告受理直後に、保護の判断を担当する児童相談所に対応開始できるように連絡・送致することが望ましいとしている。在宅事案(別件での一時保護中を含む)での通告の有無を表55に、市町村からの送致・通知の有無を表56に、通告の経路を表57に示す。

表55.在宅性暴力被害事例の通告の有無 (平成23年度)

| 性別 | 件数 | あり | なし | 無回答 |
|------|---------------|--------------|-------------|-----------|
| 報告合計 | 1354 100.0 | 1123 82.9 | 216 16.0 | 15 1.1 |
| 女性 | 1257 100.0 | 1042 82.9 | 200 15.9 | 15 1.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 77 84.6 | 14 15.4 | - |
| 男女合計 | 1348 100.0 | 1119 83.0 | 214 15.9 | 15 1.1 |
| 欠損値 | 6 | 4 | 2 | 0 |

表56.在宅性暴力被害事例の市町村からの送致・通知の有無 (平成23年度)

| 性別 | 件数 | あり | なし | 無回答 |
|------|---------------|-------------|-------------|-----------|
| 報告合計 | 1123 100.0 | 205 18.3 | 901 80.2 | 17 1.5 |
| 女性 | 1042 100.0 | 184 17.7 | 842 80.8 | 16 1.5 |
| 男性 | 77 100.0 | 21 27.3 | 55 71.4 | 1 1.3 |
| 男女合計 | 1119 100.0 | 205 18.3 | 897 80.2 | 17 1.5 |
| 欠損値 | 4 | 0 | 4 | 0 |

表55によれば、在宅の性暴力被害事例ではその82.9%：1123件が通告によって対応開始されている。比率に男女差はみられていない。

表56によれば、市町村からの送致・通知は18.3%：205件とあまり多くない。直接に通告された件数が多いとみられるが、市町村に通告されている性暴力被害事案の総数がわからないので、どの程度の割合で送致・通知がなされているのかはつかめない。

在宅からの性暴力被害事案における通告対応について表57に示す。この中で、市町村が受理した通告情報が転送・送致され、児童相談所が通告として対応したとみられる事例数は検索すると表58(男女別の欠損値も算入)のようになる。これを見る限り、市町村が受理した性暴力被害事案は児童相談所に連絡され、児童相談所の通告対応が開始されているとみることができる。

表57.在宅性暴力被害事例における通告経路の内容 (平成23年度)

| 性別 | 件数 | 保育所・学校幼稚 | 福祉事務所 | 児童本人 | 家族 | 親戚 | 近隣・知人 | 友人 | 児童委員 | 保健所・ターゲット・保健セ | 医療機関 | 児童福祉施設 | 警察 | その他 | 無回答 |
|------|-------|----------|-------|------|------|------|-------|-----|------|---------------|------|--------|------|------|-----|
| 報告合計 | 1123 | 353 | 100 | 89 | 202 | 33 | 37 | 12 | - | 12 | 57 | 11 | 126 | 77 | 14 |
| | 100.0 | 31.4 | 8.9 | 7.9 | 18.0 | 2.9 | 3.3 | 1.1 | - | 1.1 | 5.1 | 1.0 | 11.2 | 6.9 | 1.2 |
| 女性 | 1042 | 340 | 85 | 86 | 182 | 25 | 35 | 11 | - | 12 | 56 | 10 | 123 | 65 | 12 |
| | 100.0 | 32.6 | 8.2 | 8.3 | 17.5 | 2.4 | 3.4 | 1.1 | - | 1.2 | 5.4 | 1.0 | 11.8 | 6.2 | 1.2 |
| 男性 | 77 | 11 | 15 | 3 | 20 | 8 | 2 | 1 | - | - | 1 | 1 | 2 | 11 | 2 |
| | 100.0 | 14.3 | 19.5 | 3.9 | 26.0 | 10.4 | 2.6 | 1.3 | - | - | 1.3 | 1.3 | 2.6 | 14.3 | 2.6 |
| 男女合計 | 1119 | 351 | 100 | 89 | 202 | 33 | 37 | 12 | 0 | 12 | 57 | 11 | 125 | 76 | 14 |
| | 100.0 | 31.4 | 8.9 | 8.0 | 18.1 | 2.9 | 3.3 | 1.1 | 0.0 | 1.1 | 5.1 | 1.0 | 11.2 | 6.8 | 1.3 |
| 欠損値 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 |

上記表中：空欄は元データ段階「0」の意味 集計値は0表記している

表 58. 在宅事例の通告と送致

| 通告 | 送致・通知 | 件数 |
|---------|-------|------|
| ● | ● | 205 |
| ● | なし | 918 |
| なし | | 216 |
| 記入なし 不明 | | 15 |
| 合 計 | | 1354 |

表 57 の通告経路で最も多いのは子どもの所属機関である保育所・幼稚園・学校である。続けて家族、警察、福祉事務所、本人となっている。

子どもの所属する場所・機関の職員が子どもからの何らかの被害の開示に接した際、子どもから正しく最小限度の被害情報を聴取し、必要以上のこととは聴かないようとする初期対応における専門的な対応のための訓練が必要である。ただし、この初期の事実確認に関する慎重な対応と、子どもの被害兆候から子どもの安全に関する情報を慎重かつ確実に把握する基本的姿勢、およびケアとしての治療的配慮とを混同してはならない。

在宅の事案の多くが子どもの何らかの告白・開示を受けた様々な人・機関からの通告によって対応開始されるのに対して、施設入所中の事案の場合には、もっぱら施設職員が発見・確認して児童相談所に連絡することが対応開始の発端となっている。この際の本人の開示は、直接の経路として認知されていることが多い。また、児童相談所の職員が最初に子どもから直接、被害事実を聴取したことから対応開始する場合もある。これらの経路を表 59 に示す。また表 59 の概要を図 27~29 に示す。

まず、B-1、B-3 群は施設入所後に家庭内性暴力が発覚したことから対応開始した事案である。表 47 によれば、この群にも、若干の家庭外性暴力被害が含まれ、表 48 によれば身体的虐待とネグレクトを最も高い比率で併せ持つ群である。おそらく施設入所の時点ですでに身体的虐待やネグレクトなどの被虐待問題をもって施設入所し、後に家庭内性暴力被害が発覚した事例で、ひとりの子どもの被害としては最も被害が重複している深刻な被害群に属するとみられる。経路として本人からの開示が 30~40%台であるのも本人からの開示で初めて被害状況が表面化した事案がそれだけ多いと見なければならない。このうち B-1 群：家庭内性暴力被害発覚後、その施設からも分離保護しなければならなかった群は、人数は少ないが児童ポルノ被害でも発生率が突出している。

B-2、B-4 群は施設入所後に家庭外性暴力被害が発見・発覚したことから対応開始した群である。ただし、表 46 によれば、その約 3 割の子どもには家庭内性暴力被害が重複している。また表 48 によればそのおよそ 8 割に性的虐待以外の相談種別に識別される問題が認められており、多重選択項目で約 4 割の家庭養育上の問題は当然であるとして、それ以外に 16.4%に身体的虐待、22.1%にネグレクトの問題があり、また本人の知的障害も 15.4%とほかの群平均 (A+B1+B3 群は 10.1%) より高い。ちなみにこの差は参考程度 (5%水準) ではあるが統計的有意差がみられている (表 60)。

本調査では、B 群全体の回収状況に問題があり、特にこの B-2、B-4 群は回収状況において、全体件数の計上不足がうかがわれた群である。そのため件数の少なさも含めてこの数字だけで何かを判断することは難しいと考えられ、今回は参考情報とせざるを得ず、詳細な検討は今後の課題としたい。

表 59. 施設入所中の子どもの性暴力被害事例における通告経路の内容 (平成 23 年度)

| 報告分類 | 性別 | 件数 | 保育・所 学校幼稚 園事務所 | 福祉事務所 | 児童本人 | 家族 | 親戚 | 近隣・ 知人 | 友人 | 児童委員 | 保健所・ セントラル 保健 | 医療機関 | 児童福祉施設 | 警察 | その他 | 無回答 | |
|---------|------|--------------|----------------------|-----------|------------|-----------|----------|-----------|----------|----------|---------------------|-----------|-------------|-------------|-----------|-----------|----------|
| B-1 | 報告合計 | 11 100.0 | - | - | 5 45.5 | 1 9.1 | - | - | - | - | - | - | 5 45.5 | - | - | - | |
| | 女性 | 8 100.0 | - | - | 4 50.0 | 1 12.5 | - | - | - | - | - | - | 3 37.5 | - | - | - | |
| | 男性 | 3 100.0 | - | - | 1 33.3 | - | - | - | - | - | - | - | 2 66.7 | - | - | - | |
| | 男女合計 | 11 100.0 | 0 0.0 | 0 45.5 | 5 9.1 | 1 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 45.5 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| B-3 | 報告合計 | 49 100.0 | 1 2.0 | - | 16 32.7 | 4 8.2 | - | - | - | - | - | - | 1 2.0 | 26 53.1 | - | 1 2.0 | |
| | 女性 | 41 100.0 | 1 2.4 | - | 15 36.6 | 4 9.8 | - | - | - | - | - | - | 1 2.4 | 20 48.8 | - | - | |
| | 男性 | 6 100.0 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 100.0 | - | - | - | |
| | 男女合計 | 47 100.0 | 1 2.1 | 0 0.0 | 15 31.9 | 4 8.5 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 2.1 | 26 55.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | |
| | 欠損値 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| B-2 | 報告合計 | 31 100.0 | 2 6.5 | - | 6 19.4 | 1 3.2 | - | 1 3.2 | - | - | - | - | 16 51.6 | 1 3.2 | 4 12.9 | - | |
| | 女性 | 18 100.0 | 1 5.6 | - | 3 16.7 | 1 5.6 | - | 1 5.6 | - | - | - | - | 7 38.9 | 1 5.6 | 4 22.2 | - | |
| | 男性 | 13 100.0 | 1 7.7 | - | 3 23.1 | - | - | - | - | - | - | - | 9 69.2 | - | - | - | |
| | 男女合計 | 31 100.0 | 2 6.5 | 0 0.0 | 6 19.4 | 1 3.2 | 0 0.0 | 1 3.2 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 16 51.6 | 1 3.2 | 4 12.9 | 0 0.0 | |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| B-4 | 報告合計 | 169 100.0 | 4 2.4 | - | 37 21.9 | 1 0.6 | - | 1 0.6 | 3 1.8 | - | - | - | 111 65.7 | 1 0.6 | 8 4.7 | 3 1.8 | |
| | 女性 | 95 100.0 | 4 4.2 | - | 24 25.3 | 1 1.1 | - | - | 2 2.1 | - | - | - | 57 60.0 | 1 1.1 | 6 6.3 | - | |
| | 男性 | 69 100.0 | - | - | 13 18.8 | - | - | 1 1.4 | 1 1.4 | - | - | - | 50 72.5 | - | 2 2.9 | 2 2.9 | |
| | 男女合計 | 164 100.0 | 4 2.4 | 0 0.0 | 37 22.6 | 1 0.6 | 0 0.0 | 1 0.6 | 3 1.8 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 107 65.2 | 1 0.6 | 8 4.9 | 2 1.2 | |
| | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 0 | 0 | 0 | 1 | |
| B-1+B-3 | 報告合計 | 60 100.0 | 1 1.7 | 0 0.0 | 21 35.0 | 5 8.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.7 | 31 51.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.7 |
| | 女性 | 49 100.0 | 1 2.0 | 0 0.0 | 19 38.8 | 5 10.2 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 2 2.0 | 23 46.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| | 男性 | 9 100.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 11.1 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 8 88.9 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| | 男女合計 | 58 100.0 | 1 1.7 | 0 0.0 | 20 34.5 | 5 8.6 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.7 | 31 53.4 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 |
| | 欠損値 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | |
| B-2+B-4 | 報告合計 | 200 87.3 | 6 2.6 | 0 0.0 | 43 18.8 | 2 0.9 | 0 0.0 | 2 0.9 | 3 1.3 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 127 55.5 | 2 0.9 | 12 5.2 | 3 1.3 |
| | 女性 | 113 100.0 | 5 4.4 | 0 0.0 | 27 23.9 | 2 1.8 | 0 0.0 | 1 0.9 | 2 1.8 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 64 56.6 | 2 1.8 | 10 8.8 | 0 0.0 |
| | 男性 | 82 100.0 | 1 1.2 | 0 0.0 | 16 19.5 | 0 0.0 | 0 0.0 | 1 1.2 | 1 1.2 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 59 72.0 | 0 0.0 | 2 2.4 | 2 2.4 |
| | 男女合計 | 195 100.0 | 6 3.1 | 0 0.0 | 43 22.1 | 2 1.0 | 0 0.0 | 1 1.0 | 3 1.5 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 123 63.1 | 2 1.0 | 12 6.2 | 2 1.0 |
| | 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 0 | 0 | 0 | 1 |

上記表中: 空欄は元データ段階「0」の意味 集計値は0表記している

表 60. 性暴力被害事例における知的障害の関与
フイッシャーの直接確率

| | 知的障害の有無 | | |
|----------|---------|------|------|
| | あり | なし | 計 |
| 家庭内性暴力問題 | 142 | 1264 | 1406 |
| 家庭外性暴力問題 | 30 | 165 | 195 |
| 計 | 172 | 1429 | 1601 |

フイッシャーの直接確率 **1%有意 *5%有意

両側P値 0.034974 *

片側P値 0.020668 *

Cramerのv 0.055818

YuleのQ -0.23619

子ども虐待問題において障害児の被害状況は常に注目されてきた課題である。本調査では疫学的な検討は行っていないので、母集団における被害発生率は検討していない。また施設入所事例については家庭内性暴力被害事例に比べて十分に回収できていないとみられることから、検討の基礎となるサンプル数に偏りがあるため、家庭内性暴力被害群と家庭外性暴力被害群の比較に統計的な有意性を求めることが難しい。

こうした制限を前提として試算した比較では5%水準と低い有意性であるが、一応の差が認められた。

これらは今後の調査・検討を待ちたい。

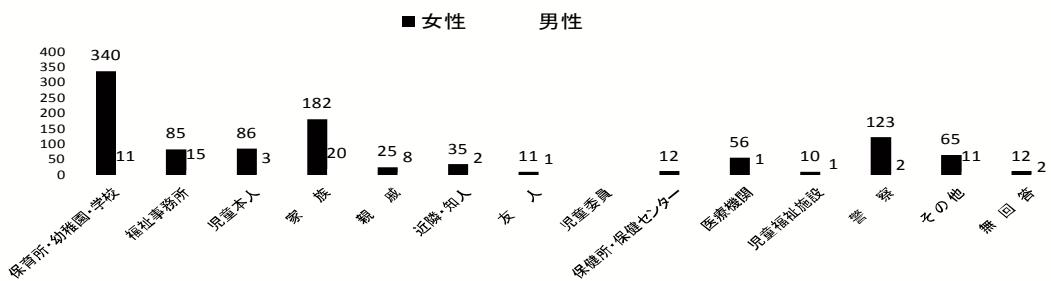


図 27. 在宅で性暴力被害問題が発見・発覚したことから対応開始した事例の男女別経路別状況(平成 23 年度)



図 28. 施設入所中に家庭内性暴力被害が発見・発覚したことから対応開始した事例の男女別経路別状況(平成 23 年度)

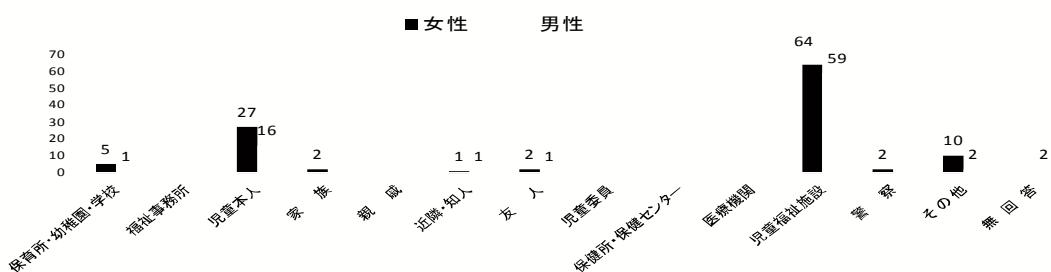


図 29. 施設入所中に家庭外性暴力被害が発見・発覚したことから対応開始した事例の男女別経路別状況(平成 23 年度)

3)–4 家庭内性暴力事案の状況

回収された全 1614 事例につき、今一度、表 47 に基づき、全群から性的虐待・家庭内性暴力被害 1263 件を抽出して、その問題状況をまとめると表 61 のとおりとなる。

性的虐待にあたる事例が 866 件、性的虐待以外の家庭内性暴力被害にあたる事例が 397 件である。すなわち子どもが日常生活を共にしている環境内で一緒に暮らす人物から性暴力被害を受けている事例が今回報告された事例中 78.3% あり、そのうち 68.6% は性的虐待とされているが 31.4% はそれ以外の家庭内性暴力被害事案であった。いずれも個票に基づく実数値であり、いわゆる虐待統計とは基準が異なっているが、相当数の性的虐待にあたらない家庭内性暴力被害事案があることが分かる。

表 61. 性的虐待・家庭内性暴力被害事例にみられる随伴問題(重複回答)の状況(平成 23 年度)

| | 身体的虐待 | ネグレクト | 心的虐待 | DV | 養育困難 | 障害(知的) | 障害(身体) | 障害(聴覚) | 障害(視覚) | 障害(重心) | 障害(発達) | 障害(自閉) | 障害(その他) | 性格・行動 | 育成 | 非行 | その他 | 随伴件数 | 全件数 |
|--------------|-------|-------|------|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|-------|-----|-----|-----|-------|-------|
| 性的虐待 | 181 | 185 | 112 | 98 | 55 | 70 | 6 | 3 | 0 | 0 | 18 | 2 | 1 | 54 | 9 | 44 | 13 | 546 | 866 |
| 随伴事例中構成比 (%) | 33.2 | 33.9 | 20.5 | 17.9 | 10.1 | 12.8 | 1.1 | 0.5 | 0.0 | 0.0 | 3.3 | 0.4 | 0.2 | 9.9 | 1.6 | 8.1 | 2.4 | 100.0 | |
| 全件数中構成比 (%) | 20.9 | 21.4 | 12.9 | 11.3 | 6.4 | 8.1 | 0.7 | 0.3 | 0.0 | 0.0 | 2.1 | 0.2 | 0.1 | 6.2 | 1.0 | 5.1 | 1.5 | 63.0 | 100.0 |
| 家庭内性暴力被害 | 68 | 149 | 47 | 34 | 45 | 51 | 1 | 3 | 0 | 0 | 12 | 4 | 1 | 24 | 5 | 27 | 11 | 309 | 397 |
| 随伴事例中構成比 (%) | 22.0 | 48.2 | 15.2 | 11.0 | 14.6 | 16.5 | 0.3 | 1.0 | 0.0 | 0.0 | 3.9 | 1.3 | 0.3 | 7.8 | 1.6 | 8.7 | 3.6 | 100.0 | |
| 全件数中構成比 (%) | 17.1 | 37.5 | 11.8 | 8.6 | 11.3 | 12.8 | 0.3 | 0.8 | 0.0 | 0.0 | 3.0 | 1.0 | 0.3 | 6.0 | 1.3 | 6.8 | 2.8 | 77.8 | 100.0 |

表 62. 家庭内性暴力被害事例の具体的な様態(平成 23 年度)

性的虐待 (866 件)

家庭内性暴力被害 (397 件)

表62にみられるように、性的虐待で、320件：37.0%、そのほかの家庭内性暴力で88件22.2%は、随伴するそのほかの問題が報告されていないが、性的虐待で63%、そのほかの家庭内性暴力で77.8%、全体で855件：67.7%には、極めて複雑・多彩な問題・課題の重複があり、表面上は、性暴力被害として相談対応が行われているとしても、実質的には極めて多彩な問題・課題に対応しなければならない実態がある。これはすべての虐待相談事例にも当てはまることがあるが、性暴力被害はそれだけで複雑な問題であるだけに、その対応の困難さが際立っていると見なければならないだろう。

重複随伴する問題をグラフに表すと図30のようになる。親権者・監護責任者が主たる加害者である性的虐待では、身体的虐待をはじめとするほかの虐待の重複が極めて多く、それを構成比で表すと図31のようになる。

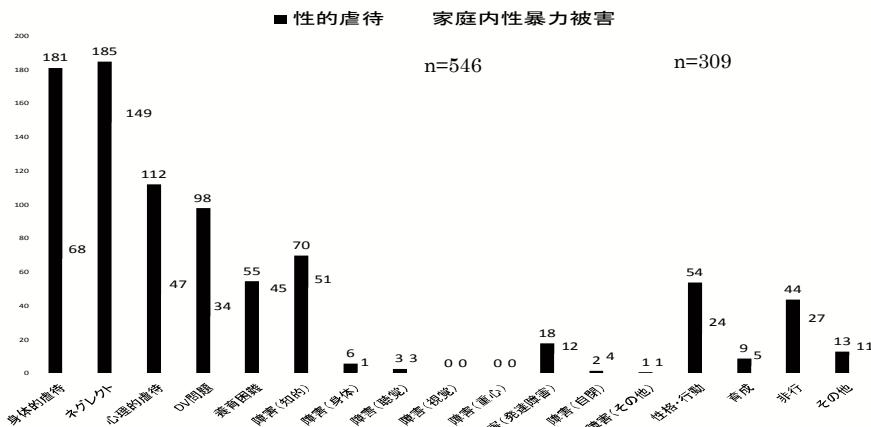
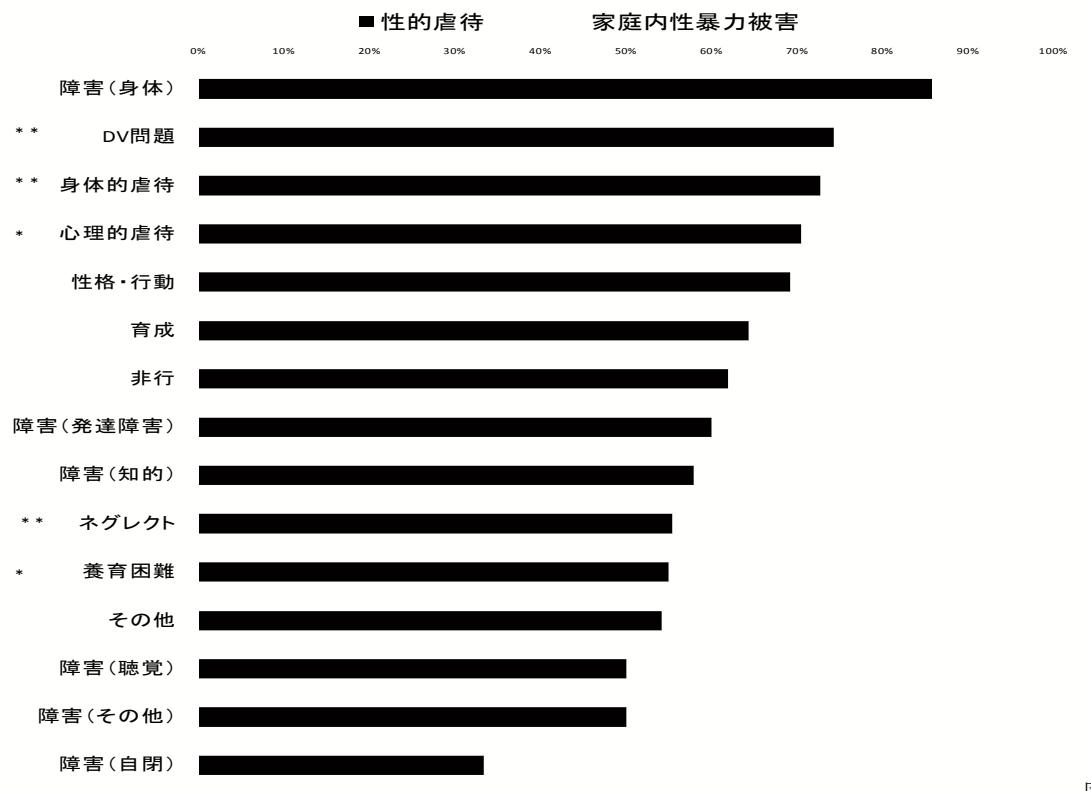


図30. 性的虐待・家庭内性暴力に随伴する問題（重複回答）の状況（平成23年度）



31. 性的虐待・それ以外の家庭内性暴力被害の事例における随伴問題（重複回答）の状況
フイッシュヤーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

性的虐待とそれ以外の家庭内性暴力被害に随伴するこれらの問題について両群内の構成比について統計的検討を加えたところ、各群全数を母集団とした場合には有意差は見られないが、各群随伴問題群を母数としたところ、DV問題、身体的虐待、ネグレクトで1%水準、心理的虐待、養育困難で5%水準の有意差が認められた。すなわち、DV被害、身体的虐待、心理的虐待は親権者・監護責任者による性的虐待被害事例により多くみられ、ネグレクト、養育困難は、親権者・監護責任者以外の家庭内性暴力被害事例の方により多くみられるという点で有意差が認められている。

3)−5 施設入所中事案に関する性暴力の状況

施設入所中の性暴力被害事例は、これまで述べてきたように、本調査ではその正確な全数を把握するに至っていない。そのため、以下はあくまで参考程度の情報であることに留意されたい。

個票はまず、家庭内性暴力被害の発覚・発見から対応開始した群（B-1、B-3 群）とそれ以外の家庭外性暴力被害の発覚・発見から対応開始した群（B-2、B-4 群）に分けて回収された。ところがこれまで見てきたように、これらの区分は対応の発端の情報に過ぎず、実は複雑な被害状況にあることが分かってきた。まず、各事例の所属状況を表 63、図 32 に示す。児童養護施設が全体の 78% を占める。

表 63. 施設入所中の性暴力被害事例（家庭内性暴力被害含む）の施設別・男女別件数（平成 23 年度）

| | 性別 | 件 数 | 児童養護 | 児童自立 | 情短 | 里親 | 障害関係 | その他 | 無回答 |
|-----|------|--------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| B-1 | 報告合計 | 11 100.0 | 7 63.6 | | 2 18.2 | | 1 9.1 | - | 1 9.1 |
| | 女性 | 8 100.0 | 5 62.5 | | 2 25.0 | | 1 12.5 | - | - |
| | 男性 | 3 100.0 | 2 66.7 | | - | | - | - | 1 33.3 |
| | 男女合計 | 11 100.0 | 7 63.6 | 0 0.0 | 2 18.2 | 0 0.0 | 1 9.1 | 0 0.0 | 1 9.1 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-3 | 報告合計 | 49 100.0 | 38 77.6 | 1 2.0 | 3 6.1 | | 3 6.1 | 1 2.0 | 3 6.1 |
| | 女性 | 41 100.0 | 32 78.0 | | 3 7.3 | | 3 7.3 | 1 2.4 | 2 4.9 |
| | 男性 | 6 100.0 | 5 83.3 | 1 16.7 | - | - | - | - | - |
| | 男女合計 | 47 100.0 | 37 78.7 | 1 2.1 | 3 6.4 | 0 0.0 | 3 6.4 | 1 2.1 | 2 4.3 |
| | 欠損値 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| B-2 | 報告合計 | 31 100.0 | 21 67.7 | | 2 6.5 | 4 12.9 | 1 3.2 | 3 9.7 | - |
| | 女性 | 18 100.0 | 10 55.6 | | 2 11.1 | 3 16.7 | - | 3 16.7 | - |
| | 男性 | 13 100.0 | 11 84.6 | | - | 1 7.7 | 1 7.7 | - | - |
| | 男女合計 | 31 100.0 | 21 67.7 | 0 0.0 | 2 6.5 | 4 12.9 | 1 3.2 | 3 9.7 | 0 0.0 |
| | 欠損値 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| B-4 | 報告合計 | 169 100.0 | 137 81.1 | 2 1.2 | 5 3.0 | 5 3.0 | 14 8.3 | 3 1.8 | 3 1.8 |
| | 女性 | 95 100.0 | 78 82.1 | 1 1.1 | 3 3.2 | 4 4.2 | 6 6.3 | 3 3.2 | - |
| | 男性 | 69 100.0 | 55 79.7 | 1 1.4 | 2 2.9 | 1 1.4 | 8 11.6 | - | 2 2.9 |
| | 男女合計 | 164 100.0 | 133 81.1 | 2 1.2 | 5 3.0 | 5 3.0 | 14 8.5 | 3 1.8 | 2 1.2 |
| | 欠損値 | 5 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 総計 | 報告合計 | 260 100.0 | 203 78.1 | 3 1.2 | 12 4.6 | 9 3.5 | 19 7.3 | 7 2.7 | 7 2.7 |
| | 女性 | 162 100.0 | 125 77.2 | 1 0.6 | 10 6.2 | 7 4.3 | 10 6.2 | 7 4.3 | 2 1.2 |
| | 男性 | 91 100.0 | 73 80.2 | 2 2.2 | 2 2.2 | 2 2.2 | 9 9.9 | 0 0.0 | 3 3.3 |
| | 男女合計 | 253 100.0 | 198 78.3 | 3 1.2 | 12 4.7 | 9 3.6 | 19 7.5 | 7 2.8 | 5 2.0 |
| | 欠損値 | 7 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |

上記表中：空欄は元データ段階「0」の意味 集計値は0表記している

■ 女性 男性

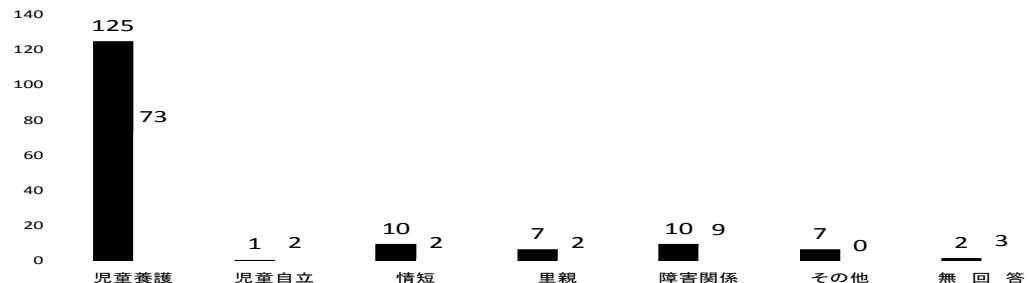


図 32. 施設入所中の性暴力被害事例（家庭内性暴力被害含む）の施設別・男女別件数（平成 23 年度）

施設入所中の性暴力被害群にも多くの性的虐待・家庭内性暴力被害の発見・発覚事例があったのは先に述べてきた。性的虐待、家庭内性暴力被害を伴わない事例を、確認されている加害者データから消去法的に検索すると 155 事例、家庭内性暴力加害者が確認されていない事例が識別された。これが何を代表しているかには疑問があるが、その事例に認められる諸問題の全体像を表 64、図 33、図 34 に示す。

表 64. 施設入所中に発見・発覚した性暴力被害事例（性的虐待。家庭内性暴力除く）における性暴力被害以外の問題と件数（平成 23 年度）

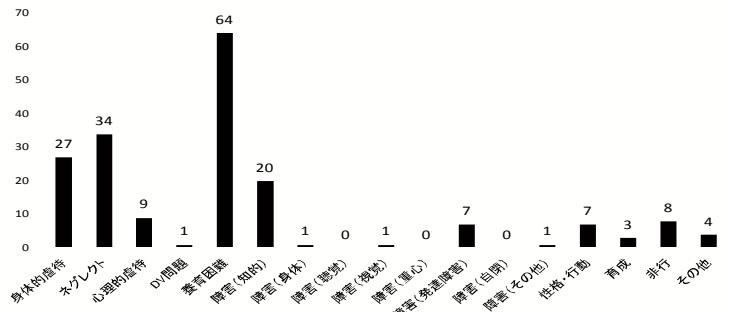


図33. 施設入所中に発見・発覚した性暴力被害事例（性的虐待・家庭内性暴力除く）に随伴する問題の状況（平成23年度）

施設に入所したのちに、過去からの性暴力被害や、継続している被害、および現在の環境で発生している被害について何らかの発覚、発見があったことから対応開始した事例のうち、明らかな性的虐待・家庭内性暴力にあたる加害者が確認されている事例を除いた事例 155 事例の概要を表 64 に示す。

表 64 によれば、その背景に身体的虐待、ネグレクト、心理的虐待、DV 問題等が多数重複しており、155 事例中、71 事例：45.8%は性暴力被害以外の分野の虐待問題が重複している。

もしもこれが施設入所後の子どもの性暴力被害問題の一端であるとすれば、施設における性暴力被害には、入所前からの子どもの背景問題が重大な要素となっていることが推測される。

この点については本調査のデータは基本数が不足しているとみられ、今後の検討を待ちたい。

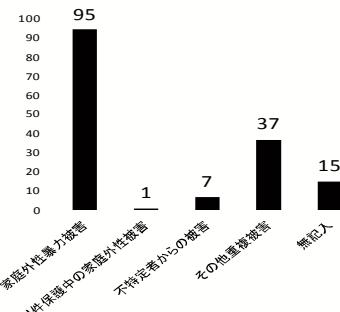


図 34. 性的虐待・家庭内性暴力以外の性暴力
被害の種類（平成 23 年度）

3)–6 性暴力被害への対応

これ以降、個票として集められた情報について、ガイドライン 2011 年版でも提示した性暴力被害にあつた子どもへの対応順に情報整理を進める。

要点は、通告受理直後からの初期対応、安全確認と調査保護の判断、より詳しい事実調査と被害確認面接・医学診察の実施、子どもへの再被害の阻止とケアの開始、非加害保護者へアプローチである。併せて、被害の様態、確認の推移についての実態、刑事訴追の状況等についても基礎的なデータとしての整理を行う。

これらの検討は A 票、在宅状態で性暴力被害にあったことについての対応が開始された事例が最も正確な照合性があるので、A 票事例に焦点を当てることとする。

①初期対応 在宅事案の安全確保について

在宅事案では新規相談が約 6 割（表 65）を占めており、初動の調査が最初の情報収集となる事例が多い。これまでに見てきたように多数の背景問題を抱えた事案が多く、調査は性暴力被害問題だけに集中することが難しい。

それだけに初期のアセスメントと安全確認時における保護の判断が重要となる。

表 65. 在宅事例の受理時の相談経過

| 性別 | 件数 | 新規相談 | 別件での相談継続中 | あり去りに同種の相談歴 | あり去りに別種の相談歴 | 無回答 |
|----|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----------|
| 合計 | 1354 100.0 | 876 64.7 | 157 11.6 | 81 6.0 | 223 16.5 | 17 1.3 |
| 女性 | 1257 100.0 | 818 65.1 | 141 11.2 | 78 6.2 | 205 16.3 | 15 1.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 55 60.4 | 14 15.4 | 3 3.3 | 17 18.7 | 2 2.2 |

（別紙資料 2 A 票 表 11 から）

在宅事例に関しては加害を疑われる人物と子どもの接点を押さえることが重要であり、そのためにも、子どもの身柄の確保を重視しなければならない。

また多くの子どもが家族関係の利害の中で、非加害保護者やそのほかの家族・親族との関係を失うことを恐れるあまり、最初の告白が公的機関への調査に結び付いてしまったことから恐れをなして、被害の開示をためらう。

しかし、多くの事例で加害者はいつでも子どもにすぐに接触できるところに存在していることが多く、子どもの安全確保について、児童相談所は当事者の意向とは独立に緊急判断しなければならない（表 66）。

表 66. 在宅事例の被害者と加害者の居住・接触程度

| 性別 | 件数 | 同居 | 同居に近い状態 | 返す同居・別居を繰り | 繁別居接觸：頻 | 期別居接觸：日常的 | ごくたまに接觸 | 接觸程度不明 | 無回答 |
|----|---------------|-------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|
| 合計 | 1354 100.0 | 985 72.7 | 56 4.1 | 18 1.3 | 75 5.5 | 126 9.3 | 26 1.9 | 53 3.9 | 15 1.1 |
| 女性 | 1257 100.0 | 906 72.1 | 51 4.1 | 17 1.4 | 71 5.6 | 121 9.6 | 24 1.9 | 52 4.1 | 15 1.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 76 83.5 | 3 3.3 | 1 1.1 | 4 4.4 | 4 4.4 | 2 2.2 | 1 1.1 | - |

在宅の事案の大半は通告による（83.9%：表 55）。通告の内容については、ガイドラン 2011 で 5 つに分類している。これは平成 20 年度に全国調査した平成 19 年度の全国児童相談所の性的虐待事例報告に基づいている。分類は以下のとおりである。

【性暴力被害についての通告段階での情報分類】

- ① 主に思春期以後の子どもによる詳細で具体的な性暴力被害の説明があるもの
- ② 主に思春期以前の子どもによる、あいまいな、性被害を疑わせるだけの情報
- ③ 直接に性被害を表してはいないが、周辺的な不穏情報を含むもの
- ④ 本人からの開示はないが、行動から性被害を疑わせるもの
- ⑤ 第三者による目撃や映像など物的証拠があるもの

今回の調査ではこの情報の 5 分類に加えて、具体的な被害の内容を 5 分類して組み合わせて尋ねている。被害内容の分類は、以下のとおりである。

1. 何らかの被害・詳細不明
2. 非接触被害
3. 接触被害（挿入不明）
4. 接触被害（非挿入） (ここでの挿入とは、口、肛門、性器への何らかの挿入行為すべてを指す。)
5. 接触被害（挿入被害）

在宅事例について、通告時点での通告内容と被害内容は表67のとおりである。通告内容が詳細なものには被害内容も具体的になっていく傾向が認められる。

表67. 在宅の性暴力被害事例の通告時点での通告内容と被害の内容

| 被害の内容 | 通告の内容 | | | | | | 総計 |
|--------------|-------------------------------|------------------|------------------|--------------------------|----------------|------|------|
| | 1 被害の 詳細を具 体的に説 明 | 2 ほのめか す内容 | 3 周辺的情 報のみ | 4 具体的な 行動など で疑い | 5 目撃や 物証 | (空白) | |
| 1 何らかの被害 暖昧 | 52 | 105 | 78 | 9 | 15 | 6 | 265 |
| 2 非接触被害 | 37 | 17 | 10 | 2 | 9 | | 75 |
| 3 接触被害（挿入不明） | 100 | 38 | 16 | | 11 | 2 | 167 |
| 4 接触被害（非挿入） | 324 | 45 | 21 | 3 | 7 | 8 | 408 |
| 5 接触被害（挿入被害） | 154 | 9 | 12 | 3 | 11 | 2 | 191 |
| (空白) | 5 | 4 | 4 | 1 | 1 | 233 | 248 |
| 総計 | 672 | 218 | 141 | 18 | 54 | 251 | 1354 |

この初期段階で被害の詳細を具体的に語ることができるのは思春期以上の子どもが中心であり、思春期以前の子どもたちは、そもそも性暴力被害を語る「言葉」、性暴力被害をこれだと特定する具体的「知識」を持ち合っていないことが多い。

表68、図35は通告段階での被害内容と子どもの年齢（学年）を比較したものである。中学生の事例数が圧倒的に多いが、構成比でみると、思春期に向かって年齢が上がるにつれて、情報のあいまいさが減少し、具体的な情報開示が増えているのが見て取れる。

表68 在宅の性暴力被害事例の通告時点での被害内容と学年

| | 0 歳 未 満 | 3 歳 就 学 前 | 小 学 1 ～ 3 年 | 小 学 4 ～ 6 年 | 中 学 生 | 高 校 生 そ の 他 中 卒 | 無 回 答 | 総 計 |
|--------------|------------------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|--------|
| 1 何らかの被害 暖昧 | 8 | 41 | 39 | 55 | 82 | 35 | 5 | 265 |
| 2 非接触被害 | 3 | 11 | 22 | 10 | 21 | 6 | 2 | 75 |
| 3 接触被害（挿入不明） | 2 | 11 | 21 | 33 | 65 | 33 | 2 | 167 |
| 4 接触被害（非挿入） | 8 | 38 | 45 | 97 | 152 | 62 | 6 | 408 |
| 5 接触被害（挿入被害） | 0 | 3 | 8 | 25 | 109 | 41 | 5 | 191 |
| (空白) | 11 | 22 | 47 | 56 | 78 | 27 | 7 | 248 |
| 総計 | 32 | 126 | 182 | 276 | 507 | 204 | 27 | 1354 |

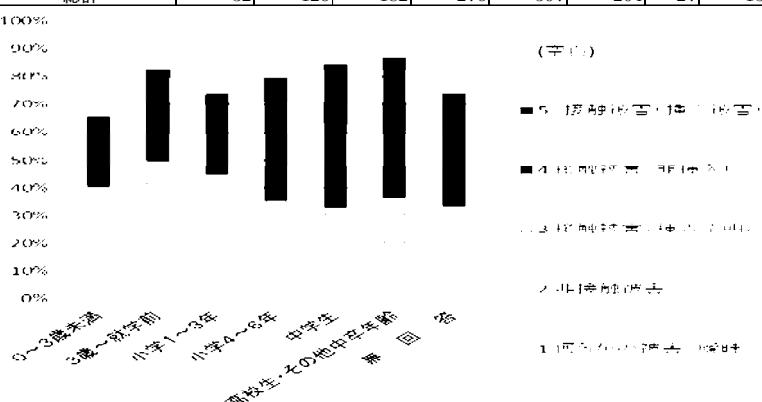


図35. 在宅の性暴力被害事例の通告時点での被害内容と学年

通告受理直後の安全確認で、子どもがどのような被害にあった可能性が高いか、被害の深刻さはどの程度かを具体的に知ることは難しい。

被害の兆候についての情報は、そのほとんどが通告者の情報によっており、その多くは通告者が子どもから聴き取った被害をうかがわせる発言についての伝聞情報である。

注意しなければならないのは、子どもの初期情報のあいまいさの程度と実際の被害がどの程度深刻なことかについては別のこととして考える必要がある点である（表69～71）。

したがって初期調査においては、まだそれほど件数は多くないが、思春期以前の年齢の子どもの被害の開示内容をどのようにとらえ、慎重な調査にかけることができるかにポイントがあると言える。

ガイドライン 2011 では、初期被害調査面接と調査保護の判断過程については詳細まで提示しきれていない点があるが、平成 21 年度より実施している全国各地での面接研修では、徐々に初期被害調査面接のトレーニングの実施件数が増加してきている。

表 69. 初期段階での被害情報と妊娠（中絶）

| 被害の内容 | 通告の内容 | | | | | | 総計 |
|--------------|----------------|-----------|------------|---------------|---------|------|----|
| | 1 被害の詳細を具体的に説明 | 2 ほのめかす内容 | 3 周辺的な情報のみ | 4 具体的な行動などで疑い | 5 目撃や物証 | (空白) | |
| 1 何らかの被害 暖昧 | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 4 |
| 2 非接触被害 | | | | | | | 0 |
| 3 接触被害(挿入不明) | 1(1) | | | | | | 1 |
| 4 接触被害(非挿入) | | | | | | | 0 |
| 5 接触被害(挿入被害) | 6(2) | 1 | 4 | | 2 | | 13 |
| (空白) | | | 1 | | | 1 | 1 |
| 総計 | 7 | 2 | 6 | 1 | 2 | 1 | 19 |

() は性感染症罹患の合併

表 70. 初期段階での被害情報と妊娠（出産）

| 被害の内容 | 通告の内容 | | | | | | 総計 |
|--------------|----------------|-----------|------------|---------------|---------|------|----|
| | 1 被害の詳細を具体的に説明 | 2 ほのめかす内容 | 3 周辺的な情報のみ | 4 具体的な行動などで疑い | 5 目撃や物証 | (空白) | |
| 1 何らかの被害 暖昧 | | | | | | | 0 |
| 2 非接触被害 | | | | | | | 0 |
| 3 接触被害(挿入不明) | 1(1) | | | | | | 1 |
| 4 接触被害(非挿入) | | | | | | | 0 |
| 5 接触被害(挿入被害) | | 7 | | 1 | | 1 | 10 |
| (空白) | | 8 | 0 | 1 | 0 | 1 | 11 |
| 総計 | | | | | | | |

() は性感染症罹患の合併

表 71. 初期段階での被害情報と性感染症（妊娠なし）

| 被害の内容 | 通告の内容 | | | | | | 総計 |
|--------------|----------------|-----------|------------|---------------|---------|------|----|
| | 1 被害の詳細を具体的に説明 | 2 ほのめかす内容 | 3 周辺的な情報のみ | 4 具体的な行動などで疑い | 5 目撃や物証 | (空白) | |
| 1 何らかの被害 暖昧 | 1 | 1 | 6 | 1 | 1 | | 10 |
| 2 非接触被害 | 1 | | | | | | 1 |
| 3 接触被害(挿入不明) | 7 | 1 | 2 | | | | 10 |
| 4 接触被害(非挿入) | 4 | | 2 | | | | 6 |
| 5 接触被害(挿入被害) | 9 | | | 1 | | | 10 |
| (空白) | 1 | | | | | 1 | 1 |
| 総計 | 23 | 2 | 10 | 2 | 1 | 0 | 38 |

多くの場合、深刻な被害を受けた子どもはそうした被害について、何らかの説明情報を開示している。しかし、一部にはより曖昧な表現しかできていない事例も認められる。

初期段階では特に情報が限られており、子どもからの情報が特に重要となるが、子ども自身が常に被害状況を適切に表現できるとは言えない。ただ児童相談所は入手した情報を根拠に介入の要否を判断しなければならず、子どもの情報があいまいな場合についての判断基準が必要である。

② 初期調査

通告直後の初期調査は以後の対応の成否を分ける最初のポイントである。平成 20 年度の全国調査（平成 19 年度の対応状況調査）では、通告受理後の即座な直接接触による調査はまだ標準的な対応として手順化されておらず、また被害確認面接の専門性についても不十分であったため、受理された通告のうち約 4 割の事例でしか、被害を確認できていなかった。多くの子どもが時間経過とともに再び口をつぐみ、また、あきらめていったものとみられる。

それ以降の児童相談所の対応システムの変貌は大きく、また家庭内性暴力被害事案については平成 22 (2011) 年度にガイドライン 2011 年版が作成されたことで、全国の児童相談所の対応は明らかに変化してきている。

表 72～76 は、通告受理直後の児童相談所の対応を示す（別紙資料 2 A 票 表 27～31 の再掲）。

表 72. 性暴力被害の通告を受理した児相の対応（1123 事例）

| 性別 | 件数 | 相談所が直接面接 | 通告者に追加確認依頼 | 当面周辺調査 | 実警察認からされるの通告で既に事 | 無回答 |
|-----|-------|----------|------------|--------|------------------|-----|
| 合 計 | 1123 | 727 | 121 | 145 | 95 | 35 |
| | 100.0 | 64.7 | 10.8 | 12.9 | 8.5 | 3.1 |
| 女性 | 1042 | 682 | 108 | 128 | 93 | 31 |
| | 100.0 | 65.5 | 10.4 | 12.3 | 8.9 | 3.0 |
| 男性 | 77 | 43 | 13 | 16 | 1 | 4 |
| | 100.0 | 55.8 | 16.9 | 20.8 | 1.3 | 5.2 |

表 73. 子どもとの最初の接触場所（1354 事例）

| 性別 | 件数 | 属機会等のあつた子どもの所 | る子任意の身柄を確保でき | 児相 | 家庭訪問して | 無回答 |
|-----|-------|---------------|--------------|------|--------|------|
| 合 計 | 1354 | 380 | 122 | 430 | 50 | 372 |
| | 100.0 | 28.1 | 9.0 | 31.8 | 3.7 | 27.5 |
| 女性 | 1257 | 356 | 117 | 402 | 43 | 339 |
| | 100.0 | 28.3 | 9.3 | 32.0 | 3.4 | 27.0 |
| 男性 | 91 | 22 | 3 | 28 | 7 | 31 |
| | 100.0 | 24.2 | 3.3 | 30.8 | 7.7 | 34.1 |

表 74. 初期被害調査を担当した職員（1354 事例）

表 75. 初期被害調査の人数設定（1354 事例）

| 性別 | 件数 | 担当児童福祉司 | 担当児童心理司 | 担当以外の職員 | 無回答 | 性別 | 件数 | 複数対応 | 単独対応 | 無回答 |
|-----|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-----|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 合 計 | 1354 100.0 | 634 46.8 | 371 27.4 | 361 26.7 | 372 27.5 | 合 計 | 1354 100.0 | 630 46.5 | 343 25.3 | 381 28.1 |
| 女性 | 1257 100.0 | 593 47.2 | 357 28.4 | 335 26.7 | 339 27.0 | 女性 | 1257 100.0 | 591 47.0 | 319 25.4 | 347 27.6 |
| 男性 | 91 100.0 | 38 41.8 | 13 14.3 | 25 27.5 | 31 34.1 | 男性 | 91 100.0 | 36 39.6 | 23 25.3 | 32 35.2 |

表 76 初期被害調査担当者の性別設定（1354 事例）

| 性別 | 件数 | 男女混合 | 男性のみ | 女性のみ | 無回答 |
|-----|---------------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 合 計 | 1354 100.0 | 252 18.6 | 55 4.1 | 668 49.3 | 379 28.0 |
| 女性 | 1257 100.0 | 236 18.8 | 35 2.8 | 641 51.0 | 345 27.4 |
| 男性 | 91 100.0 | 15 16.5 | 20 22.0 | 24 26.4 | 32 35.2 |

児童相談所にとって虐待通告への初期対応は常に激しい消耗戦の様相がある。職員の人数規模や配置状況に対して、その時点での対応課題の優先順位・緊急度は時々刻々と変化する。

限られた戦力ですべてに対応しなければならず、いわば瞬間最大風速のように事案が限定的に集中することにも対応しなければならない。

ガイドライン 2011 年版が提示するチームによる対応条件は、小規模所ではしばしば困難である。所の規模に合わせた工夫の必要性が指摘されても、そもそも絶対数の少ない所では選択の余地は乏しい。

表 74 の調査担当職員の設定、表 75 の単独対応、表 76 の職員の性別設定には、そうした職員規模や各所の状況も反映しているとみられる。

表 77 に、通告受理時点での被害内容と初期調査の対応結果、表 78 に初期調査の実施結果を示す。

表 77. 在宅事例の初期調査結果と通告時点での被害内容情報（1354 事例）

| 通告時点での被害内容 | 件数 | 初期調査の結果 | | | | | | | |
|--------------|------|--------------|----------------|-------------|--------------|-------------|--------------|-----|--|
| | | 被害告以上・以外の性暴力 | の通告疑いにあつた性暴力被害 | 何らかの被害の疑いあり | きず・暴力不透明の確認で | 性暴力被害の可能性低い | 子どもが調査拒否（疑い） | 無回答 | |
| 1 何らかの被害 暗昧 | 239 | 17 | 41 | 61 | 64 | 35 | 14 | 7 | |
| 2 非接触被害 | 65 | 3 | 44 | 9 | 6 | 1 | | 2 | |
| 3 接触被害(挿入不明) | 133 | 30 | 67 | 24 | 7 | 3 | 1 | 1 | |
| 4 接触被害(非挿入) | 372 | 48 | 263 | 32 | 15 | 5 | 5 | 4 | |
| 5 接触被害(挿入被害) | 163 | 43 | 104 | 5 | 6 | 2 | | 3 | |
| (空白) | 382 | 2 | 4 | 6 | 13 | 1 | 1 | 355 | |
| 総計 | 1354 | 143 | 523 | 137 | 111 | 47 | 21 | 372 | |

表 78. 在宅事例の初期被害調査の実施結果（1354 事例）

（別紙資料 2 A 票 表 39 の再掲）

| 性別 | 件数 | 認暴力告被以上の・疑い以外をの確性 | 被通告に疑つた確性暴力 | 何らかの被害の疑い | 認暴力不透明の明確性 | 低性暴力被害の可能性 | （子どもが調査拒否） | 無回答 |
|-----|---------------|-------------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|-------------|
| 合 計 | 1354 100.0 | 143 10.6 | 523 38.6 | 137 10.1 | 111 8.2 | 47 3.5 | 21 1.6 | 372 27.5 |
| 女性 | 1257 100.0 | 135 10.7 | 498 39.6 | 129 10.3 | 93 7.4 | 43 3.4 | 20 1.6 | 339 27.0 |
| 男性 | 91 100.0 | 7 7.7 | 23 25.3 | 8 8.8 | 17 18.7 | 4 4.4 | 1 1.1 | 31 34.1 |

表 77、78 を見る限り、初期の被害確認は具体的情報のある事例に関してはかなりの率で被害兆候を把握していると。表 77 によれば、通告受理時点でのあいまいな被害情報 229 件中、被害の疑い確認は 119 件：49.8%だが、具体的な接触被害の情報があった 668 件中、被害の疑い確認は 616 件、92.2%に達している。

③ 調査保護

調査保護は、文字とおり事実を正確に調査するための保護のことである。英米を中心として、虐待の通告対応の初動対応課題のひとつは、子どもの安全確保と調査のための子どもの身柄の保護拘束が必要かどうかである。わが国でも厚生労働省の虐待対応手引き、児童相談所運営指針で、事実調査のために子どもを保護し、安全を確保した上で詳しい調査を行う手法が示されているが、それについて具体的な規則・基準は示されていない。

ガイドライン 2011 年版では、家庭内性暴力被害が疑われる事例で、加害者が子どもに接触でき、被害がいつでも発生しうることが想定される場合には、たとえ初期対応において把握できた被害内容があいまいであっても、疑いがあればまず、子どもの安全確保を図り、また複雑な利害関係にある家族の中に子どもを置いたまま、そこにいる家族・同居人から受けたかもしれない被害調査をするという過酷な要件を考慮して、積極的に調査保護を実施することを提案してきた。

当然多くの子どもはそれを望まないし、予想もしていないことなので抵抗を示すことが多い。また非加害の保護者、親族も子どもの身に降りかかる困難を見て、子どもを在宅のまま、あるいは自分たちの工夫で何とか守ろうとして、子どもの調査保護には反対することが多い。この点ではまだまだ、調査保護が法定化されておらず、裁判所の監督下で一時保護が管理されていないわが国では、従来からの相談支援型のケースワークの範囲で、一時保護を同意承諾によって行おうとする傾向が強くみられてきた。

特に、明白な子どもの危険が確認しにくく、切迫した生命の危険が認められるわけでもない性暴力被害事案については、当事者の反発・抵抗が強いと、慎重な対応を優先する傾向にあった。これは平成 19 年度の通告受理中の最終被害確認率が 40% 台となっていた主な理由である（表 79）。

ガイドライン 2011 年版は、家庭内性暴力被害事案については特に、意識的に調査保護の実施を基本的手順に組み込んでおり、3)ー1 ③の【性暴力被害についての通告段階での情報分類】として挙げた通告内容 5 分類中の ① ② ⑤ は調査保護検討という基準を設け、ここでいう虐待対応における保護はすべて児童相談所長の判断権限による職権保護としての調査保護としている。

表 79. 平成 19 年度 606 例の性的虐待事例における被害確認

| | 対象者 | 被害確認 | 確認率 |
|------------------|-----|------|--------|
| 一時保護+被害確認面接実施 | 173 | 159 | 62.40% |
| 被害確認面接のみ実施 | 76 | 58 | 22.70% |
| 一時保護のみ実施 | 61 | 14 | 5.40% |
| 一時保護も被害確認面接も実施せず | 296 | 24 | 9.40% |
| 合計 | 606 | 255 | 42.10% |

厚生労働科学研究「子どもへの性的虐待の予防・対応・ケアに関する研究（研究代表者 柳沢正義）」平成 22 年度総括分担研究報告書より作成

職権保護による調査保護では、児童相談所長の判断権限による処分理由の明示とそれについての理解と協力を当人にも保護者にも要請する努力は必須であるが（行政不服審査請求権の教示も含まれる）、判断決定と保護の実施において、当事者の意向は直接には関与しない職権保護でなければならない。表 80 に初期調査の結果として一時保護の実施状況を示す。

表 80. 在宅からの性暴力被害事案における一時保護（1354 事例）

| 性別 | 件数 | で安性的全暴 力の保 護と被 害調 査開 目す 的る | で般性的暴 力の保 護一被 害時 保を 護含 要め 件一 | 件性 で暴 力の 被 害以 外の 要 | 既に 別件 保護 中 | 保 護な し | 無 回 答 |
|----|---------------|--|---|--------------------------------------|---------------------|--------------|-------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 557 41.1 | 76 5.6 | 55 4.1 | 35 2.6 | 602 44.5 | 29 2.1 |
| 女性 | 1257 100.0 | 536 42.6 | 72 5.7 | 45 3.6 | 32 2.5 | 544 43.3 | 28 2.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 20 22.0 | 3 3.3 | 10 11.0 | 3 3.3 | 54 59.3 | 1 1.1 |

（別紙資料 2 A 票 表 40 の再掲）

本調査における在宅事例
1354 件中、性暴力被害に関する安全確保と調査目的の保護は 557 件：41.1% で、一時保護した総件数 723 件：53.4% の 77% を占める。

所票調査の表 95 で、全国の 74.5% の児童相談所が調査保護を意識的に検討している状況がこうした結果となって表れているものとみられる。

表 80 によると、対応のあった 1354 件中 602 件は保護を実施していない。この一時保護を実施していない 602 件についてその理由、対応を表 81～84 に示す。

表 81. 性暴力被害の疑い事例中、一時保護実施無し 602 件の内容

| 性別 | 件数 | 確証・根拠が弱い | い本人が強く抵抗して | 一保の状況のため | なそい後の展開が認め | さ子れどもいのる安全が確保 | その他 | 無回答 |
|----|--------------|-------------|------------|----------|------------|---------------|------------|-----------|
| 合計 | 602 100.0 | 131 21.8 | 75 12.5 | 2 0.3 | 7 1.2 | 308 51.2 | 69 11.5 | 10 1.7 |
| 女性 | 544 100.0 | 116 21.3 | 72 13.2 | 2 0.4 | 5 0.9 | 279 51.3 | 61 11.2 | 9 1.7 |
| 男性 | 54 100.0 | 15 27.8 | 2 3.7 | - | 1 1.9 | 28 51.9 | 7 13.0 | 1 1.9 |

(別紙資料 2 A 票 表 41 の再掲)

と、この程度の比率での保護の実施は妥当なのかもしれないし、もう少し調査保護に積極的な検討を加えるべきなのかもしれない。表 82 に保護しなかった事例の事後の対応、表 83 にその主たる機関、表 84 に以後の対応を示す。(別紙資料 2 A 票 表 42～43 の再掲)

表 82. 一時保護しなかった事例のその後の対応 (602 事例)

| 性別 | 件数 | 児童福祉司指導 | 継続指導 | 調査継続 | 終結 | 無回答 |
|----|--------------|-----------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 合計 | 602 100.0 | 58 9.6 | 259 43.0 | 91 15.1 | 166 27.6 | 28 4.7 |
| 女性 | 544 100.0 | 53 9.7 | 232 42.6 | 86 15.8 | 150 27.6 | 23 4.2 |
| 男性 | 54 100.0 | 4 7.4 | 26 48.1 | 5 9.3 | 14 25.9 | 5 9.3 |

表 83. 一時保護しなかった事例のその後の対応の主たる機関

| 性別 | 件数 | 児童相談所 | 要対協・市町村 | その他 | 無回答 |
|----|--------------|-------------|-----------|-----------|----------|
| 合計 | 408 100.0 | 347 85.0 | 38 9.3 | 16 3.9 | 7 1.7 |
| 女性 | 371 100.0 | 315 84.9 | 35 9.4 | 15 4.0 | 6 1.6 |
| 男性 | 35 100.0 | 30 85.7 | 3 8.6 | 1 2.9 | 1 2.9 |

表 84. 事後指導における何らかの対応の有無 (児童福祉司指導や継続指導など)

| 性別 | 件数 | あり | なし | 無回答 |
|----|--------------|-------------|-------------|-----------|
| 合計 | 408 100.0 | 271 66.4 | 123 30.1 | 14 3.4 |
| 女性 | 371 100.0 | 250 67.4 | 108 29.1 | 13 3.5 |
| 男性 | 35 100.0 | 20 57.1 | 14 40.0 | 1 2.9 |

(別紙資料 2 A 票 表 44 の再掲)

表 81～84 をみると、一時保護しなかった事例の 408 件 : 67.8% で初期調査直後から児童相談所は対応を継続し、そのうち 15% では調査を継続し、最終的に 45.0% の事例で何らかの対応を継続している。実施期間は確認できていないが行政処分である児童福祉司指導も 58 件 : 9.6% で実施している。

初期対応で一時保護しなかったからといって、約 7 割の事例では対応が終結しているわけではなく、調査継続となった事例からは後日、一時保護となった事例もあるようだが、調査期間が限定されているため、それらの全容は不明である。継続的な調査が必要となる。

④ 保護の告知と保護者アプローチの開始

児童相談所が子どもを一時保護すると、直ちに親権者への告知義務が発生する。子どもの所属機関等、家庭外の子どもの居場所で児童相談所が初期調査を行って、性暴力被害の疑いが確認され、調査保護が必要と判断された場合、そのまま職権保護となる。そのうえで保護者に一時保護を告知することが基本的手順である。ガイドライン 2011 年版ではそのように手順化されているが、実際の事例ではどのように推移しているのか、尋ねた。

表 85 は、子どもの一時保護についての保護者の同意の状態である。ここでいう「同意」とは、従来からの相談援助活動において、児童相談所運営指針が示す、本人、保護者・親権者の同意・承諾を得るために努力するとされている「同意」のことであり、何らかの児童福祉法上の手続きではない。厳密に言えば、この同意行為には法的な効果、つまり児童福祉法第 27 条による児童福祉施設入所措置の際のような、同意取り消しによる法的な効果は無い。ただし、多くの事例で、保護者の同意を得て保護していると答えている。「当

保護を実施しなかった第一の理由は子どもの安全が確保されているとの判断による。

次に多かったのは被害の確認・根拠が弱いとの判断による。

調査保護はあくまで、被害の事実性を検証・検討するための行為であること、児童相談所の初動の調査能力だけでは一定の限界があることなどを併せ考える

初：同意による保護」が341件：47.2%あるのだが、これらはあらかじめ保護者と接触してから一時保護しているのだろうか。通常は当初は職権による一時保護がまずとられ、保護者への告知の経過中に保護者が一時保護の趣旨を理解し、結果的に同意した場合が想定される。

表 85. 一時保護の保護者同意

| 性別 | 件数 | る当 初 保護 ： 同意 によ り | る当 初 保護 ： 職 権 によ り | 無 回 答 |
|----|-------|-------------------------------------|---|-------------|
| 合計 | 723 | 341 | 373 | 9 |
| | 100.0 | 47.2 | 51.6 | 1.2 |
| 女性 | 685 | 324 | 356 | 5 |
| | 100.0 | 47.3 | 52.0 | 0.7 |
| 男性 | 36 | 17 | 15 | 4 |
| | 100.0 | 47.2 | 41.7 | 11.1 |

(別紙資料2 A票 表45の再掲)

表 86. 一時保護の期間

| 性別 | 件数 | 1 4 日 以 下 | 満 1 5 日 以 上 | 満 3 0 日 未 来 | 未 満 6 0 日 未 来 | 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 0 日 以 上 | 無 回 答 | 平 均 |
|----|-------|-----------------------|----------------------------|----------------------------|---------------------------------|--|-------------|--------|
| 合計 | 723 | 93 | 132 | 201 | 158 | 33 | 50 | 56 |
| | 100.0 | 12.9 | 18.3 | 27.8 | 21.9 | 4.6 | 6.9 | 7.7 |
| 女性 | 685 | 88 | 130 | 194 | 146 | 30 | 50 | 47 |
| | 100.0 | 12.8 | 19.0 | 28.3 | 21.3 | 4.4 | 7.3 | 6.9 |
| 男性 | 36 | 4 | 2 | 7 | 12 | 2 | - | 9 |
| | 100.0 | 11.1 | 5.6 | 19.4 | 33.3 | 5.6 | - | 25.0 |

(別紙資料2 A票 表47の再掲)

従来の相談の流れでは、保護者のいない最初の子どもとの接触の場で一時保護がとられ、その後に保護者に事情を説明し、話し合った上で、その一時保護に保護者・親権者が同意した場合、一時保護の決定通知交付と同時にこれを同意による一時保護としている。ここでは旧来のこの方式を含めて同意保護と説明しているものと解される。

表 86 は一時保護の期間である。調査保護を設定した場合には、基本的に調査のための期日を設定する。従来からの相談関係における保護とは異なり、明らかに調査目的のために一方的な職権保

護をとるので、その期間は一定の限界設定としてあらかじめ提示されることが望ましい。

英米ではこれらの調査保護の権限には时限が設けられており、それを超えて子どもの身柄を拘束することはできない。調査保護以降の継続的な保護は裁判所の判断決定によって行われている。

同じような制度が無い日本では、別に意識的に調査保護の期日をその都度、児童相談所として設けることが必要かもしれない。

表 86 を見る限り、保護の期間設定にはかなりの幅がある。限定的な保護である調査保護としては概ね14日～30日未満程度ではないかと思われる。それ以上は通常の一時保護として扱うべきである。子ども虐待問題による保護であれば、介入的な親子分離のための一時保護となる。もちろんここで保護者の同意の有無が斟酌される可能性もあるが、子ども虐待問題での介入的な一時保護において保護者の同意要件を根拠とすることは極めて不安定で一貫性を欠く対応となる危険性がある。

时限設定された性暴力被害事案における調査保護では、関係者からの完全分離遮断が条件となることが原則である。家庭内性暴力被害にあった子どもは、ずっと家族や親族内の秘密の利害関係、裏切りと偽りの中に身を置いてきており、自分自身を被害者と思うよりも、大切な家族の信頼を裏切って秘密の悪事に関わった「悪い子」であると感じていることが多い。自分が受けてきた被害を開示することは、同時に自分の家族への裏切り行為を白日の下にさらすことと変わらず、その結果として大切な家族や親族を傷つけ、そして自分との愛情の絆を失うことを恐れている。こうしたジレンマを一時的にもリセット、あるいは緩和して事實を聴くことが、調査保護の重要な目的のひとつである。

調査保護において、本当に何があったのか、子どもの身に何が起こっていたのかを明らかにすることは、子どもに、もはや何も隠したり、うそをついたり、ごまかしたりしなくともよいことを示し、再被害を阻止し、必要なケアを開始するためにはそれが必要であることを示していく重要な作業なのである。

表 87 は在宅から一時保護された事例における、家族との接触制限の状況を示す。

職権保護を中心として多くの事例で初期段階、保護先の秘匿（31.0%）や通信・面会の制限が行われている。この中には一部、保護者の同意による保護も含まれているとみられる。子どもの状態が落ち着くまでの間、あるいは保護者の対応の方向性が見えてくるまで、またあるいは保護者・家族にとっての問題解決の方向性が見えてくるまで、いったん家族との直接接触を制限することは、ある種の子どもと家族にと

表 87. 一時保護中の接触制限の有無と内容 (723事例)

っては重要かつ必要な場合がある。その必要性を保護者に理解させ、共に子どもの安全と健全育成に責任を負って、児童相談所が要請する子どもとの接触制限への保護者の理解と協力（同意と承諾ではない）を求めるることは重要な課題である。

| 性別 | 件数 | 保護先の秘匿 | 通信・面会の制限 | 検討中 | 制限なし | 無回答 |
|----|--------------|-------------|-------------|----------|-------------|-----------|
| 合計 | 723 100.0 | 224 31.0 | 299 41.4 | 7 1.0 | 150 20.7 | 43 5.9 |
| 女性 | 685 100.0 | 212 30.9 | 284 41.5 | 7 1.0 | 143 20.9 | 39 5.7 |
| 男性 | 36 100.0 | 11 30.6 | 14 38.9 | - | 7 19.4 | 4 11.1 |

(別紙資料2 A票 表48の再掲)

告知することが特に重要である。問題の告知ということにおいては、たとえ一時保護を実施しなくとも、児童相談所の関与理由や今後の子どもの安全確保に向けた家族の協力を求めることも重要である。

表88に告知面接の実施状況、表89に面接の相手、表90に告知内容、表91にガイドライン2011年版で作成・提示されている冊子の使用状況を示す。ただし、この項目は全件数を母数とせずに一時保護件数を母数として見なければ全体像の把握としては不十分である。(別紙資料2 A票 表49~52を元に加工)

表88 一時保護の告知面接の実施状況

| 性別 | 件数 | 一時保護件数 | 実施 | (電話未実施告知) | (郵便通知) | その他 | 無回答 |
|-------------|---------------|-------------|-------------|-----------|----------|-----------|-------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 723 53.4 | 607 44.8 | 64 4.7 | 8 0.6 | 24 1.8 | 651 48.1 |
| 一時保護に対する構成比 | | | 100.0 | 84.0 | 8.9 | 3.3 | |
| 女性 | 1257 100.0 | 685 54.5 | 576 45.8 | 63 5.0 | 8 0.6 | 22 1.8 | 588 46.8 |
| 一時保護に対する構成比 | | | 100.0 | 84.1 | 9.2 | 1.2 | |
| 男性 | 91 100.0 | 36 39.6 | 29 31.9 | 1 1.1 | - | 2 2.2 | 59 64.8 |
| 一時保護に対する構成比 | | | 100.0 | 80.6 | 2.8 | 0.0 | |

表89. 一時保護の告知面接の相手

| 性別 | 件数 | 一時保護件数 | 親加害親と非加害親のみ | 非加害親のみ | 加害親のみ | その他 | 無回答 |
|-------------|---------------|-------------|-------------|------------|-----------|-------------|------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 723 53.4 | 226 22.1 | 75 5.5 | 40 3.0 | 714 52.7 | |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 31.3 | 41.4 | 10.4 | 5.5 | |
| 女性 | 1257 100.0 | 685 54.5 | 215 17.1 | 69 23.0 | 36 5.5 | 648 51.6 | |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 31.4 | 42.2 | 10.1 | 5.3 | |
| 男性 | 91 100.0 | 36 39.6 | 11 12.1 | 8 8.8 | 6 6.6 | 4 4.4 | 62 68.1 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 30.6 | 22.2 | 16.7 | 11.1 | |

表90. 告知面接の内容項目*

| 性別 | 件数 | 一時保護件数 | /ガ1イドライ | /ガ2イドライ | /ガ3イドライ | /ガ4イドライ | /ガ5イドライ | /ガ6イドライ | /ガ7イドライ | /ガ8イドライ |
|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| | | 項目中 | 項目中 | 項目中 |
| 合計 | 1354 100.0 | 723 53.4 | 255 18.8 | 301 22.2 | 261 19.3 | 189 14.0 | 177 13.1 | 271 20.0 | 113 8.3 | 24 1.8 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 35.3 | 41.6 | 36.1 | 26.1 | 24.5 | 37.5 | 15.6 | 3.3 |
| 女性 | 1257 100.0 | 685 54.5 | 244 19.4 | 287 22.8 | 249 19.8 | 180 14.3 | 169 13.4 | 259 20.6 | 108 8.6 | 24 1.9 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 35.6 | 41.9 | 36.4 | 26.3 | 24.7 | 37.8 | 15.8 | 3.5 |
| 男性 | 91 100.0 | 36 39.6 | 10 11.0 | 13 14.3 | 11 12.1 | 9 9.9 | 8 8.8 | 11 12.1 | 5 5.5 | - |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 27.8 | 36.1 | 30.6 | 25.0 | 22.2 | 30.6 | 13.9 | - |

表91. 保護者向け冊子の使用

| 性別 | 件数 | 一時保護件数 | めーに保護使用者用のた | 使一部改変して | 独自冊子使用 | 使用せず | 無回答 |
|-------------|---------------|-------------|-------------|-----------|----------|-------------|-------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 723 53.4 | 46 3.4 | 12 0.9 | 4 0.3 | 510 37.7 | 782 57.8 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 6.4 | 1.7 | 0.6 | 70.5 | |
| 女性 | 1257 100.0 | 685 54.5 | 45 3.6 | 12 1.0 | 4 0.3 | 484 38.5 | 712 56.6 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 6.6 | 1.8 | 0.6 | 70.7 | |
| 男性 | 91 100.0 | 36 39.6 | 1 1.1 | - | - | 25 27.5 | 65 71.4 |
| 一時保護に対する構成比 | | 100.0 | 2.8 | 0.0 | 0.0 | 69.4 | |

一時保護の告知面接については、およそ80%が面接実施している。面接の相手は基本的に、非加害保護者40%台、あるいは加害者(加害者が親権者である場合など)を含む保護者と最初に接触し30%台、面

* ガイドライン2011年版では、調査保護についての保護者への告知要件を6項目+選択的1項目の全7項目に整理し、保護者に児童相談所の対応と、基本的に共有される課題について説明するよう設定している。ガイドライン項目中の数字はその各項目No.である。

ガイドライン2011年版では、最初の一時保護の保護者告知の段階から、非加害保護者への子ども支援のためのアプローチまで、3冊の冊子案を作成、ワードで提供して自由に書き換えて使えるように提供している。「保護者のために」はその3冊目の子ども支援のための冊子である。

を参照

接が実施されている。郵便通知や電話のみの告知というのは、虐待対応全体としてもやや例外的な事情がある場合と考えられ、標準的ではない。

告知内容についてのガイドライン項目の使用は 412 事例 : 57.0%、1.2.3.6.項目の使用が多い。ガイドライン項目を全く使っていないとする回答が 17 件あるが内容は未確認で、類似内容があるとみられる。

⑤ 施設入所中に家族・親族からの性暴力被害の発見・発覚により対応開始した事例での安全確保と初期対応

施設に何らかの理由で入所したのちに、時期はいろいろあるにしろ、性的虐待や家庭内性暴力被害の疑いが発覚する事例は、経験的な印象としてはかなり多い。本調査では B-1、B-3 の 2 群が主にそれにあたり、60 事例が報告されているが印象としては少ない（全事例 1614 件の 3.7%）。本来の件数までは報告されずに残っているかもしれない。施設入所する何らかの理由に加えて、実は家庭内での性暴力被害もあったという事例であり、個々にはかなり複雑な重複問題を持っていることが多い。

家庭内性暴力被害問題については今回の調査では各所のかなりの調査協力があったものとみており、また、施設入所以後に発覚する家庭内性暴力事案は、直ちに家族との接触制限や、措置の同意問題に発展するため、比較的検索されやすい事例であるとみられる。件数としては、あるいはこの程度の頻度なのかもしれないが、やはりやや少ない印象はぬぐえず、一部の事例のみが報告されている可能性がある。

表 92 は B-1 群、B-3 群の発覚内容と被害の内容を示す。B-1 群、B-3 群それぞれの妊娠や児童ポルノ問題の状況は、別紙資料 3 B1 票 表 17、22、別紙資料 5 B3 票 表 17、22 を参照されたい。

表 92. 施設入所後に発覚した家庭内性暴力被害の発覚内容と被害の内容

| | の具体的な被害事実 | 告発白昧のなみ被害者の疑い | ら周辺の辺りに開通情報報か | 問題行動から | 目撃・物証から | 無回答 | 無回答 |
|--------------|-----------|---------------|---------------|--------|---------|-----|-----|
| 1 何らかの被害 暖昧 | 1 | 5 | | 2 | | | 8 |
| 2 非接触被害 | 5 | 2 | | 1 | 1 | | 9 |
| 3 接触被害(挿入不明) | 3 | 4 | 3 | 1 | | | 11 |
| 4 接触被害(非挿入) | 11 | 5 | 1 | | 1 | | 18 |
| 5 接触被害(挿入被害) | 8 | 2 | | 1 | | | 11 |
| (空白) | | | | | 1 | 2 | 3 |
| 総計 | 28 | 18 | 4 | 5 | 3 | 2 | 60 |

*これらについては「別紙資料 3 B1 票 表 15」

施設入所中に性的虐待・家庭内性暴力被害の疑い問題が発覚した場合、まず施設職員による聴き取りが行われ、その上で児童相談所に連絡されることが多い。緊急性のある場合や調査の専門性が問われる場合には即座な連絡が必要である。大半の事例が即日か 1 週間以内に連絡されている。*

別紙資料 5 B3 票 表 15 参照。

B1 群の被害の時期をみると（別紙資料 3 B1 票 表 19）入所以前が多く（11 件中 8 件）B3 群では施設入所前と入所後が、ほとんど半々（別紙資料 5 B3 票 表 21）など違いがみられているが、元々の数が少ないとから、あまり詳細な分析にはなじまないと考えられる。

B1 群と、B3 群に子どもの居場所についての対応が分かれた理由は様々であろうが、子どもの安全に関する判断があつたものとみられる。別紙資料 3 B1 票 表 31 をみると B1 群の事例が事実確認のために調査保護を要したことが分かる。

B1 群については一時保護の保護者告知、面会の制限等が行われた。加害を疑われる者は家族内におり、そういう意味では在宅の一時保護と同様の対応が行われている（別紙資料 3 B1 票 表 32～37）

⑥ 施設入所中に家族・親族以外からの性暴力被害事案の発見・発覚で対応開始した事例での安全確保と初期対応

施設入所中に家庭外性暴力被害が発見・発覚したことによって対応開始された事例については、基礎的なデータが十分に収集されておらず母集団が変則的である可能性があること、少なくとも回収された事例で見る限り、家庭内性暴力をはじめとして、多様な重複問題を持ち、その多くが施設入所以前からの問題を多く抱えて施設に入所してきた事例であることがうかがわれる（表 47、48）。おそらく今回の調査で検索された事例は特にそうした特徴を持った事例であったのかもしれないが、詳細は今後のデータ収集による検討を待ちたい。

B2群、B4群は、施設入所後に家族・親族以外からの性暴力被害の発見・発覚で対応開始された事例である。表47によれば、性的虐待、家庭内性暴力、と無記入を除く134件：67%が家庭外性暴力被害か少なくとも性的虐待・家庭内性暴力被害が認められていない事例数となっている。施設入所中全事例データからの加害者検索では155例が性的虐待・家庭内性暴力被害を確認されていない事例となっており（表64）、概ねこのあたりの数が今回の調査での施設入所中の子どもで、性的虐待・家庭内性暴力被害以外の被害問題で対応開始された事例数であるとみられるが、その件数にどの程度の対象数の把握率・代表性があるのかは不明であることから、これ以上の検討は行わず、B2群、B4群全体、施設入所後に家族・親族以外からの性暴力被害の発見・発覚で対応開始された事例全体を概観するにとどめる。

発覚の経過は児童福祉施設による通報が50%、残りの大半が子ども本人の開示で、そのほかの機関等の経路は少ない。おそらく在宅の事例であれば、子どもが被害を開示したとしても、それを聞いた第三者や機関が通告者として識別されるのに對し、施設にいる子どもは直接に職員に開示することで子どもからの開示として識別される比率が高いとみられる。表93に発覚時の被害情報と被害内容、表94に発覚から児童相談所に通報されるまでの時間を示す。

表93. 施設入所中に発見・発覚した家庭外性暴力被害事例の発覚時情報と被害内容

| | の具 告白的 な被 害事 実 | 告 白 の な み 被 害 の 疑 い | ら周 の辺 疑 い 連 接 情 報 か | 問 題 行 動 か ら | 目 擊 ・ 物 証 か ら | 無 回 答 | 無 回 答 |
|--------------|----------------------------|--|---|----------------------------|---------------------------------|-------------|-------------|
| 1 何らかの被害 暖昧 | 5 | 4 | 8 | 2 | 3 | | 22 |
| 2 非接触被害 | 7 | 1 | 1 | | 2 | | 11 |
| 3 接触被害(挿入不明) | 13 | 1 | 5 | 2 | 2 | | 23 |
| 4 接触被害(非挿入) | 68 | 12 | 17 | 4 | 11 | 1 | 113 |
| 5 接触被害(挿入被害) | 13 | 2 | 4 | 2 | 2 | 1 | 24 |
| (空白) | 1 | | | 1 | 2 | 3 | 7 |
| 総計 | 107 | 20 | 35 | 11 | 22 | 5 | 200 |

表94. 施設入所中に発見・発覚した家庭外性暴力被害事例の児童相談所に通報されるまでの時間

| 性別 | 件 数 | 含 む 1 週 目 (即 座) | 2 週 目 | 3 週 目 以 降 | 無 回 答 |
|------|--------------|-----------------------------------|-------------|-----------------------|-------------|
| 合 計 | 200 100.0 | 142 71.0 | 17 8.5 | 17 8.5 | 24 12.0 |
| 女性 | 113 100.0 | 82 72.6 | 5 4.4 | 7 6.2 | 19 16.8 |
| 男性 | 82 100.0 | 56 68.3 | 12 14.6 | 10 12.2 | 4 4.9 |
| 男女合計 | 195 | 138 | 17 | 17 | 23 |
| 欠損値 | 5 | 4 | 0 | 0 | 1 |

被害発覚については、具体的な被害事実の告白によるものが圧倒的に多い（表89、107件：53.5%）

児童相談所への通報・連絡は71.0%が即座か1週間以内となつており、概ねすぐに連絡する体制にあることが分かる（表90）。

表95. 施設入所中に発見・発覚した家庭外性暴力被害事例の一時保護

| 性別 | 件 数 | あ り | な し | 無 回 答 |
|-----|--------------|------------|-------------|-------------|
| 合 計 | 200 100.0 | 36 18.0 | 158 79.0 | 6 3.0 |
| 女性 | 113 100.0 | 20 17.7 | 88 31.0 | 5 4.4 |
| 男性 | 82 100.0 | 16 19.5 | 66 80.5 | 0 0.0 |
| 欠損値 | 5 | 0 | 4 | 1 |

B2群では31件中30件：96.8%が一時保護されているが、B4群でも結果的には時期は不明だが6件が一時保護となっている（表95）。

B2群、B4群の調査時点での居場所は表96のとおりである。大半が元の施設において支援継続されている（安全確保されたとの理由 B2群においては加害者排除が83.3%である）。

表96. 施設入所中に発見・発覚した家庭外性暴力被害事例の一時保護後の最終的な居場所

B2群、B4群については、調査データの不足が大きいため、全体としてこれ以上の詳しい分析をすることを差し控えたい。

諸データは別紙資料に全質問項目についての男女クロス表として掲載したので、必要に応じて参照されたい。これらが今後の検討に資するデータとなることに期待したい。

| 性別 | 件数 | 施設継続 | 措置変更 | 引き取り | 一時保護中 | その他 | 無回答 |
|-----|--------------|-------------|------------|----------|----------|----------|------------|
| 合計 | 200 100.0 | 154 77.0 | 19 9.5 | 6 3.0 | 0 0.0 | 0 0.0 | 21 10.5 |
| 女性 | 113 100.0 | 85 75.2 | 13 11.5 | 3 2.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 12 10.6 |
| 男性 | 82 100.0 | 64 78.0 | 6 7.3 | 3 3.7 | 0 0.0 | 0 0.0 | 9 11.0 |
| 欠損値 | 5 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

3)–7. 加害者について

児童福祉における子どもの性暴力被害対応の第一の目的は、子どもの安全確保と再被害の阻止である。ほかの虐待問題・不適切養育問題と違って性暴力被害は発見・確認が難しいうえに、明らかな加害動機を持つ人物による執拗な長期にわたる進行する被害が想定されるだけに、緊急の強い介入的対応が必要であると共に、誰からのどんな危険が潜在しているのか、見極めることが重要となる。

児童福祉は犯罪捜査とは異なり、加害者を追及・発見すること、さらには処罰することに最終目的を置かないし、そうした権限があるわけではない。しかし、今日の状況は、児童ポルノ・児童買春問題をはじめ、性犯罪の危険が子どもに迫っている事態もあり、その対応と無縁でいることはできない状況もある。

児童福祉において、子どもへの性暴力加害者の特定は、子どもと加害者の間で共有されてきた人間関係、家族・親族関係を正確に把握し、子どもが体験してきた事実を正確に理解するため、そして子どもの再被害を確実に阻止し、必追なケアを開始するためにぜひとも必要な課題である。

多くの加害者が子どもと日常生活において重要な人間関係を持っている。中には唯一最も重要な養育者である場合もある。こうした親密な関係における性暴力による支配・侵害は、被害者を生涯にわたって苦しめ、問題・症状を反復的に増幅・発展させるようなダメージを与えるのだが、しばしば加害者はそうした事態の深刻さを認識しておらず、子どもへの責任の自覚が全く欠けていることが多い。こうした事態にストップをかけ、こうした侵害状況に遭遇させられた子どもの経験を深く理解すると共に、加害者を二度と子どもに近づけないための対応が開始されなければならない。性的侵害行為は被害者に修復困難なダメージを与える重大な加害行為であるという認識がまず必要である。そこにあるのは醜悪な弱者への独りよがりで自己中心的な支配と利用・搾取である。

①各群で識別された加害者 A群

A群は在宅状態か、別件での一時保護状態にある子どもで、何らかの性暴力被害の発見・発覚から児童相談所の対応が開始された事例群である。その中核は性的虐待やそのほかの家庭内性暴力事例である。

表47によれば、A群は1354件あり、そのうち810件：59.8%が親権者・監護責任者による性的虐待にあたる。また348件：25.7%が親権者・監護責任者以外の家庭内性暴力被害にあたる。両者を合わせると1152件：85.1%が何らかの家庭内性暴力被害にあたる事例数である（女性被害の家庭内性暴力1073件：85.4%のうち、性的虐待747件：59.4%。そのほかの家庭内性暴力326件：25.9%、男性被害の家庭内性暴力79件のうち、性的虐待59件：64.8%、そのほかの家庭内性暴力20件：22.0%、男女欠損値は6）。そのほかの196件は家庭外性暴力、あるいは不特定者、あるいはそれら全部の多重被害事例である（無回答は25件）。

確認された主な加害者を、表97、図36に示す。事例数1354件に対して1464人の加害（加害を疑う）者が確認されている。女性被害1257件に対して1361人、男性被害91件に対して98人の加害者が確認されている。家庭内性暴力にあたる加害者は女性1158件に対して1176人（そのうち性的虐待747件にあたる加害者数878人、そのほかの家庭内性暴力326件にあたる加害者数は298人で複数の被害者を生んだ加害者と、なお未確認の者がいることが分かる。）、男性79件に対して91人（そのうち性的虐待59件に対して76人、そのほかの家庭内性暴力20件に対して15人おり、これについても複数の被害者を生んだ加害者と未確認の者がいる）。件数に対して加害者数が上回っているのは、いずれも多重被害となる複数加害者による被害があるためである。

表97. 在宅で何らかの性暴力被害の発見・発覚から児童相談所の対応が開始された事例群の主な加害者（加害の疑い含む）

| A | 件数 | 無回 | | 加害者合計 | 答合計 |
|-----|--------------|------------|------------|-------|------|
| | | 詳細不明女性(複数) | 詳細不明男性(複数) | | |
| | 実父 | 1354 | 429 | 230 | 91 |
| | 養父 | 93 | 112 | 1 | 1 |
| | 継父 | 1 | 1 | 175 | 1 |
| | 内縁男性 | 49 | 27 | 27 | 36 |
| | 実母 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 養母 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 継母 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | きよだい女性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | きよだい男性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | おじ | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | おば | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 男性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 女性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(成年男性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(成年女性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(児童男性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(児童女性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(乳童男性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(乳童女性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(未就学男性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設関係者(未就学女性) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 見知らぬ男性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 見知らぬ女性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設外の顔見知り男性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 施設外の顔見知り女性 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 詳細不明女性(単数) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 詳細不明女性(複数) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 詳細不明男性(単数) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 詳細不明男性(複数) | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 無 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 回 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| | 合計 | 1478 | 42 | 1464 | 14 |
| 合計 | 1478 | 42 | 1464 | 14 | 1478 |
| 女性 | 1373 | 3 | 1361 | 12 | 1373 |
| 男性 | 99 | 1 | 98 | 1 | 99 |
| 欠損値 | 6 | 1 | 5 | 1 | 6 |

■女性　　男性

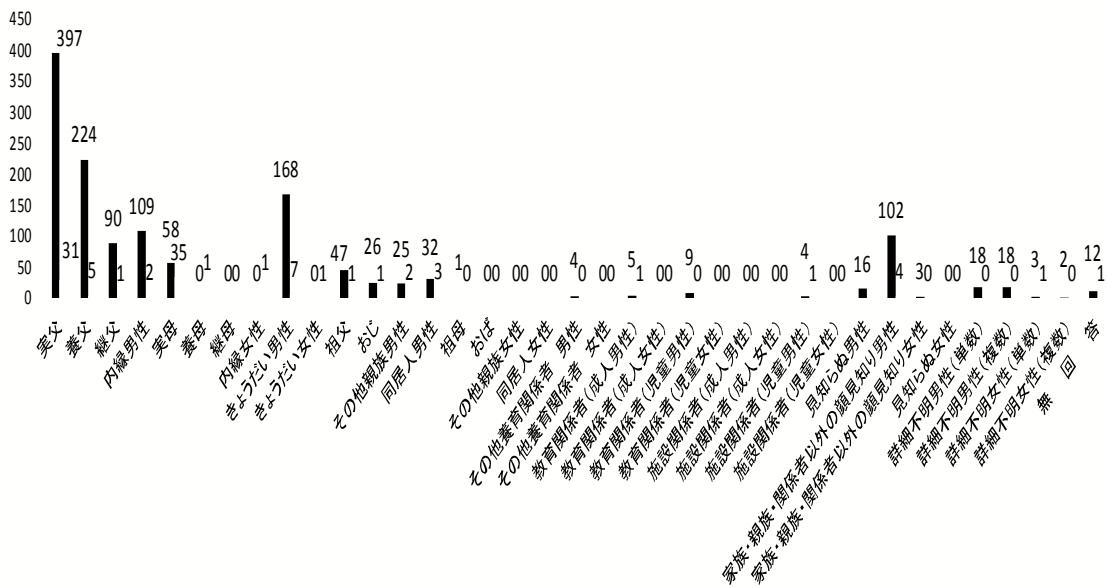


図 36 在宅の性暴力被害事例で確認された主な加害者（加害の疑い含む）

②各群で識別された加害者 B-1、B-3 群

B-1、B-3 群は施設入所している子どもで、何らかの家族内性暴力被害（性的虐待とそのほかの家庭内性暴力被害）の発覚・発見により性暴力被害についての関与が開始された事例である。

事例数 60 に対して 73 人の主な加害（加害を疑う）者が確認され、家庭内の重複被害だけでなく家庭外の被害との重複も認められる（表 98）。女性 49 件における加害（疑い含む）者は 60 人（うち性的虐待にあたる 25 件の加害者 41 人、そのほかの家庭内性暴力 16 件にあたる加害者 15 人）。男性 9 件における加害（疑い含む）者は 12 人（うち性的虐待 4 件にあたる加害者 6 人、そのほかの家庭内性暴力 3 件にあたる加害者 4 人）である。

表 98. 施設入所後に性的虐待・家庭内性暴力被害が発覚した事例で確認された主な加害者（加害の疑い含む）

| B-1 B-3 | 件数 | 加害者 | | | | | | | | | | | | | | | | 無回答 | 合計 | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----|-----|----|----|------|----|----|----|---------|---------|---------|-------|---------|----|----|----------|-------|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|--------|------------|------------|------------|------------|---|----|
| | | 実父 | 養父 | 継父 | 内縁男性 | 実母 | 養母 | 継母 | きょうだい男性 | きょうだい女性 | その他親族男性 | 同居人男性 | きょうだい女性 | 祖母 | おじ | その他養育関係者 | 同居人女性 | その他の親族女性 | 教育関係者(成年男性) | 教育関係者(児童女性) | 施設関係者(成年男性) | 施設関係者(児童男性) | 施設関係者(成年女性) | 施設関係者(児童女性) | 施設関係者以外の顔見知り男性 | 見知らぬ女性 | 詳細不明女性(複数) | 詳細不明女性(単数) | 詳細不明女性(複数) | 詳細不明女性(単数) | | |
| 合計 | 60 | 24 | 10 | 3 | 5 | 6 | 0 | 0 | 14 | 0 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 73 | 1 | 74 |
| 女性 | 49 | 20 | 10 | 3 | 4 | 4 | 0 | 0 | 11 | 0 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 60 | 0 | 60 |
| 男性 | 9 | 3 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 0 | 12 |
| 欠損値 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | |

③各群で識別された加害者 B-2+B-4 群

B-2、B-4 群は施設入所している子どもに、何らかの家庭外性暴力被害 (性的虐待・家庭内性暴力に該当しない何らかの性暴力被害) の発見・発覚により性暴力被害についての関与が開始された事例である。

結果的には発見・発覚の端緒となった家庭外性暴力被害以外に、現在・および過去の家庭内、家庭外性暴力被害が重複していた事例があり、性的虐待・家庭内性暴力が女性被害で 33 件 : 29.2%、男性被害で 23 件 : 28.1 含まれており、実態の複雑さが浮かび上がった (表 47)。事例総数は 200 件であるが確認された主な加害者 (加害疑い含む) は 210 人である (表 99)。

女性 113 件に対して加害 (疑い含む) 者は 120 人、男性 82 件に対して加害 (疑い含む) 者は 86 人である (欠損値 5)。

表 99. 施設入所後に家庭外性暴力被害の発見・発覚により対応開始された事例で確認された主な加害者 (加害の疑い含む)

| B-2 B-4 | 合計 | 加害者 | | | | | | | | | | | | | | | | 無回答 | 合計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|-----|-----|----|----|------|----|----|----|---------|---------|---------|-------|---------|----|----|----------|-------|----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|--------|------------|------------|------------|------------|---|---|---|---|---|-----|-----|-----|-----|
| | | 実父 | 養父 | 継父 | 内縁男性 | 実母 | 養母 | 継母 | きょうだい男性 | きょうだい女性 | その他親族男性 | 同居人男性 | きょうだい女性 | 祖母 | おじ | その他養育関係者 | 同居人女性 | その他の親族女性 | 教育関係者(成年男性) | 教育関係者(児童女性) | 施設関係者(成年男性) | 施設関係者(児童男性) | 施設関係者(成年女性) | 施設関係者(児童女性) | 施設関係者以外の顔見知り男性 | 見知らぬ女性 | 詳細不明女性(複数) | 詳細不明女性(単数) | 詳細不明女性(複数) | 詳細不明女性(単数) | | | | | | | | | |
| 合計 | 200 | 2 | | 2 | | | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 1 | 4 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 4 | 0 | 149 | 16 | 10 | 6 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 210 | 2 | 212 | |
| 女性 | 113 | 1 | | 2 | | | | | 2 | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 4 | 0 | 70 | 9 | 9 | 6 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 120 | 0 | 120 |
| 男性 | 82 | 1 | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 76 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 86 | 0 | 86 |
| 欠損値 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 1 | 5 | | |

④ 加害者の総計

表 100 に全件の加害者を示す。加害者は極めて多彩である。欠損値を除く全事例数 1601 件に対して確認された主な加害者 (加害疑い含む) は 1747 人である。かなりの事例で重複加害者が存在すると同時に、複数の被害者を生んだ加害者もいる。またなお不明な加害者がこれ以外にいる。このうち性的虐待の要件にはほぼ該当する者は 1009 人、そのほかの家族・親族・同居人はほぼ 349 人で、これは家庭内性暴力全体の 25.7% である。在宅被害事例に限ってみても 1354 件に対して加害者は 1464 人、そのうち親権者・監護責任者にあたるのはほぼ 957 人、そのほかの家族・親族・同居人は 320 人で、家庭内性暴力全体の 25.1% は親権者・監護責任者ではない人物である。

表 100. 児童相談所が平成 23 年度に扱った性暴力被害事案の加害者 (加害疑いを含む)

| 子どもの 当 初 の居 場 所 | 被 害 者 実 件 数 | 加 害 者 | 小計 | | | | | | | | | | | | 無 回 答 | | | 総 延 加 害 者 数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|----------------------------|-------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|-----------------------|------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|----|----|----|-----|---|----|----|----|-----|-----|----|------|-----|---|---|----|----|-----|-----|-----|-----|------|
| | | | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縁 男 性 | 内 縁 女 性 | 内 縊 男 性 | 内 縊 女 性 | 内 縊 男 性 | 内 縊 女 性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 実父 | 養父 | 繼父 | 実母 | 養母 | 繼母 | 祖 父 | お じ | 同 居 人 男 性 | お ば | そ の 他 親 族 男 性 | そ の 他 親 族 女 性 | そ の 他 親 族 男 性 | そ の 他 親 族 女 性 | そ の 他 親 族 男 性 | そ の 他 親 族 女 性 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 1354 | 429 | 230 | 91 | 112 | 93 | 1 | 1 | 957 | 175 | 49 | 27 | 27 | 36 | 1 | 1 | 4 | 6 | 9 | 5 | 16 | 106 | 3 | 18 | 18 | 4 | 2 | 507 | 14 | 1464 | | | | | | | | | | |
| 在 宅 | 女性 | 1257 | 397 | 224 | 90 | 109 | 58 | | 878 | 168 | 47 | 26 | 25 | 32 | 1 | | 4 | 5 | 9 | 4 | 16 | 102 | 3 | 18 | 18 | 3 | 2 | 483 | 12 | 1361 | | | | | | | | | | |
| | 男性 | 91 | 31 | 5 | 1 | 2 | 35 | 1 | 1 | 76 | 7 | 1 | 2 | 3 | 1 | | | 1 | | 1 | | 4 | | | 1 | 22 | 1 | 98 | | | | | | | | | | | | |
| | 欠損値 | 6 | 1 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 5 | | | | | | | | | | |
| 合計 | 260 | 26 | 10 | 3 | 7 | 6 | 0 | 0 | 0 | 52 | 16 | 0 | 2 | 2 | 4 | 0 | 0 | 0 | 14 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 4 | 0 | 153 | 16 | 12 | 6 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 231 | 3 | 283 | |
| 施設 | 女性 | 162 | 21 | 10 | 3 | 6 | 4 | 0 | 0 | 0 | 44 | 13 | 0 | 2 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 13 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 4 | 0 | 72 | 9 | 11 | 6 | 1 | 0 | 3 | 3 | 0 | 0 | 136 | 0 | 180 |
| | 男性 | 91 | 4 | 0 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 | 0 | 7 | 3 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 91 | 0 | 98 | | |
| | 欠損値 | 7 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 3 | 5 | | | |
| 合計 | 1614 | 455 | 240 | 94 | 119 | 99 | 1 | 0 | 1 | 1009 | 191 | 49 | 29 | 29 | 40 | 1 | 1 | 0 | 1 | 8 | 0 | 7 | 0 | 11 | 1 | 4 | 0 | 158 | 16 | 28 | 112 | 4 | 0 | 21 | 21 | 4 | 2 | 738 | 17 | 1747 |
| 女性 | 1419 | 418 | 234 | 93 | 115 | 62 | 0 | 0 | 0 | 922 | 181 | 47 | 28 | 26 | 35 | 0 | 1 | 0 | 1 | 7 | 0 | 6 | 0 | 11 | 1 | 4 | 0 | 76 | 9 | 27 | 108 | 4 | 0 | 21 | 21 | 3 | 2 | 619 | 12 | 1541 |
| | 男性 | 182 | 35 | 5 | 1 | 3 | 37 | 1 | 0 | 1 | 83 | 10 | 1 | 1 | 3 | 4 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 113 | 1 | 196 | | |
| | 欠損値 | 13 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 4 | 10 | | | | |

3)–8 子どもの被害確認

これ以降の検討については、まず、在宅状態からの問題発見による性的虐待・家庭内性暴力被害事例を中心に検討を加えることとした。理由は以下のとおりである。

- a 今回の調査で施設入所中の事例については、その全容を把握するに足りる事例収集状態に達していないことが分かっている。
- b aの要件に加えて施設入所中の児童については事例数が少なく、かつ関与する環境要因が多様なため、対応体制、再被害阻止とケアの体制整備においても、在宅からの対応とは基本的に異なる複雑さを抱えている。
- c 在宅からの被害発見対応については、一定の範囲で児童相談所全体の対応を検討できる事例数が確保されているとみられる（まだ一部例数が少ないところもあるが）。
- d ガイドライン 2011 年版の対応課題との照合においても、まず家庭内性暴力事案の対応が課題となってきた経過があり、その点の整理を先に進めることにメリットがある。
- e 施設事例の収集状況にはばらつきがあり、データの質を慎重に検討する必要がある。全体的な傾向について基礎的なデータ提示が可能か考えると、全体を並べて比較検討するにはデータのばらつきが問題となる。

したがってこれ以降は在宅状態からの性的虐待・家庭内性暴力事案を中心に、親権者の監護下において何らかの性暴力被害が発見・発覚された事例（A群 女性被害）に焦点を絞って検討を加え、施設入所した子どもの性暴力被害問題については別の検討の機会を待ちたい。

① 期調査段階で確認された被害の時期と頻度

在宅事例の初期対応から調査保護の実施については既に3)–6で検討した。被害の状況についても表 75、76 でかなりの被害情報を確認していることが分かった。この時点での被害発生の時期と頻度内容は表 101、102 のとおりである（表中 AQ21 等の表記は A 票の質問 No.21 の意味である）。

表 101. 初期調査段階で確認された被害の時期と頻度内容 女性

| AQ21 被害全体の時期・機関 | AQ22 性暴力被害の頻度 | | | | 総計 | |
|------------------|---------------|-------|------|-----------|-------|-------------|
| | 1常態化 | 2断続的 | 3単回 | 4詳細不明(空白) | 件数 | 構成比 |
| 1.現在も被害継続(危険性あり) | 179 | 104 | 9 | 38 | 7 | 337 26.8% |
| 2過去の被害(現在の危険なし) | 71 | 126 | 62 | 67 | 9 | 335 26.7% |
| 3断続的(再発の危険あり) | 23 | 133 | 14 | 33 | 4 | 207 16.5% |
| 4不明 | 1 | 11 | 9 | 118 | 3 | 142 11.3% |
| (空白) | 1 | 6 | 1 | 3 | 225 | 236 18.8% |
| 総計 | 275 | 380 | 95 | 259 | 248 | 1257 100.0% |
| 構成比 | 21.9% | 30.2% | 7.6% | 20.6% | 19.7% | 100.0% |

表 102. 初期調査段階で確認された被害の時期と頻度内容 男性

| AQ21被害全体の時期・機関 | AQ22 性暴力被害の頻度 | | | | 総計 | |
|------------------|---------------|-------|------|-----------|-------|--------|
| | 1常態化 | 2断続的 | 3単回 | 4詳細不明(空白) | 件数 | 構成比 |
| 1.現在も被害継続(危険性あり) | 7 | 5 | | 3 | 15 | 15.5% |
| 2.過去の被害(現在の危険なし) | 7 | 11 | 9 | 8 | 35 | 36.1% |
| 3.断続的(再発の危険あり) | 1 | 9 | | 3 | 13 | 13.4% |
| 4.不明 | | | | 14 | 1 | 15.5% |
| (空白) | | | 2 | | 17 | 19.6% |
| 総計 | 15 | 27 | 9 | 28 | 18 | 97 |
| 構成比 | 15.5% | 27.8% | 9.3% | 28.9% | 18.6% | 100.0% |

初期調査の課題の焦点は、子どもからの被害の開示について、どのような被害と危険が実際にありそうなのか、その危険から子どもを安全に守るためにどうしたらよいのかを決めることがある。具体的には、子どもを安全確保と調査目的で緊急保護した上で、慎重な調査を行う必要があるかどうかの臨床的判断と、その保護を行うための法的根拠の確認が、初期調査の課題である。

子ども自身がそうした調査に積極的に協力する確率はあまり高くない。多くの子どもがいたん誰かに被害の話をしたり、被害をほのめかしたりしたとしても、その出来事自体は、内密な、子どもと誰かとの人間関係の限定条件において、被害の開示が試みられたということである場合が多い。それが通告されることにより、最初の人間関係の範囲を超えて情報が扱われるようになることで、子どもは全く異なる対人場面・社会的場面の課題に直面することになる。さらに子どもがほのめかすか、開示した情報がどの程度、実際に起こっていることを正確に表現しているかは不明確である。単にたとえ話のように、ほのめかしたに過ぎないのか、何か具体的な事実について話したのかも判然としない場合も多い。

これらの事態に対し、児童福祉の観点、子どもの最善の利益の確保・保証の観点は、子どもの性暴力被害に関する情報開示は、最初の時点では、内容そのものの精査よりも、なぜ、今、ここで、こうした情報が開示されたのかということを、最も重視する。初動調査はしたがって、具体的的事実の詳細確認をめざすことが難しくても、今、子どもは何に直面し、どんなことに困っているかを感じているかを聴こうとすることが重要なのである。ガイドライン2011年版が調査保護の要件として挙げた①②⑤の要件（【性暴力被害についての通告段階での情報分類】P47参照）はその点での手がかり情報を把握し見逃さないための重要な事項である。

② 初期被害調査によって変更される通告時の被害内容

多くの実務経験者が、性暴力被害についての子どもの開示情報が、環境条件によって推移・変遷することを経験している。結果的に子どもの言うことを簡単に信じてはいけないと懐疑的に考えるようになった専門家もあれば、より慎重に配慮した環境条件で聴くことが必要であると考えるようになった専門家もいる。中にはたとえその話に何がしかの真実が含まれていたとしても、それを直ちに身体的虐待やネグレクト問題と同等に社会的な問題として扱うことは、誰の為にも益するところより、ダメージを与える危険性の方が高いと感じている専門家もいる。それらはすべて個としての体験に限定される専門性の限界を示している。虐待問題の複雑さと深刻さ、被害者が抱えるジレンマ問題は、専門家がチームとなり、組織、制度、法律のネットワークによって対応しなければ解くことの出来ないパズルである。おそらく我々はまだその入り口、端緒についていたばかりである。

表103は、最初の通告段階で把握された被害内容情報が、初期調査の過程を通ることでどのように推移・変遷するか、そのことを児童相談所はどのように扱っているかを示す。対象は在宅での性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた1257事例（女）である。

【表103の読み方】

一番左の項は通告時点で確認された被害内容が縦に並んでいる。小さな数字は、最上段に示されているように、その群で調査保護された事例数、ほかの理由で保護された事例数、合計一時保護件数と保護率を示す。左から3・4列目は初期調査時点で確認された被害内容と件数である。通告時確認された被害内容は初期調査によってその約半数～6割の被害内容が変更される結果となっている。その右はそれぞれの被害確認内容別ごとの一時保護の有無状況、その右は一時保護無しとなった理由別件数、一番右が通告時から初期被害調査を実施した後の情報変更された件数と構成比である。

表103. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた1257事例（女）の被害情報の推移と対応（初期段階）

| 通告受理時点での被害内容 | 件数 | 初期調査時点での被害内容 | 件数 | 一時保護の有無 | | 一保無しの理由 | | | | | | 合計 | 被害情報の変遷 | | | | | |
|--------------|------|--|---|--|--|-------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|--|-------------------------|--------------|----------|
| | | | | 調査保護 | あり | 般 | なし | 空白 | 1根拠・確認乏しい | 2本人が強く抵抗 | 3一保状況のため | 4その後の展開読めず | 5子どもの安全確保有 | 6その他 | | 通告時情報 | 初期調査 | 通告時情報構成比 |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5接触被害(挿入被害) | 187 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 67 23 16 1 21 59 | 62 22 11 1 9 36 | 4 1 2 1 11 18 | 1 3 3 1 2 5 | 1 2 2 1 2 5 | 1 1 1 1 3 7 | 1 1 1 1 3 3 | 1 1 1 1 3 7 | 1 1 1 1 3 3 | 1 1 1 1 3 3 | 1 1 1 1 3 3 | 1 1 1 1 3 3 | 1 1 1 1 3 3 | 187 120 | 67 64.2% | 35.8% |
| 4接触被害(非挿入) | 380 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 43 187 18 14 37 81 | 35 93 17 8 4 21 | 3 18 1 6 31 51 | 5 73 1 1 31 51 | 3 12 9 1 1 35 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 43 380 150 | 11.3% 49.2% 39.5% | | |
| 3接触被害(挿入不明) | 162 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 18 57 34 4 18 31 | 6 9 8 4 12 31 | 2 12 3 4 5 1 | 10 35 23 1 1 1 | 3 1 1 1 1 1 | 1 19 15 2 2 5 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 75 162 53 | 46.3% 21.0% 32.7% | | |
| 2非接触被害 | 56 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 0 15 13 10 1 17 | 0 13 3 1 9 2 | 0 2 8 3 1 1 | 0 1 1 1 1 1 | 0 1 1 1 1 1 | 0 2 6 2 2 0 | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 | 0 0 0 0 0 0 | 28 56 18 | 50.0% 17.9% 32.1% | | |
| 1何らかの被害 暖昧 | 243 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 11 35 18 14 78 87 | 4 13 13 2 1 4 | 1 2 8 1 11 11 | 6 3 1 3 8 38 | 1 1 1 1 1 1 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 1 1 1 1 8 7 | 78 243 87 | 32.1% 32.1% 35.8% | | |
| 空白 | 229 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 21 40 29 13 55 71 | 6 9 11 5 12 9 | 6 18 11 7 32 1 | 9 3 1 3 1 1 | 1 1 1 1 1 1 | 8 2 1 2 9 1 | 9 6 4 2 20 12 | 9 6 4 2 20 12 | 9 6 4 2 20 12 | 9 6 4 2 20 12 | 9 6 4 2 20 12 | 9 6 4 2 20 12 | 158 229 71 | 69.0% 31.0% | | |
| 合 計 | 1257 | 5接触被害(挿入被害) 4接触被害(非挿入) 3接触被害(挿入不明) 2非接触被害 1何らかの被害 暖昧 空白 | 1257 160 357 128 56 210 346 | 536 113 160 57 16 73 117 | 149 31 48 49 7 17 41 | 556 1 0 144 2 33 117 | 16 0 5 2 0 3 6 | 109 8 28 3 6 16 182 | 69 0 18 1 0 7 6 | 2 1 1 1 1 0 53 | 5 1 1 1 1 0 19 | 253 0 1 1 1 0 0 | 55 3 8 29 17 50 67 | 63 3 8 6 3 12 23 | 556 31 144 49 33 117 182 | 1257 1257 | 1257 1257 | 1257 |
| 初期調査時点での被害内容 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

ここでまず注目されるのは、通告段階での被害情報は、その直後の初期調査によって、およそ、その6割(64.4%)が変更されていることである。当初の情報のままであったのは平均で全体の35.6%(17.9%~49.2%の間)であった。当初想定された問題がより曖昧になったり、被害内容がそれほど深刻かどうかは分からなくなっていたりしたものが1257件中、428件:34.0%あった。反対に、当初の情報よりもより具体的な被害事実が判明するなど、より深刻な事実情報の開示に進んだものが382件:30.4%である。最初の通告段階での挿入被害の情報、最初の段階で全く事実関係がつかめない事態は共に、その60~70%が修正され、より深刻か、軽い事態が見いだされ変更されている。そのほかの水準のいすれの情報も、10~50%の範囲、平均で30%台の割合で、より軽いかあいまいな被害情報に変化し、同時に30%前後はより深刻な情報が明らかとなっている。

これに対し、児童相談所は初期調査段階で対象の42.6%:536件を調査保護している。そのほかの保護も含めると、全体の54.5%:685件を一時保護している。一時保護は被害情報のより具体的なもの、直接的な被害について積極的に行われており、挿入不明だが接触被害以上～挿入被害までの645事例では414事例:64.2%が保護されているのに対して、非接触被害や何らかの被害だが曖昧なもの266事例では113件:42.5%が保護されている。通告段階から初期調査を通じて確認が進められた被害情報の深刻度、確実性がこの保護対応の違いになっている。

② 在宅事例における被害確認面接の実施状況

被害内容の情報が、通告段階から初期被害調査を通じて精査・修正された結果、調査保護、そのほかの一時保護、保護なしと対応が分化する中、被害確認面接(forensic interview)が実施される。表104は一時保護の実施と被害確認面接(forensic interviewを含む)の実施状況である。

何らかの被害確認面接が実施されたうち、一時保護後に実施されたものは 425 件、一時保護なしに実施されたものは 129 件である。状況不明 3 件を含め、557 件が何らかの被害確認面接によって被害内容の聴取が行われている。被害の確認には一般的な調査面接も行われている。確認されているすべての面接実施数の内訳は表 104 に示されているとおりである。

表 104. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）
の一時保護と被害確認面接（forensic interview）の実施状況

| 調査保護 | 一時保護の有無 | | | 被害確認面接の実施 | | | 件数 |
|------|---------|-----|-----|-----------|-----|-----|------|
| | あり | なし | 無記入 | あり | なし | 無記入 | |
| | その他保護 | | | | | | |
| ● | | | | ● | | | 357 |
| | ● | | | ● | | | 68 |
| | ● | | | ● | | | 129 |
| | | ● | | ● | | | 3 |
| ● | | | | ● | | | 166 |
| | ● | | | ● | | | 74 |
| | ● | | | ● | | | 366 |
| | | ● | | ● | | | 5 |
| ● | | | | | ● | | 13 |
| | ● | | | | ● | | 7 |
| | ● | | | | ● | | 61 |
| | | ● | | | | ● | 8 |
| 計 | 536 | 149 | 556 | 16 | 557 | 611 | 89 |
| | | | | | | | 1257 |

世界中では十数種の面接技法があると言われているが、子どもからの法的手続きにおける事情聴取として重要な面接法である。

平成 23 年度時点で、わが国で実施されている被害確認面接（forensic interview）の主なものは、NICHD プロトコルと RATAC® である。

全国の児童相談所では、こうした専門的な被害確認面接（forensic interview）の導入以前から、子どもからの被害状況や関係する出来事についての聴き取りを行ってきた。基本的には、① 客観性と中立性を重視した一般的な調査面接、成育歴や家族関係についてのアセスメントのための心理面接など、従来からのケースワーク、ソーシャルワークとして的一般相談対応上の面接か、② 法的な立証性に配慮した慎重に設定された面接として、基本的には立会人としての付添を伴う 2 人 1 組で行う面接、のいずれかである。その全般的な各児童相談所における実施状況は表 26 に示している。

在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）における被害確認面接（forensic interview）およびそのほかの事情聴取としての面接の実施状況は表 105 のとおりである。

表 105 のデータは対象数 1257 件中被害確認を実施したとの回答 557 件 : 44.3% の面接種別である。

1257 事例のうち、231 事例 : 18.4%、被害確認面接をした 557 件のうち 41.5% に何らかの専門的な被害確認面接（forensic interview）が実施されている。慎重に設定された面接は 125 事例 : 22.4%、一般的な調査面接は 156 事例 : 28.0% で、全体としては、専門的な被害確認面接（forensic interview）によらない事実確認面接は 280 事例 : 50.3% に実施されている（うち 4 件では forensic interview と併行して一般的な面接も実施されている）。

表 105. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）の被害確認面接（forensic interview）の実施状況

| | 被害確認面接 | | | 一般的な面接 | | 無記入 | 件数 |
|-----|--------|--------|-----------|----------------|--------------|-----|-----|
| | NICHD | RATAC® | その他 技法 | 慎重に設定 された面接 | 一般的な 調査面接 | | |
| | ● | ● | | | ● | | 1 |
| | ● | | | | | | 1 |
| | ● | | | | | | 110 |
| | | ● | | ● | | | 1 |
| | | ● | | ● | | | 1 |
| | | ● | | | | | 100 |
| | | | ● | ● | | | 1 |
| | | | ● | ● | | | 15 |
| | | | | ● | | | 124 |
| | | | | ● | | | 152 |
| 合 計 | 112 | 103 | 16 | 125 | 155 | 51 | 557 |

被害確認面接（forensic interview）は 1980 年代に主に、性的虐待・家庭内性暴力被害にあった子どもからの事情聴取において、法的手続きを立証性を確保した面接手法として、開発された面接法である。

具体的・物理的な証拠性の乏しい性暴力被害事案について、しかも証言能力が不安定とされる子どもから、暗示や誘導といった情報汚染を防ぎつつ、自発的な子どもの証言を確保するための面接法である。

表 106 は在宅状態で何らかの性暴力被害の発見・発覚があったことから対応開始された女性被害者に対する被害確認面接の設定について尋ねた結果である。無記入が全体で 710 件あるが、もともと何らかの被害確認の実施件数は表 104,105 にあるように 557 件（同一人物への重複実施あり）である。表をみると多様な面接設定が展開している。

被害確認面接は、まさに子どもがどんな被害を経験したか聴取確認することに目的がある。これについての古典的な疑義として、トラウマ体験を直接、刺激するような侵入的な面接は、福祉機関の臨床責任において許容されるのか、という疑義がある。この疑問の答えは、被害確認面接を含む虐待対応全体を、チーム対応システムとして位置づけることがまず必要だということである。対応全体の中に子どもへのサポート体制が無いまま、単体で直接的な被害確認面接だけを実施することは危険である。たとえ面接で事実を確認し、強い介入的な保護の必要性の根拠は確保されることになんて、チーム対応が無い場合、子どもの傷つきを、まさにその侵入的な面接をした当人がサポートしなければならなくなる。おそらく有能な臨床家はそれを何とかやりこなすかもしれないが、基本的な設定として複数の職員の役割分担において、子どものサポートを優先的に担当する職員の配置が重要である。

ガイドライン 2011 年版が設定している手順を模式的に示すと、まず、前日に担当児童福祉司から翌日の被害確認面接の実施説明と面接者氏名が告げられる。これは面接実施予告という形での告知であって同意確認ではなく、協力要請である。子どもに被害を話すべきかどうか選択を迫って葛藤を深めるスパイラルを加速させる危険性には触れてはならない。そうでなくとも、子どもはすでに葛藤状態にあり、自身の中では迷いや不安、葛藤がある。もしも子どもがそれを表明したら、被害の開示があったことで、子どもは侵害から守られる手続きに入ったこと、2 度と同じ被害にあう危険性を避けることが重要であり、そのためにも何があったのかきちんと話を聴いて確認することを重視していることを告げる。

当日は面接者が単独に子どもと接触し、面接実施する。バックアップスタッフがあらかじめ子どもに会ったり、被害の話をするように促したりはしない。唯一、一時保護所に入所しておれば、一時保護所の職員が子どもに、「しっかり話しておいで」と言うかもしれない。子どもが家族の元にある場合には、周囲の人間が、心配からか、同情からか、あるいは自分自身の不安からか子どもに様々なメッセージを投げかける可能性がある。子どもの側も周囲の人間の反応を読もうとして様々な探りを入れるかもしれない。児童相談所から非加害保護者には、「あまり面接のことについては触れないで、単純に、『本当にあったことを全部話しておいで』」と励ますことを要請する。

被害確認面接はバックアップスタッフのサポートの下で実施される 1 対 1 の面接である。こどもにはバックアップスタッフがいることはあらかじめ告げられている（面接者の設定状況やバックアップスタッフ等については 別紙資料 2 A 票 表 53~64 参照）。

面接途上での子どもの精神的安全については面接者も一定の配慮はするが、面接そのものは直面化面接である。子どもと面接者は「本当にあったことを話す」という共同作業のパートナーとして設定される。子どもの解離反応や不穏反応についての臨床的判断は最終的にはバックアップスタッフが担当する。面接者は事実の説明に集中し、子どもが涙を流したとしても同情を表明したり、ティッシュペーパーを渡したりはしない。こうした行為は誘導・教唆、報酬提示として法的立証性を危うくする。

面接が終了する際にも被害確認面接者は、子どもの調査協力への謝意は示すが、報酬となるような提示はしてはならない。すべてが終了した時点で別のサポートスタッフが子どもへのサポートを開始する。

表 106. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）の被害確認面接実施状況

| 面接者設定 | 面接者の職種 | | | | | | | | 無記入 | 件数 | |
|-------|--------|------|-----|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|------|
| | 複数対応 | 単度対応 | 無記入 | 事例担当 | | 事例担当外 | | 警察官 | 検事 | 他 | |
| | | | | 児童福祉司 | 児童心理司 | 児童福祉司 | 児童心理司 | | | | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | | | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | | | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 5 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 30 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 16 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 6 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 21 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 3 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 40 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 6 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 10 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 3 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 14 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 22 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 1 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 99 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 75 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 98 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 35 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 3 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 4 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 2 | |
| ● | | | | ● | ● | ● | ● | ● | ● | 706 | |
| 183 | 360 | 714 | 138 | 186 | 156 | 118 | 30 | 5 | 64 | 710 | 1257 |

↓ 9件は面接事例

子どもへの性暴力は常に、結果的にその事実が隠ぺいされ、最も葛藤的である被害者自身が被害内容を開示しなければ、その実態が明らかにできないという悪質な加害行為である。この秘密と沈黙の壁を突破すること、加害者が被害者を支配・統制するために前提としている恥や処罰の恐れの圧力を突破して被害者自身が被害開示することが被害者を救う。そのための特殊な設定が子どもの性暴力被害案の対応には必要である。

被害確認面接、特に forensic interview と呼ばれる面接は、法的対応のため、諸外国では子どもの親権を誰が扱うか決定を下す裁判所への申し立て手続きのために実施される。この制度を部分的なかたちでしか持たない日本では、児童福祉法上の権限行使として、子どもを加害者の危険から守るために、親権者の意向を上まわる児童福祉法上の権限行使を可能とするために、被害の客観的な事実確認が必要とされる。

身体的虐待やネグレクトのように、誰が見てもわかるような客観的事実を伴わない家庭内性暴力被害では、子どもからの、誘導や暗示操作によらない自発的な証言が被害の蓋然性を確証する重要な手がかりとなる。

そして、臨床的には、加害者や利害関係者からの暗黙の威圧や、家族内の利害関係、当人の無知、罪障感情等から、被害の事実を自分だけの秘密として抱え込まれ、子どもが沈黙の内に、被害状況の中に誰からも発見されることなく、一人ぼっちのまま置き去られることが無いようにするために、被害の事実を「言葉」にすることが必須のことなのである。

性暴力被害は「言葉」にされて初めて社会的な「事実」に近づく。そのことが保護とサポートを引き出す根拠となる。もとより、保護とサポートが無いまま、支援の専門性が提供されないままの「事実」の開示は事態全体にとって危険ですらある。調査対応にあたってのチーム対応とサポート体制の準備、ひいては機関連携による支援のシステムが必要である。

表 107 は forensic interview を含む被害確認面接別の面接結果である。1257 事例のうち、557 事例に何らかの被害確認を目指した面接が実施されている。

表 107. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）の被害確認面接の結果状況

| | 被害事実の開示あり | 被害の強い疑いあり | 被害確認できず | 被害無しを確認 | 調査拒否 | 無記入 | 合計 |
|--------------|-----------|-----------|---------|---------|------|-----|------|
| NICHD | 89 | 7 | 7 | 4 | 3 | 1 | 111 |
| NICHD+RATAC® | 1 | | | | | | 1 |
| RATAC® | 75 | 10 | 9 | 3 | 1 | 4 | 102 |
| その他技法 | 11 | | | 3 | 1 | 1 | 16 |
| 慎重に設定された面接 | 94 | 12 | 12 | | 2 | 4 | 124 |
| 一般的な調査面接 | 100 | 20 | 21 | 4 | 4 | 3 | 152 |
| 面接実施：技法無記入 | 28 | 4 | 8 | | 1 | 10 | 51 |
| 面接実施なし | | | | | | 611 | 611 |
| 無記入 | | | | | | 89 | 89 |
| 合計 | 398 | 53 | 57 | 14 | 12 | 723 | 1257 |

被害確認面接の役割は、

- i 子どもから、暗示や誘導の無い自発的な語りによって被害事実についての話を聴き取り、事実確認する。
これには被害の具体的な事実を聴き取り、現実に被害があったことを確認する場合と、被害が無いという事実を聴き取り、確認する場合がある。
- ii i の結果として、もし被害の具体的な事実説明や、強く被害が疑われる状態が確認された場合には、子どもの安全のために児童相談所は必要があれば、児童福祉法上の介入を行う。ただし、それらの判断は、面接だけを根拠に行うわけではなく、様々な調査、医学診察等々を経て、組織としての総合的判断を下すことになる。

上記の 2 つの役割から言えることは、被害事実が明白に否定された場合には、事実確認をもって介入を停止させる可能性が高くなる。強く疑う場合には、事実確認としては未確認結果となるが、児童福祉法上の対応としては、介入実施の判断に踏み切ることもある。この、①事実の確認の有無、②介入の必要性の有無についてそれぞれの面接結果を比較した。結果一覧は表 108 のとおりである。

それぞれの面接結果を図 37～43 に示す。またそれぞれの被害確認作業の結果比較を表 104 に示す。

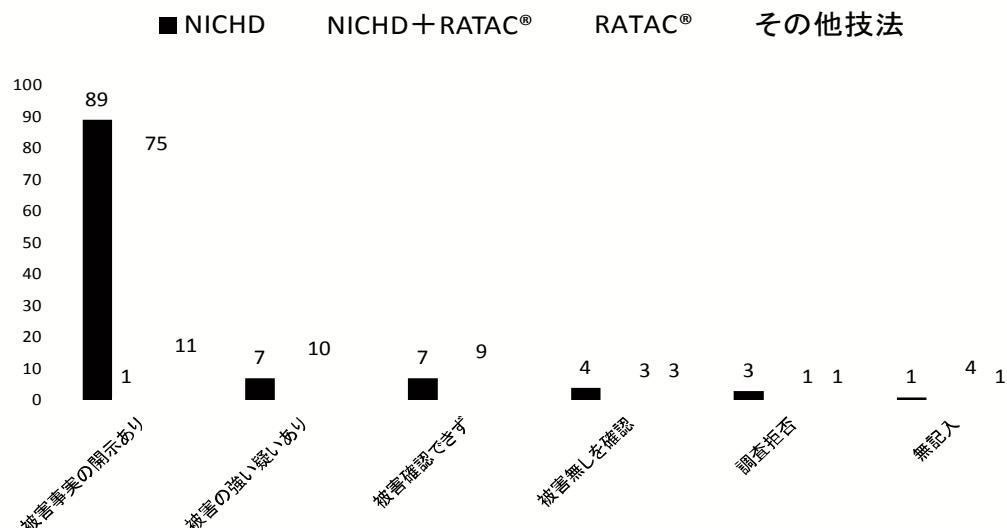


図 37. 専門的な被害確認面接 (forensic interview) による子どもからの被害の確認状況

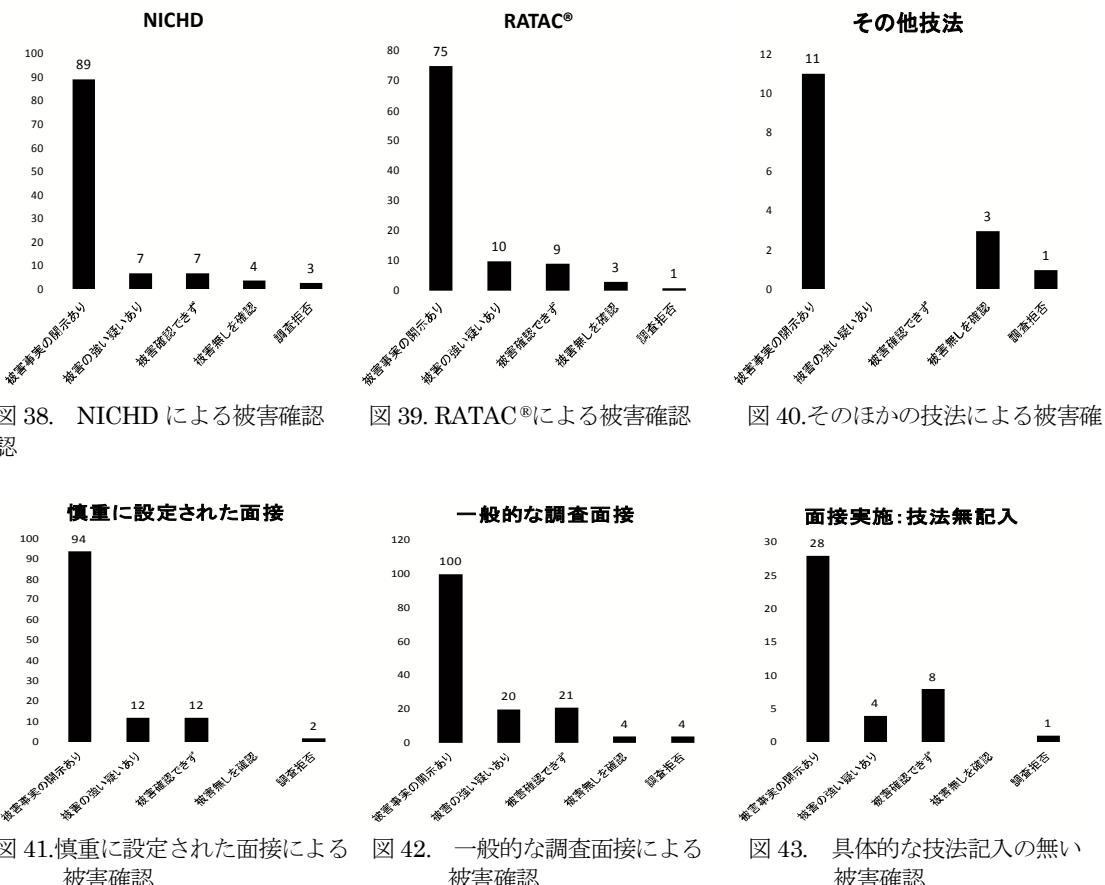


図 38. NICHD による被害確認

図 39. RATACT® による被害確認

図 40. そのほかの技法による被害確

認

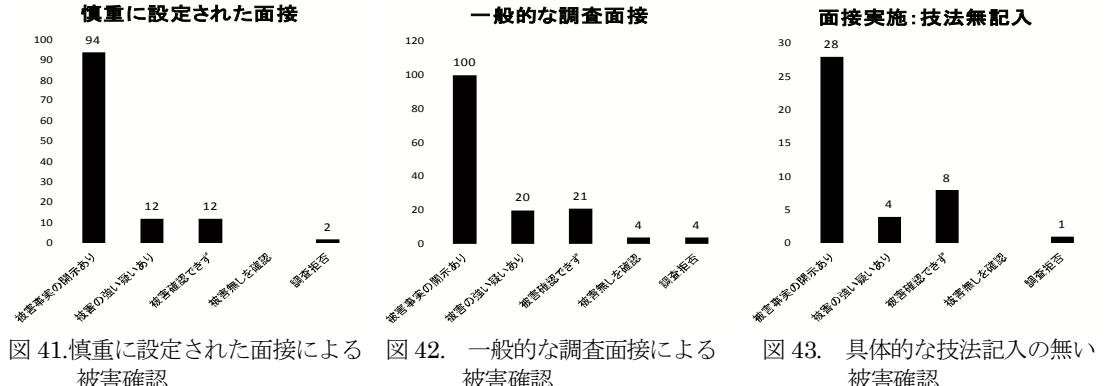


図 41. 慎重に設定された面接による被害確認

図 42. 一般的な調査面接による被害確認

図 43. 具体的な技法記入の無い被害確認

表 108 .在宅の性暴力被害の疑いのあった子ども(女)に実施された被害確認面接の結果比較一覧

被害確認面接群 vs 慎重 + 一般面接

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

| | 確認済み | 未確認 | 計 |
|----------|-----------|-----|-----|
| 被害確認 | 185 | 33 | 218 |
| 慎重+一般 | 226 | 77 | 303 |
| 計 | 411 | 110 | 521 |
| 両側P値 | 0.0047 ** | | |
| 片側P値 | 0.0029 ** | | |
| CramerのV | 0.1242 | | |
| YuleのQ | 0.3127 | | |

被害確認面接群 vs 慎重 + 一般面接

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

| | 介入あり | 介入なし | 計 |
|----------|--------|------|-----|
| 被害確認 | 192 | 26 | 218 |
| 慎重+一般 | 268 | 45 | 313 |
| 計 | 460 | 71 | 531 |
| 両側P値 | 0.4394 | | |
| 片側P値 | 0.2472 | | |
| CramerのV | 0.0354 | | |
| YuleのQ | 0.1071 | | |

分類は、確認済み：被害を確認した+被害が無し を確認した 未確認：強い疑い+確認できず
介入あり：被害を確認した+強い疑い 介入なし：確認できず+被害が無し を確認

表 108 を見る限り、専門的な被害確認面接 (forensic interview) と一般的な調査面接による調査結果とは、事実確認においては統計的有意差を生じている。ただし、介入的対応を要するかどうかといった判断についての有意差は発生していない結果となっている。

被害確認面接群 vs 一般面接

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

| | 確認済み | 未確認 | 計 |
|----------|-----------|-----|-----|
| 被害確認 | 185 | 33 | 218 |
| 一般面接 | 104 | 41 | 145 |
| 計 | 289 | 74 | 363 |
| 両側P値 | 0.0033 ** | | |
| 片側P値 | 0.0019 ** | | |
| CramerのV | 0.1597 | | |
| YuleのQ | 0.3770 | | |

被害確認面接群 vs 一般面接

フィッシャーの直接確率 **:1%有意 *:5%有意

| | 介入あり | 介入なし | 計 |
|----------|--------|------|-----|
| 被害確認 | 192 | 26 | 218 |
| 一般面接 | 120 | 25 | 145 |
| 計 | 312 | 51 | 363 |
| 両側P値 | 0.1671 | | |
| 片側P値 | 0.1021 | | |
| CramerのV | 0.0749 | | |
| YuleのQ | 0.2121 | | |

ここで、表 103 の続きを確認する。先の表では通告段階の被害情報が初期調査段階を通じてそれぞれ深刻化の方向に 30%、緩和・軽減、あるいは曖昧化の方向に 30% 情報が変更され、初めの情報のままであったものは 35.6% であった。被害内容の確認はそのまま調査保護の判断に深くかかわっていた。被害確認面接を通じて、この情報はさらに変化しただろうか。全体像を表 109 に示す。

表 109. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）の被害情報の推移と対応（被害確認面接段階）

| 被害確認面接時点での被害内容 (初期調査段階での件数) | 件数 | 被害確認面接実施時点での整理された被害内容 | 件数 | 被害確認面接結果 | | | | | | 被害情報の変遷 | | |
|--------------------------------|-----|-----------------------|------|---------------|-----------------------|----------------------------|-----------------------|-------------|-------------|-----------------------|-----------------------|--------------------------------------|
| | | | | 1 開示 あり | 2 強 い 疑 い | 3 確 認 可 き ず | 4 被 害 無 し | 5 拒 否 | 無 記 入 | 面 接 時 情 報 | 面 接 後 情 報 | 面 接 時 構 成 比 情 報 |
| 5 接触被害（挿入被害） (初期調査段階: 187) | 160 | 5 接触被害（挿入被害） | 34 | 32 | 1 | | | | 1 | 160 | 34 | 21.3% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 49 | 45 | 2 | 1 | | | 1 | | 126 | 78.8% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 14 | 11 | 2 | | | 1 | | | | |
| | | 2 非接触被害 | 4 | 3 | 1 | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 5 | 1 | | 3 | | 1 | | | | |
| | | 空白 | 54 | 1 | | | 1 | | 52 | | | |
| 4 接触被害（非挿入） (初期調査段階: 380) | 357 | 5 接触被害（挿入被害） | 34 | 32 | 2 | | | | | 357 | 34 | 9.5% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 75 | 69 | 5 | | | 1 | | | 75 | 21.0% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 16 | 10 | 4 | | | 1 | 1 | | 248 | 69.5% |
| | | 2 非接触被害 | 6 | 3 | 1 | 2 | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 27 | 1 | 5 | 13 | 5 | 3 | | | | |
| | | 空白 | 199 | 1 | | 3 | 1 | | 194 | | | |
| 3 接触被害（挿入不明） (初期調査段階: 162) | 128 | 5 接触被害（挿入被害） | 21 | 21 | | | | | | 128 | 35 | 27.3% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 14 | 13 | | 1 | | | | | 6 | 4.7% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 6 | 1 | 3 | 1 | | 1 | | | 87 | 68.0% |
| | | 2 非接触被害 | 0 | | | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 9 | | 3 | 6 | | | | | | |
| | | 空白 | 78 | 1 | | 3 | 1 | | 73 | | | |
| 2 非接触被害 (初期調査段階: 56) | 56 | 5 接触被害（挿入被害） | 6 | 6 | | | | | | 56 | 13 | 23.2% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 5 | 5 | | | | | | | 1 | 1.8% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 2 | 1 | 1 | | | | | | 42 | 75.0% |
| | | 2 非接触被害 | 1 | 1 | | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 8 | 1 | 1 | 4 | 1 | 1 | | | | |
| | | 空白 | 34 | | | | | | 34 | | | |
| 1 何らかの被害 曖昧 (初期調査段階: 243) | 210 | 5 接触被害（挿入被害） | 7 | 6 | 1 | | | | | 210 | 56 | 26.7% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 30 | 26 | 3 | 1 | | | | | 10 | 4.8% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 14 | 10 | 3 | 1 | | | | | 144 | 68.6% |
| | | 2 非接触被害 | 5 | 2 | 2 | | | 1 | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 10 | 7 | | 1 | 2 | | | | | |
| | | 空白 | 144 | | 2 | | 142 | | | | | |
| 空白 (初期調査段階: 229) | 346 | 5 接触被害（挿入被害） | 36 | 33 | 3 | | | | | 346 | 121 | 35.0% |
| | | 4 接触被害（非挿入） | 57 | 54 | 3 | | | | | | 225 | 65.0% |
| | | 3 接触被害（挿入不明） | 2 | 2 | | | | | | | | |
| | | 2 非接触被害 | 6 | 5 | | 1 | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 曖昧 | 20 | 1 | 4 | 12 | 2 | 1 | | | | |
| | | 空白 | 225 | | 3 | 2 | 1 | 219 | | | 346 | 225 |
| 合 計 | | | 1257 | 405 | 50 | 56 | 11 | 12 | 723 | 1257 | 1257 | |

表 109 では、初期調査から被害確認面接段階になっておよそ 557 件が何らかの被害確認調査作業にかかっているとみられるが、被害確認面接の実施の有無にかかわらず、被害情報の変化をみている。全体では 239 件 : 19.0% がより深刻化の方向に明確化し、119 件 : 9.5% が軽症化の方向に変化、580 件 : 46.1% が空白、無記入、全体は 723 件が被害確認面接のチェックそのものから外れているとみられる。

変化の内容と被害確認の結果との関係をみると調査の実施が無いためにこの段階で確認できる情報が無いことを反映している比率が高い。変化なし群についても元々空白・無記入の 219 件がそのまま計上されている。

④ 被害確認に関する探索的分析

これまでに得られた情報を再集計し、通告から初期被害調査、被害確認面接における、被害内容の開示について、いくつかの探索的分析を試みた。

今回の検討したのは以下の 4 点である。いずれも通告時点から被害確認、医学診察までの子どもの被害の開示とその変化についての検討である。検討項目は以下の 4 項目である。

- i 通告時に性暴力被害の詳細が不明であった児童について、1)初期調査、2)被害確認面接、3)医学的診察による開示内容の一一致率および変化率に関する検討
 - ii 被害確認面接における面接者と児童による性別マッチングと被害の開示率の関係性
 - iii 調査保護から被害確認面接実施日までにかかった日数と開示率の関係性
 - iv 通告の5分類と被害確認面接の時間的要因（通告から被害確認面接までにかかった日数）による開示との関係性
- i 通告時に性暴力被害の詳細が不明であった児童について、初期調査、被害確認面接、医学的診察による開示内容の一一致率および変化率について

通告時に性暴力被害の詳細が不明であった児童について、通告・初期調査・被害確認面接のクロス表110を以下に示す。初期調査・被害確認面接における

| | | |
|------------|--------------|-------------------|
| 「確認あり」は | 1 開示有り | 4 被害無しの確認の合計値とする。 |
| 「ためらい・不明」は | 2 強い疑い | 3 確認できずの合計値とする。 |
| | 5 子どもの「調査拒否」 | は外れ値として除外し検討した。 |

通告時、初期調査、被害確認面接時までに被害ありと確認されたものが271件と最も多い。通告時に告白なしであった31件から、初期調査面接・被害確認面接時には22件の被害が確認され、残りの9件は初期被害調査面接では被害は確認できなかったが、被害確認面接で確認できている。これらのことから、まず地域の機関で子どもが何らかの性暴力被害を疑わせることを開示したのであれば、必ず通告をしてもらうこと。また通告後、児童相談所による初期被害調査面接で被害内容の情報が出なかつたとしても、子どもにとってそれは被害開示に至るプロセスの途上で、ためらっている段階にある可能性があり、これを踏まえて被害確認面接の実施にまでつなげることが必要不可欠であるといえる（Sorensen & Snow, 1991）。

子どもが初期被害調査面接で被害の開示をしなかつたから被害確認面接を実施しないということは本結果からは望ましいことではなく、まずは被害確認面接の実施を必ず検討するという設定が提案される。

一方で、通告時に何らかの被害の開示があった事例で、初期被害調査面接、被害確認面接時には被害が確認できなかつた事例が61件（通告406件中の15%）見られている。このことは、被害の開示に至るプロセスにおいて、子どもが何度も支援者から被害の話を聞かれることなどで、被害事実を話すことに抵抗が生じている、さらには「撤回」が生じている可能性が示唆される。

また周辺情報や問題行動、目撃などから性暴力被害が疑われていても（通告情報についての⑤に分類される事例にあたる）地域の機関からも開示情報がない事例が21件（通告406件中5%）見いだされた。このうちの8件は、初期被害調査面接では被害内容を開示したものの、被害確認面接では詳細不明という結果になっている。これも上記と同様、何らかの「撤回」を示唆するだけでなく、開示のプロセスにおいて「否認」の状態を維持しているとも考えらえる。

「否認」の状態は、子どもにとって加害者から秘密を強要されている場合や、暴力をふるわれる怖さだけでなく、性的虐待順応症候群（CSAAS）にみられるような、自分が悪事をなした悪い子であるとか、性暴力被害による罪悪感やステigma、汚れた感覚、自分の隠し事を知ってしまった非加害保護者と自分との関係が切れてしまうことへの恐れなどから、被害の事実を開示することで、周囲の人間や家族がどんな反応を示すか恐ろしくなって、告白できないことなどによって生じる。

以上のように、本項目の検討結果は、通告を受けても被害確認面接で被害内容が開示されない場合、事実開示しなくなる撤回が15%、否認状態が5%となり、およそ20%の事例が被害開示しない可能性があることを示しているといえる。

医学診察については診療科目が多岐にわたり、被害内容の評価が複数に分岐していたため、この分析には適さないとして断念した。

表110. 通告時、被害内容の詳細が不明であった通告時の通告内容と初期被害調査、被害確認面接における被害事実の開示についての分析表

| 被害確認面接の結果内容 | | | 通告時の通告内容 | |
|-------------|------------|--------------------|-----------------|-------------------|
| 被害あり | 初期被害調査結果内容 | 被害あり ためらい 不明 | 被害開示あり | 被害開示なし |
| | | | 具体的または 曖昧な開示 | 周辺情報・問題 鼓動・目撃等 |
| 被害あり | 初期被害調査結果内容 | 被害あり | 度数 | 271 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 92.5% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 92.5% |
| | 合計 | 度数 | 22 | 9 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 71.0% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 7.5% |
| ためらい 不明 | 初期被害調査結果内容 | 被害あり | 度数 | 293 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 80.4% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 100.0% |
| | 合計 | 度数 | 28 | 8 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 77.8% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 45.9% |
| ためらい 不明 | 初期被害調査結果内容 | 度数 | 33 | 13 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 71.7% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 54.1% |
| | 合計 | 度数 | 61 | 21 |
| | | | 初期被害調査 被害開示の% | 74.4% |
| | | ためらい 不明 | 通告時 被害開示の% | 100.0% |
| | | | 100.0% | |

ii 被害確認面接における面接者と子どもの性別マッチングと被害の開示率の関係性

被害確認面接の実施において面接者の性別が面接結果にどのように影響するのかについては多くの研究が既に存在する。基本的には、面接者の性別よりも、面接そのものの技術、トレーニングを受けた専門性があるかどうかが重要であることが指摘されている。この点につき、本事例について検討を加えた。

まず、本調査データから子どもの性別、面接者の性別、加害者の性別について再整理し、以下のようなクロス表を作成した(表 111)。データ数が 5 以下の数を含むセルが 1 つ以上あるため、詳細な統計解析は行わない。また、加害者 1460 人中、女性の加害者として、実母 93 人とあるが、実母の加害が直接・または間接（目撃・知っていて止めなかつた、または性暴力を促す等）加害の内容が不明確なため、加害者の性からは除外した。

子どもと面接者の性別マッチングに関する、日本における被害確認面接の基礎データとして、女児に対して男性の面接者が被害確認面接を行っても、開示を得ていること。同様に、男児に対して女性の面接者が被害確認面接を行っても、開示を得ていることが見いだされた。

国外の先行研究でも多くの研究で子どもと面接者（また加害者）の性別マッチングについては有意差が無く、むしろ開示率を高めることを予測する因子は各プロトコルにおける面接者の研修参加経験と、その経験に基づく、子どもとの信頼関係の構築だと言われている (Fry.R., Rozewicz.L., & Crisp.A., 1996 Lamb.M.,&Garretson.,M,2003 Mrikovich-Fong. A.,&Jaffee.S,2010 など)。

本調査データからのクロス表は以下のとおりである。

表 111. 被害確認面接者の性別と面接結果に関する分析表

| 基礎 子どもの性別 | 被害確認面接 面接者性別 | | 結果内容 | | 合計 |
|--------------|-----------------|----|---------------|------------|---------------|
| | | | 被害確認 あり | ためらい 不明 | |
| 女児 | 面接者性別 | 女性 | 度数 | 358 | 96 |
| | | | 面接の性別構成比 | 78.9% | 21.1% 100.0% |
| | | 男性 | 面接結果における性別構成比 | 98.4% | 99.0% 98.5% |
| | 合計 | 女性 | 度数 | 6 | 1 |
| | | | 面接の性別構成比 | 85.7% | 14.3% 100.0% |
| | | 男性 | 面接結果における性別構成比 | 1.6% | 10.0% 105.0% |
| | | | 度数 | 364 | 97 |
| | | | 面接の性別構成比 | 79.0% | 21.0% 100.0% |
| | | | 面接結果における性別構成比 | 100.0% | 100.0% 100.0% |
| 男児 | 面接者性別 | 女性 | 度数 | 6 | 4 |
| | | | 面接の性別構成比 | 60.0% | 40.0% 100.0% |
| | | 男性 | 面接結果における性別構成比 | 50.0% | 66.7% 55.6% |
| | 合計 | 女性 | 度数 | 6 | 2 |
| | | | 面接の性別構成比 | 75.0% | 25.0% 100.0% |
| | | 男性 | 面接結果における性別構成比 | 50.0% | 33.3% 44.4% |
| | | | 度数 | 12 | 6 |
| | | | 面接の性別構成比 | 66.7% | 33.3% 100.0% |
| | | | 面接結果における性別構成比 | 100.0% | 100.0% 100.0% |

各単位のデータ数が少ないが、これを見る限り、面接者の性別が子どもの被害確認面接の結果に影響した痕跡は認められないと言える。

データについては、今後、基礎データの継続的な収集が必要不可欠であるが、現状で現場が行ってきた面接者の性別によるマッチング（特に女児の被害確認面接を男性がやるべきではないという考え方）の妥当性は確認されなかったことが注目される。

十分に訓練を受けた面接者であることと、チームバックアップなどの条件は前提となるが、女性の被害者には女性だけが面接を担当すべきであるという発想には、現場の支援者達が持つ「加害者の性を避けるほうが良いだろう」「なるべく同性の面接者が被害確認面接をやったほうが良いだろう」といった考えを基礎にしており、その背景にはエビデンスに基づかない、性暴力被害を受けた子どもやその子どもから被害を聴くという作業についてのある種の文化的バイアスが働いてきた可能性が高い。このようなバイアスは、支援者側の性暴力被害に対するタブー視、回避的態度が混入することから派生的に生じているとみられ、諸外国でも被害確認面接の導入時にはよく見られた現象である。ただし、わが国の児童相談所現場が十分にジェンダーバイアスから脱却しているのかどうかは未知数であるため、この見解には一定の留保がつく。

公的機関としての児童相談所内において、例えば性的な内容を職員同士でオープンに話すことがためらわれることは無理もないことではあるが、性暴力被害を受けた子どもの立場に身を置くこと、ジェンダーバイアスからの離脱はもちろん、性的虐待順応症候群等の知識や性暴力被害を自身の性に囚われずに扱う専門性を携えておく重要性が指摘される。

iii 調査保護から被害確認面接実施日までにかかった日数と開示率の関係性

調査保護を行ってから、被害確認面接を実施するタイミング、時間設定について、わが国ではまだ統一的な見解が検討されていない。通告や調査保護のシステム自体が異なる英米では、日常からの子どもへの教育・周知の違いもあり、日本における適切な対応の流れを整理する必要がある。今回のデータから、

- | | |
|------------|--------------------------|
| 「被害確認あり」は、 | 1 開示有り 4 被害無しの確認の合計値とする。 |
| 「ためらい・不明」は | 2 強い疑い 3 確認できずの合計値。 |
| | 5 子どもの「調査拒否」は外れ値として除外。 |

という条件で以下のようなクロス表を作成した（表 112）。これについて調査保護からの日数と被害確認面接実施までの経過日数について、被害の開示結果を指標として検討したところ、調査保護の実施から被害確認面接実施までの日数に有意差は認められなかった。

表 112. 調査保護の実施から被害確認面接実施までの時間と被害開示についての分析表

| 被害確認面接の結果 | | | 被害の発覚から面接までの日数 | | | | | |
|-----------|------------|---------------|----------------|--------|--------|--------|--------|--|
| | | | 3日以内 | 3~7日 | 8~14日 | 15~30日 | 31日以上 | |
| 確認結果 | 被害確認あり | 度数 | 163 | 83 | 66 | 42 | 45 | |
| | | 被害確認面接結果 構成比 | 40.9% | 20.8% | 16.5% | 10.5% | 11.3% | |
| | | 面接設定までの期間 構成比 | 79.5% | 85.6% | 76.7% | 75.0% | 72.6% | |
| | ためらい 不明 | 度数 | 42 | 14 | 20 | 14 | 17 | |
| | | 被害確認面接結果 構成比 | 39.3% | 13.1% | 18.7% | 13.1% | 15.9% | |
| | | 面接設定までの期間 構成比 | 20.5% | 14.4% | 23.3% | 25.0% | 27.4% | |
| 合計 | | 度数 | 205 | 97 | 86 | 56 | 62 | |
| | | 被害確認面接結果 構成比 | 40.5% | 19.2% | 17.0% | 11.1% | 12.3% | |
| | | 面接設定までの期間 構成比 | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | |

カイ²乗検定

| | 値 | 自由度 | 漸近有意確率(両側) |
|----------------------------|--------------------|-----|------------|
| Pearson のカイ ² 乗 | 4.866 ^a | 4 | .301 |
| 尤度比 | 4.997 | 4 | .288 |
| 線型と線型による連関 | 2.173 | 1 | .140 |
| 有効なケースの数 | 506 | | |

iv 通告の5分類と被害確認面接の時間的要因(通告から被害確認面接までにかかった日数)による開示率の関係性

以下はガイドライン2011年版が示してきた通告5分類と被害確認面接の時間的要因について、ロジスティック回帰分析(強制投入法)を用いてオッズ比を検定したものである(表113)。

表113. 通告内容と被害確認面接実施までの時間経過が被害の開示に与える影響に関する分析表

通告の5分類と具体的な被害および被害確認面接までの日数における開示率オッズ比

| F(までの日数) | 度数 | 割合 | オッズ比 | 95%信頼区間 | | 調整済み オッズ比 | 95%信頼区間 | |
|--------------|--------------|-----|-------|-----------------|-------------|--------------|------------|-----------|
| | | | | 下限 | 上限 | | 下限 | 上限 |
| F(までの日数) | 3日以内 | 170 | 39.2% | 0.206 *** 0.073 | 0.581 0.799 | 0.365 1.748 | 0.22 1.375 | 1.32 3.28 |
| | 4~7日 | 88 | 20.2% | | | | | |
| | 8~14日 | 76 | 17.7% | | | | | |
| | 15~30日 | 46 | 10.7% | | | | | |
| | 31日以上 | 53 | 12.2% | | | | | |
| 通告内容 | 具体的な被害実の告白 | 297 | 60.9% | 5.701 *** 2.536 | 12.814 0.24 | ** 0.079 | 0.731 | 1.408 |
| | 曖昧な被害の疑い告白のみ | 76 | 19.8% | | | | | |
| | 周辺・関連情報からの疑い | 39 | 12.8% | | | | | |
| | 問題行動から | 5 | 1.6% | | | | | |
| | 目撃・物証から | 16 | 4.9% | | | | | |
| 通告時の具体的な被害内容 | 何らかの被害・詳細不明 | 79 | 49.6% | 0.682 0.355 | 1.310 4.798 | ** 1.761 | 13.075 | 27.529 |
| | 非接触被害 | 15 | 16.1% | | | | | |
| | 接触被害(挿入不明) | 90 | 10.4% | | | | | |
| | 接触被害(非挿入) | 165 | 1.3% | | | | | |
| | 接触被害(挿入被害) | 84 | 4.0% | | | | | |

※1:Prevalenceでは、欠損値はすべて除外した

※2:***:p<.001, **:p<.05, *:p<.10とする

開示率において、被害確認面接実施までの日数は、一時保護など子どもの安全が確保されて3日以内に実施された被害確認面接の結果の開示率を1とした場合、オッズ比は4~7日目では0.2倍となっている。ただし、通告内容や具体的な被害内容によって調整されたオッズ比では、被害確認面接実施までの日数に有意差はない。

以上の結果から、本データに基づく限り、子どもが地域機関で何らかの性暴力被害の開示をした場合には、早期に安全を確保しなるべく保護から3日以内に被害確認面接を実施することが望ましいと言えそうである。

一方、通告内容については、具体的な被害事実の告白を子どもがしたことにより通告となり、その後の被害確認面接で開示される割合を1とした場合、曖昧な被害の疑い告白のみの場合で被害確認面接を実施した場合の開示率は5.7倍、周辺・関連情報からの疑いありで7.1倍、また性的な問題行動からの通告の場合でも被害確認面接における被害確認面接の開示率は2.9倍となった。ただし、被害確認面接までの日数と具体的な内容に

より調整されたオッズ比では、周辺・関連情報からの疑いと問題行動についての有意差は無くなるが、曖昧な被害の疑い告白のみの場合は、具体的な被害事実の告白よりも被害確認面接の開示率は0.2倍となっている。

以上の結果から、開示率は、被害確認面接を実施するまでの日数、または具体的な被害内容によって影響を受けるものの、性暴力被害に関する何らかの内容を子どもが具体的に告白している場合には、当然ながら、曖昧な告白、関連情報や問題行動からも早期に被害確認面接を実施することが望まれる。

最後に、通告時の具体的な被害内容について検討する。本項目は被害確認面接での開示率について、子どもからの被害が明確でない場合を中心に検討した。

本項目では、何らかの被害・詳細不明な状況においても被害確認面接によって被害が開示される割合を1とした場合、接触被害について挿入の有無が不明であっても、0.4倍の開示率を保つこと。また、被害確認面接実施までの日数、通告内容によって調整されたオッズ比では、非接触被害で4.7倍、接触被害（挿入不明）で7.0倍、接触被害（非挿入）で4.2倍、接触被害（挿入被害）で2.2倍であることが示された。

以上の結果から、被害の詳細が初期の段階で、最初の地元情報では被害内容がわからない状況にあった場合にも、やはり被害確認面接を実施することで、被害の有無について、明確な開示に至る可能性が強く残されていることが示されていると言える。また被害確認面接までの日数、および通告内容の影響を受けた場合、挿入被害の有無に関係なく、被害確認面接での開示率が少なくとも2倍以上高まることが示唆された。すなわち、子どもが何らかの性暴力被害の告白をしたのであれば、被害確認面接で被害内容が開示される可能性が高く、疑いの段階でも通告対応を迅速に行い、早期に被害確認面接を実施することが必要不可欠であることが示唆される。

⑤ 医学診察

子どもの性暴力被害対応において、被害確認調査と併せて重要なことに医学診察がある。特に婦人科の診察と精神科の診察が重要である。わが国では子ども虐待についての医学診察の専門科が十分には確立しておらず、法医学における生体監察としての、受傷原因や経過の吟味・判断が重要な役割を果たすことがあるが、それもごく限られた医師しかかかわっていないのが現状である。

産科においても、限られた医療機関や団体の活動、医師の個人的な協力によって、対応が進められてきた。本調査では、所票の調査で医師の配置やチーム対応への参加状況を尋ねているが、限定的なもので、フルタイムで一緒に動ける医師の数は極めて少ない。家庭内性暴力被害にあった子どもの事例についての医師の対応状況を表114～116に示す。（別紙資料2 A票 表73～85参照）

表114. 医療診察の実施

在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた事例について

| 性別 | 件 数 | あり | なし | 無回答 |
|-----|-------|------|------|------|
| 合 計 | 1354 | 472 | 759 | 123 |
| | 100.0 | 34.9 | 56.1 | 9.1 |
| 女性 | 1257 | 459 | 688 | 110 |
| | 100.0 | 36.5 | 54.7 | 8.8 |
| 男性 | 91 | 11 | 68 | 12 |
| | 100.0 | 12.1 | 74.7 | 13.2 |

(別紙資料2 A票 表73の再掲)

表115. 最初の発覚から医療診察までの経過時間 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた事例について

| 性別 | 件 数 | 0日目 | 1～15日 目未満 | 15～30 日目未満 | 30～60 日目未満 | 60～120 日目未満 | 120～180 日目未満 | 180日目 以上 | 無回答 | 平均 |
|-----|-------|-----|--------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|-------------|------|------|
| 合 計 | 472 | 9 | 210 | 65 | 50 | 24 | 2 | 8 | 104 | 24.0 |
| | 100.0 | 1.9 | 44.5 | 13.8 | 10.6 | 5.1 | 0.4 | 1.7 | 22.0 | |
| 女性 | 459 | 9 | 210 | 63 | 48 | 23 | 1 | 8 | 97 | 23.5 |
| | 100.0 | 2.0 | 45.8 | 13.7 | 10.5 | 5.0 | 0.2 | 1.7 | 21.1 | |
| 男性 | 11 | - | - | 1 | 2 | 1 | 1 | - | 6 | 63.6 |
| | 100.0 | - | - | 9.1 | 18.2 | 9.1 | 9.1 | - | 54.5 | |

(別紙資料2 A票 表74の再掲)

表 116. 診療科 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑わされた事例について

| 性別 | 件数 | 婦人科 | 精神科 | 小児科 | 法医科 | 泌尿器科 | その他 | 無回答 |
|----|-------|------|------|------|-----|------|-----|-----|
| 合計 | 472 | 318 | 199 | 88 | 3 | 1 | 14 | 9 |
| | 100.0 | 67.4 | 42.2 | 18.6 | 0.6 | 0.2 | 3.0 | 1.9 |
| 女性 | 459 | 317 | 188 | 86 | 3 | 1 | 13 | 9 |
| | 100.0 | 69.1 | 41.0 | 18.7 | 0.7 | 0.2 | 2.8 | 2.0 |
| 男性 | 11 | - | 10 | 2 | - | - | 1 | - |
| | 100.0 | 90.9 | 18.2 | - | - | - | 9.1 | - |

(別紙資料2 A票 表75の再掲)

医学診察が性暴力被害を受けた子どもに一貫して提供できている地域、児童相談所は限られているかもしれない。多くは都市部で様々な医療機関との協力関係を取る機会の多い地域、あるいは特定の医師や医療機関の協力が得られている場所であろう。

本調査では在宅の子どもの事例でおよそ35%程度、472事例で何らかの医学診察が実施されていた。

地域によっては、こうした医療機関としての社会資源がまだ見出されていないところも少なくない。

ガイドライン2011年版では、こうした専門的な診察システムを、被害確認調査全体の対応機能と統合して、性暴力被害者支援センターのような拠点機関を全国的に展開することを提案してきた。

元々性暴力被害は医学所見によってその被害事実を積極的に立証することが難しいと言われてきたが、「別紙資料2 A票 表81, 83」によれば、医学診察を受けたおよそ30%程度の事例では、子どもの申告や証言と矛盾しない一定の所見は得られているようである(表117~118)。ただし、それが刑事捜査的な意味で証拠となり得るかどうかはまた別である。

表 117. 医学診察の結果(身体)

(別紙資料2 A票 表82の再掲)

| 10. 性別 | 件数 | り具体的な被害所見あり | のみ被害を疑わせる所見 | 矛盾的所見な被害不不明・ | 害矛盾所見あり別な被 | 否定矛盾所見あり被害を | 無回答 |
|--------|-------|-------------|-------------|--------------|------------|-------------|------|
| 合計 | 472 | 91 | 106 | 176 | - | 6 | 93 |
| | 100.0 | 19.3 | 22.5 | 37.3 | - | 1.3 | 19.7 |
| 女性 | 459 | 88 | 103 | 174 | - | 6 | 88 |
| | 100.0 | 19.2 | 22.4 | 37.9 | - | 1.3 | 19.2 |
| 男性 | 11 | 2 | 3 | 2 | - | - | 4 |
| | 100.0 | 18.2 | 27.3 | 18.2 | - | - | 36.4 |

表 118. 医学診察の結果(心身)

(別紙資料2 A票 表83の再掲)

| 10. 性別 | 件数 | 所見らかの被害症状の | 被害症状所見なし | 問題・被害と状況あり不明の問 | 問題・症状確認せず | 無回答 |
|--------|-------|------------|----------|----------------|-----------|------|
| 合計 | 472 | 168 | 69 | 57 | 83 | 95 |
| | 100.0 | 35.6 | 14.6 | 12.1 | 17.6 | 20.1 |
| 女性 | 459 | 158 | 69 | 56 | 83 | 93 |
| | 100.0 | 34.4 | 15.0 | 12.2 | 18.1 | 20.3 |
| 男性 | 11 | 9 | - | 1 | - | 1 |
| | 100.0 | 81.8 | - | 9.1 | - | 9.1 |

ここで医学診察によって先の表106でみられていた被害内容情報がどの程度変化しているかをみると、診察数そのものが少ないこともあって、被害内容の変更はこれまでのいずれのものよりも少ない結果となっている(表119)。

表 119. 在宅で主に性的虐待・家庭内性暴力被害が疑われた 1257 事例（女）の被害情報の推移と対応（医学診察面接段階）

| 医学診察時点での被害内容 (被害確認面接等の時点の件数) | 件数 | 医学診察時点での被害内容 | 件数 | 医学的な被害診察の結果 | | | | | | 被害情報の変遷 | | |
|---------------------------------|-----|--------------|------|-------------|----------------------|-------------------------|---------------------|----------------------|-----|---------|-------|-----------|
| | | | | 1 被害所見あり | 2 被害を見のみ を疑わせる | 3 矛盾具体的な被害見なし 害不明 | 4 別な被害見な 害の疑い | 5 矛盾所見あり 被害を否定 | 無記入 | 診察時情報 | 診察後情報 | 面構成比情報 |
| 5 接触被害(挿入被害) (被害確認調査前: 160) | 138 | 5 接触被害(挿入被害) | 56 | 29 | 17 | 7 | | | 3 | 138 | 56 | 40.6% |
| | | 4 接触被害(非挿入) | 0 | | | | | | | | 82 | 59.4% |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | 2 | | | | 2 | | | | | |
| | | 2 非接触被害 | 0 | | | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 35 | 1 | 10 | 20 | | 4 | | | | |
| | | 空白 | 45 | | | | | | 45 | | | |
| 4 接触被害(非挿入) (被害確認調査前: 357) | 230 | 5 接触被害(挿入被害) | 2 | 1 | 1 | | | | | 2 | 0.9% | |
| | | 4 接触被害(非挿入) | 26 | 8 | 5 | 8 | | 5 | | 230 | 26 | 11.3% |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | 2 | 1 | 1 | | | | | | 202 | 87.8% |
| | | 2 非接触被害 | 1 | | | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 36 | 1 | 4 | 24 | | 7 | | | | |
| | | 空白 | 163 | | | | 14 | | 149 | | | |
| 3 接触被害(挿入不明) (被害確認調査前: 128) | 54 | 5 接触被害(挿入被害) | 6 | 3 | 3 | | | | | | 9 | 16.7% |
| | | 4 接触被害(非挿入) | 3 | | | | | | | | 7 | 13.0% |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | 7 | 2 | 2 | 3 | | | | | 38 | 70.4% |
| | | 2 非接触被害 | 0 | | | | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 17 | | 4 | 13 | | | | | | |
| | | 空白 | 21 | | | | 1 | | 20 | | | |
| 2 非接触被害 (被害確認調査前: 56) | 22 | 5 接触被害(挿入被害) | | | | | | | | | 0 | 0.0% |
| | | 4 接触被害(非挿入) | | | | | | | | | 3 | 13.6% |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | | | | | | | | | 19 | 86.4% |
| | | 2 非接触被害 | 3 | | 1 | 2 | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 2 | | | 1 | | 1 | | | | |
| | | 空白 | 17 | | | | | | 17 | | | |
| 1 何らかの被害 暖昧 (被害確認調査前: 210) | 79 | 5 接触被害(挿入被害) | 3 | 3 | | | | | | | 12 | 15.2% |
| | | 4 接触被害(非挿入) | 4 | | 2 | 2 | | | | | 29 | 36.7% |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | 4 | | | | | | | | 38 | 48.1% |
| | | 2 非接触被害 | 1 | | | 1 | | | | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 29 | | 11 | 15 | | 3 | | | | |
| | | 空白 | 38 | | | | | | 38 | | | |
| 空白 (被害確認調査前: 346) | 734 | 5 接触被害(挿入被害) | 47 | 25 | 13 | 4 | | 5 | | | | |
| | | 4 接触被害(非挿入) | 27 | 4 | 4 | 10 | | 1 | 8 | | | |
| | | 3 接触被害(挿入不明) | 20 | 7 | 5 | 6 | | | 2 | | | |
| | | 2 非接触被害 | 5 | | | 1 | | 1 | 3 | | | |
| | | 1 何らかの被害 暖昧 | 52 | 1 | 10 | 29 | | 3 | 9 | | 151 | 20.6% |
| | | 空白 | 583 | | 1 | 8 | | 1 | 573 | | 734 | 583 79.4% |
| 合 計 | | | 1257 | 1257 | 87 | 100 | 172 | 0 | 6 | 892 | 1257 | 1257 |

表 119 によれば、この段階で被害内容がより曖昧なものとしか識別できないものが 278 件 : 22.1%、診察によって、より明確に深刻な被害が確認されたものが 174 件 : 13.8%あり、元の情報内容に変更が生じなかつたものは 278 件 : 22.1%、空白が 583 件 : 46.4%となった。被害内容の変更が少なかつたのは、診察事例数が少なかつたことにより、記入の無いものは 892 件 : 71.0%もある。実際の個々の事例についてみると、そもそも被害確認面接やそれに類する調査・評価作業と、医学診察の順序は必ずしも一貫しておらず、診察が先に実施されてから、被害確認面接を実施することになる事例もあり、この変化の流れとは異なる順序で評価が進む事例もある。ただし、今回の調査ではその詳しい識別は行っていない。

医学診察で注目されることに、診察によってそれまでの被害の理解に矛盾する所見がみられた事例が 6 件報告されていることである。そのほとんどが、診察以前には状況が判別できない事例であったが、診察で初めて具体的な被害評価が可能となっている。ただし、他方で被害所見ありとされながら、評価としては何らかの被害・曖昧という形で終わった事例も散見されている。子どもの証言や周辺情報から得られた内容と矛盾する所見は見られないが、さりとて、何かあったのかということについては何も具体的には確証を得るような所見は出ないということがしばしば認められている。

医学的診察は、現状では全国統一的な体制整備を図るところまで、環境条件、社会資源の条件が整っていない状況があるが、これまで見てきた事例に限れば、可能であればやはり医学診察を実施することで、被害内容の確認が進む事例があることが確かめられたと言える。

またここでは特に触れていないが、ガイドライン 2011 年版で指摘しているように、医学診察と理解ある医師からの所見の告知によって、破壊的なダメージを受けた身体イメージがしばしば回復する事例がある。その

点、診察する医師は、診察行為と所見の告知が子どもに与える影響の大きさを十分に理解して、単なる診察医としてよりも、子どものダメージからの回復を助けるためのチームスタッフとしての自覚ある診療姿勢が強く望まれる。ただし、実施状況をみる限りまだごく一部の医師の活動のように見える（表120、121）。

表120. 医師から子どもへの直接助言

| 1 O. 性別 | 件数 | あり | なし | 無回答 |
|---------|--------------|-------------|-------------|------------|
| 合 計 | 472 100.0 | 193 40.9 | 216 45.8 | 63 13.3 |
| 女性 | 459 100.0 | 188 41.0 | 211 46.0 | 60 13.1 |
| 男性 | 11 100.0 | 4 36.4 | 4 36.4 | 3 27.3 |

(別紙資料2 A票 表91の再掲)

表121. 医師から子どもへの直接助言

| 1 O. 性別 | 件数 | 診察結果のみ | 告知身体的発達の健康 | 無回答 |
|---------|--------------|-------------|------------|-------------|
| 合 計 | 472 100.0 | 177 37.5 | 93 19.7 | 202 42.8 |
| 女性 | 459 100.0 | 170 37.0 | 92 20.0 | 197 42.9 |
| 男性 | 11 100.0 | 5 45.5 | 1 9.1 | 5 45.5 |

(別紙資料2 A票 表92の再掲)

⑥被害確認の推移

初期の通告時の情報確認、初期被害診察から医学診察まで、性暴力被害にあった子どもの被害状況の確認過程をみてきた。慎重な専門性に立った調査によって、隠されていたもの、隠れていたもののいくらかは、明らかになっている。④の探索的検討によれば、被害確認面接までの手順の積極的な実施の有効性がうかがわれたが、同時に当初の疑い情報や何らかの開示からはおよそ、その20%が否認に至る可能性もまた浮び上ってきた。

初期からの被害確認の把握状況は概ね以下のように推移していることが分かった。最終結果への推移としては、各段階は独立のフィルターのように機能しており、その濾し出された結果が最終結果となっている(図44~48)。

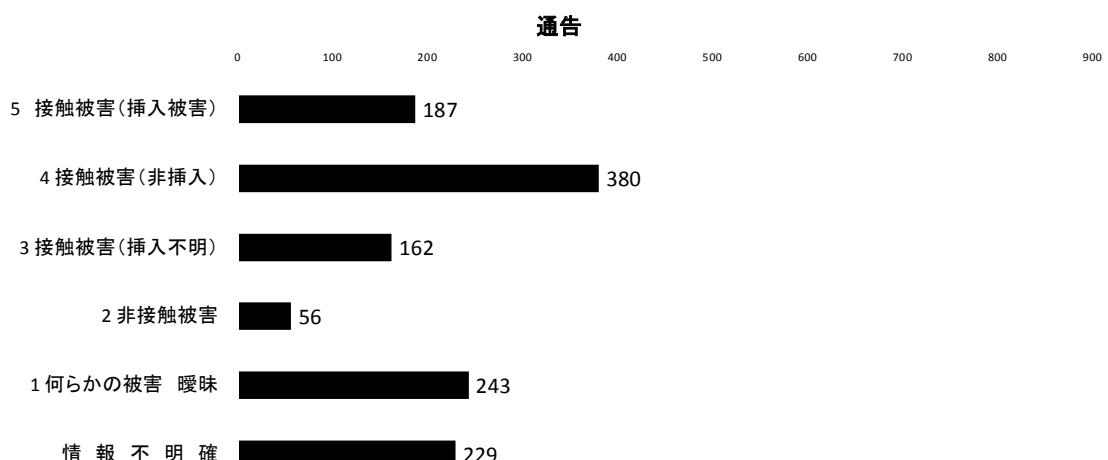


図44. 対応段階ごとの被害確認内容の推移 通告段階

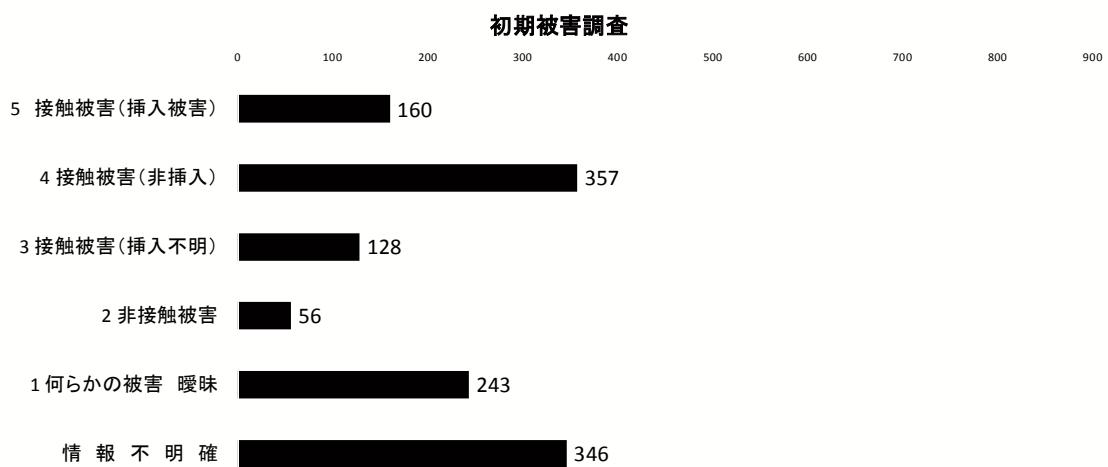


図 45. 対応段階ごとの被害確認内容の推移 初期被害調査段階

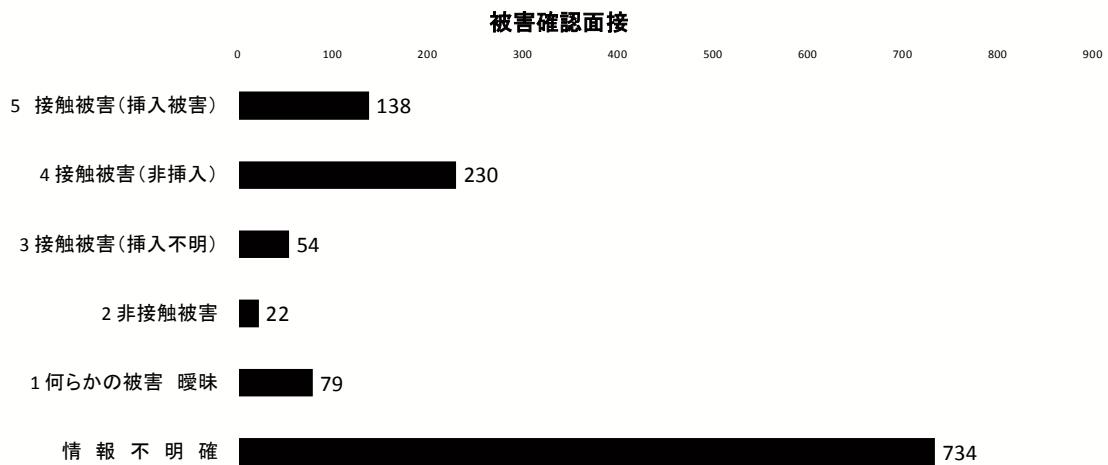


図 46. 対応段階ごとの被害確認内容の推移 被害確認面接実施段階

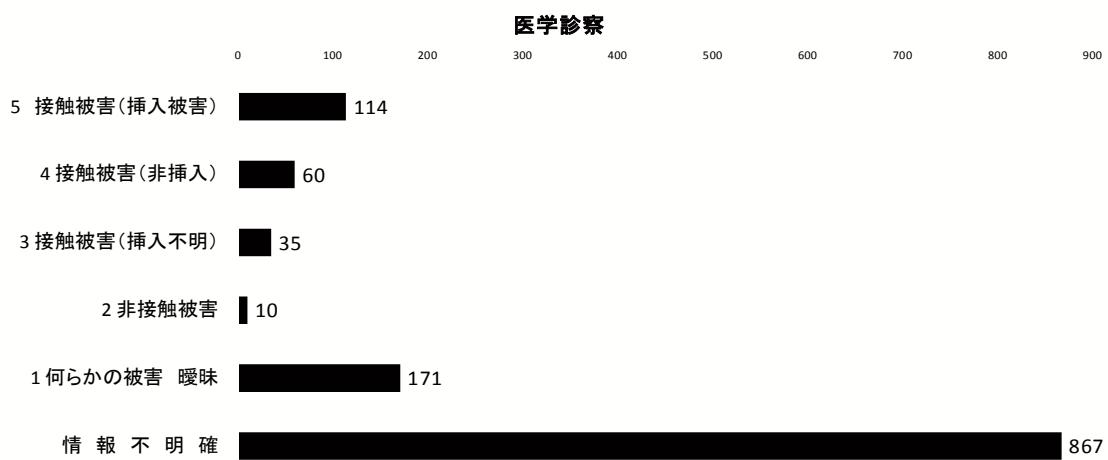


図 47. 対応段階ごとの被害確認内容の推移 医学診察実施段階

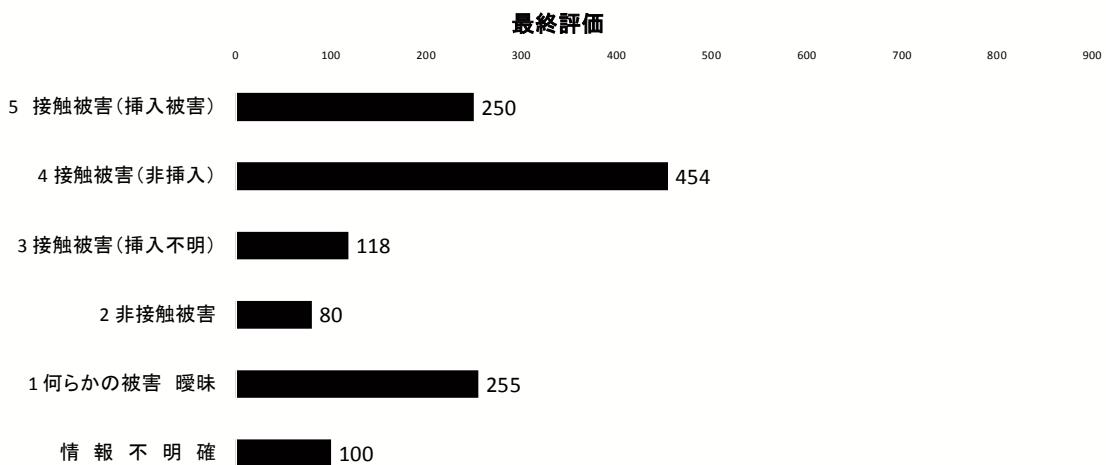


図 48. 対応段階ごとの被害確認内容の推移 最終評価

対応の最終評価を再掲すると以下のとおりとなる（図 49）。全事例の 71.8%までが具体的な被害確認に至っており、何らかの被害の疑いまでを含めると 92.0%に到達する。さらに被害無し、と明確に確認された事例が 17 件あり、被害の有無を含む確認全体数は 1174 件となり、全 1257 件中、この段階で被害について不明確として残ったのは 83 件 : 6.6%である。

各調査はそれぞれ独立のフィルターのように機能し、それらのフィルターを通じていわばろ過された結果が初期対応の最終評価となっている。

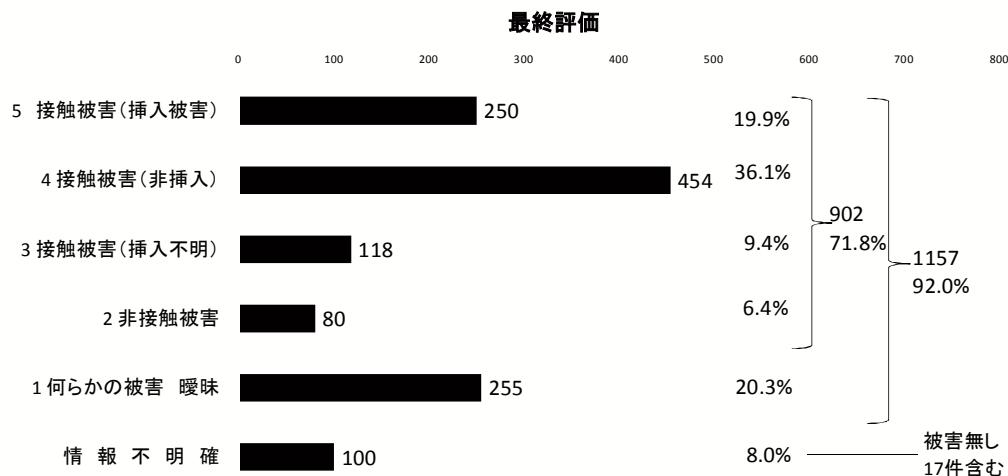


図 49. 通告からの初期調査全体を通じての被害の最終確認状況

通告受理直後からの各段階での被害確認状況ごとの推移は複雑な経過をたどっている。統計学的な検査等については④の探索的検討の項でそのいくつかの試みを示したが、個別の事例単位で通告受理の段階からの被害についての評価を並べると以下のような推移を示している（図 50）。特に初期被害調査段階では各項目の変更は、全件数としての推移以上に、個々の事例における評価の変更比率が高い。ただ、これらはその都度の調査基準に照らした変更であって、その段階では評価対象外のものも、すべて各段階ごとにいったんその段階としての評価（評価・判断のための情報なし）によって分類されている。

実際にはこれらはフィルターのように機能して最終評価に至る。どこかでより詳細な事実が確認された事例はそれが以降の評価により詳細な評価への再評価されて修正されない限りその内容が最終評価に至る。その結果が図 49 である。

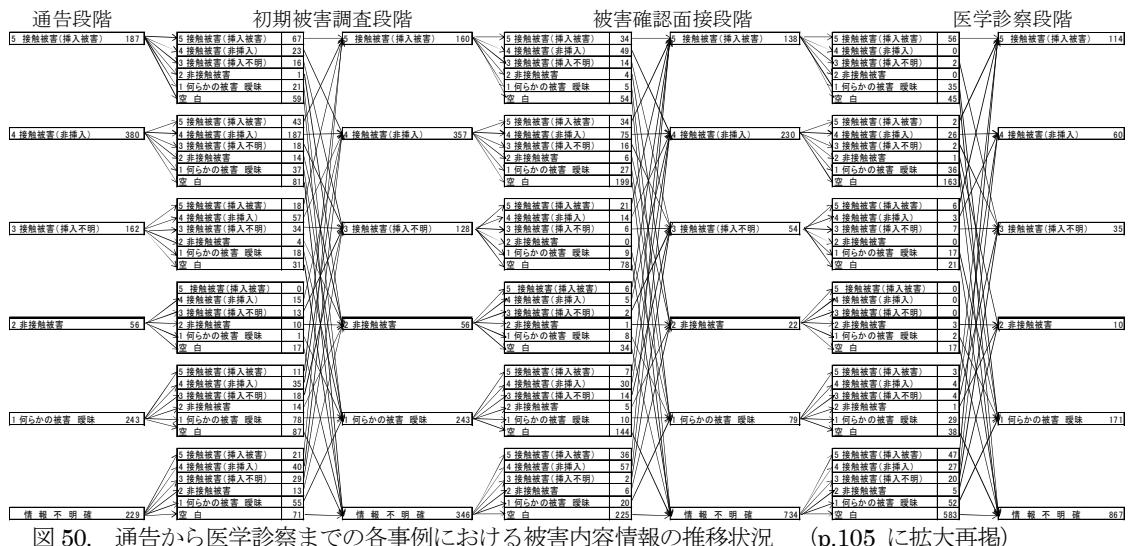


図 50. 通告から医学診察までの各事例における被害内容情報の推移状況 (p.105 に拡大再掲)

これらの推移状況と最終的な評価状況をみると、④の探索的検討でも指摘したように、初期段階での被害情報があいまいであったとしても、まず通告されること、通告された事例は調査されることが重要であること、初期被害調査からの各評価作業によって、当初はあいまいな被害情報しかわからなかつた事例も、被害内容が精査され、明らかになっていくことが確認されている。

3-9 在宅案で被害にあった子どもが示している問題・症状について(参考情報)

① 把握されている問題・症状

子どもの性暴力被害問題が、虐待問題の中でも特に深刻であるとされる理由の一つが、慢性的な被害状況が生む重複するトラウマによる複雑性 PTSD などの多彩な問題・症状を生むことにある。ただし、その実態を明らかにし、その損害を適切に評価し、さらにその対策を検討するためには、継続的な総合調査が必要である。本調査はそうした設定の調査ではないため、不定期な期間設定ではあるが、在宅時点、一時保護時点、施設入所時点、引き取り時点での情報が把握されている事例について、それぞれの時期にどのような問題・症状が認められていたか、についての情報整理をして、今後の検討に資する参考情報を提供することとした。

在宅での初頭情報から事例の経過がある程度、時系列に追える事例は、表 122 のとおりである。これらの事例について回収した全情報の一覧を件数と発生率の一覧で示す(表 123)。それらをグラフによって視覚化したものと同じく一覧図 51 によって示す。

表 122. 在宅状態からの経過情報が把握できた事例

| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
|-----|------|------|------|-----|
| 総計 | 1319 | 723 | 355 | 375 |
| 女 | 1225 | 685 | 337 | 356 |
| 男 | 88 | 36 | 16 | 18 |
| 合計 | 1313 | 721 | 353 | 374 |
| 欠損値 | 6 | 2 | 2 | 1 |

ただし、ここに提示する事例情報は、平成 23 年度に関わりのあった、過去からの事例、当該年度のみの事例の混合情報で、それぞれの期間や経緯についての統一は図られていない。また、それぞれの事例数にも相当のばらつきがあるため、これを統一的な評価に乗せるることは難しい。また、初期在宅の情報が不足しているとか、引取り後の情報が追えなかった事例も含まれている。

表 123 が示しているのは、表 122 に示された平成 23 年度に全国の児童相談所において、何らかの対応があつたと報告された性暴力被害にあつた子どもたちの事例の中で、初期対応が在宅状態で開始されている事例で、その経過が把握できた事例に記載されている子どもの問題・症状の情報である。

確認されたのは、初期在宅対応時、一時保護中、施設入所したことのある事例は施設入所中、一時保護所あるいは施設から措置解除で家に戻った事例は引き取り後の在宅時、の 4 つの時期について、調査票の 148 間から 166 間まで 19 種類の問題・症状についての報告数である。

各時期に問題・症状が報告されていない事例数は、問題が無いと確認される事例と問題の有無を確認できなかつた事例の合計値であり、かなりの欠損値が含まれている。したがって発生率(各段階の確認数の比率)はすべての問題でかなり低目になつてゐる可能性もあり、あくまでも参考情報の範囲を出ないデータである。

表 123-1. 初期の在宅から一時保護、施設入所、引取りまでの子どもの問題症状の推移一覧(参考情報)
各標題横の質問項目Noでそれぞれの表・図を照合確認できる。

| 148 PTSD・PTSD様状態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>初期在宅</th><th>一時保護</th><th>施設入所</th><th>引取り</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td><td>88</td><td>97</td><td>51</td><td>23</td></tr> <tr> <td>女</td><td>85</td><td>97</td><td>51</td><td>23</td></tr> <tr> <td>男</td><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 88 | 97 | 51 | 23 | 女 | 85 | 97 | 51 | 23 | 男 | 1 | | | | 148 PTSD | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>初期在宅</th><th>一時保護</th><th>施設入所</th><th>引取り</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td><td>6.67%</td><td>13.42%</td><td>14.37%</td><td>6.13%</td></tr> <tr> <td>女</td><td>6.94%</td><td>14.16%</td><td>15.13%</td><td>6.46%</td></tr> <tr> <td>男</td><td>1.14%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 6.67% | 13.42% | 14.37% | 6.13% | 女 | 6.94% | 14.16% | 15.13% | 6.46% | 男 | 1.14% | | | |
|------------------|---|--------|--------|--------|------|-----|----|-----|-----|----|----|---|-----|-----|----|----|---|---|---|---|---|-----------------|--|--|------|------|------|-----|----|--------|--------|--------|--------|---|--------|--------|--------|--------|---|-------|-------|--------|-------|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 88 | 97 | 51 | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 85 | 97 | 51 | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 6.67% | 13.42% | 14.37% | 6.13% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 6.94% | 14.16% | 15.13% | 6.46% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 1.14% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 149 解離・解離様状態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>67</td> <td>81</td> <td>40</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>65</td> <td>80</td> <td>39</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 67 | 81 | 40 | 22 | 女 | 65 | 80 | 39 | 22 | 男 | 2 | 1 | 1 | | 149 解離・解離様状態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>5.08%</td> <td>11.20%</td> <td>11.27%</td> <td>5.87%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>5.31%</td> <td>11.68%</td> <td>11.57%</td> <td>6.18%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2.27%</td> <td>2.78%</td> <td>6.25%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 5.08% | 11.20% | 11.27% | 5.87% | 女 | 5.31% | 11.68% | 11.57% | 6.18% | 男 | 2.27% | 2.78% | 6.25% | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 67 | 81 | 40 | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 65 | 80 | 39 | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 5.08% | 11.20% | 11.27% | 5.87% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 5.31% | 11.68% | 11.57% | 6.18% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2.27% | 2.78% | 6.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 150 パニック・興奮・暴力 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>70</td> <td>37</td> <td>29</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>63</td> <td>36</td> <td>27</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>2</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 70 | 37 | 29 | 16 | 女 | 63 | 36 | 27 | 16 | 男 | 7 | 1 | 2 | | 150 パニック・興奮・暴力 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>5.31%</td> <td>5.12%</td> <td>8.17%</td> <td>4.27%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>5.14%</td> <td>5.26%</td> <td>8.01%</td> <td>4.49%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>7.95%</td> <td>2.78%</td> <td>12.50%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 5.31% | 5.12% | 8.17% | 4.27% | 女 | 5.14% | 5.26% | 8.01% | 4.49% | 男 | 7.95% | 2.78% | 12.50% | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 70 | 37 | 29 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 63 | 36 | 27 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 7 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 5.31% | 5.12% | 8.17% | 4.27% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 5.14% | 5.26% | 8.01% | 4.49% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 7.95% | 2.78% | 12.50% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 151 気分変動・うつ状態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>136</td> <td>114</td> <td>70</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>133</td> <td>114</td> <td>70</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 136 | 114 | 70 | 39 | 女 | 133 | 114 | 70 | 39 | 男 | 2 | | | | 151 気分変動・うつ状態 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>10.31%</td> <td>15.77%</td> <td>19.72%</td> <td>10.40%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>10.86%</td> <td>16.64%</td> <td>20.77%</td> <td>10.96%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2.27%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 10.31% | 15.77% | 19.72% | 10.40% | 女 | 10.86% | 16.64% | 20.77% | 10.96% | 男 | 2.27% | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 136 | 114 | 70 | 39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 133 | 114 | 70 | 39 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 10.31% | 15.77% | 19.72% | 10.40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 10.86% | 16.64% | 20.77% | 10.96% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2.27% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 152 不眠・心身症状 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>121</td> <td>97</td> <td>56</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>117</td> <td>95</td> <td>55</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 121 | 97 | 56 | 27 | 女 | 117 | 95 | 55 | 27 | 男 | 2 | 2 | 1 | | 152 不眠・心身症状 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>9.17%</td> <td>13.42%</td> <td>15.77%</td> <td>7.20%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>9.55%</td> <td>13.87%</td> <td>16.32%</td> <td>7.58%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2.27%</td> <td>5.56%</td> <td>6.25%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 9.17% | 13.42% | 15.77% | 7.20% | 女 | 9.55% | 13.87% | 16.32% | 7.58% | 男 | 2.27% | 5.56% | 6.25% | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 121 | 97 | 56 | 27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 117 | 95 | 55 | 27 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 9.17% | 13.42% | 15.77% | 7.20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 9.55% | 13.87% | 16.32% | 7.58% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2.27% | 5.56% | 6.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 153 その他精神科問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>44</td> <td>36</td> <td>27</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>42</td> <td>35</td> <td>26</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 44 | 36 | 27 | 17 | 女 | 42 | 35 | 26 | 16 | 男 | 2 | 1 | 1 | 1 | 153 その他精神科問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>3.34%</td> <td>4.98%</td> <td>7.61%</td> <td>4.53%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>3.43%</td> <td>5.11%</td> <td>7.72%</td> <td>4.49%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>2.27%</td> <td>2.78%</td> <td>6.25%</td> <td>5.56%</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 3.34% | 4.98% | 7.61% | 4.53% | 女 | 3.43% | 5.11% | 7.72% | 4.49% | 男 | 2.27% | 2.78% | 6.25% | 5.56% |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 44 | 36 | 27 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 42 | 35 | 26 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 3.34% | 4.98% | 7.61% | 4.53% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 3.43% | 5.11% | 7.72% | 4.49% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 2.27% | 2.78% | 6.25% | 5.56% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 154 不登校・閉じこもり | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>166</td> <td>4</td> <td>21</td> <td>48</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>158</td> <td>4</td> <td>21</td> <td>46</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 166 | 4 | 21 | 48 | 女 | 158 | 4 | 21 | 46 | 男 | 6 | | | 1 | 154 不登校・閉じこもり | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>12.59%</td> <td>0.55%</td> <td>5.92%</td> <td>12.80%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>12.90%</td> <td>0.58%</td> <td>6.23%</td> <td>12.92%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6.82%</td> <td></td> <td></td> <td>5.56%</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 12.59% | 0.55% | 5.92% | 12.80% | 女 | 12.90% | 0.58% | 6.23% | 12.92% | 男 | 6.82% | | | 5.56% |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 166 | 4 | 21 | 48 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 158 | 4 | 21 | 46 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 12.59% | 0.55% | 5.92% | 12.80% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 12.90% | 0.58% | 6.23% | 12.92% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6.82% | | | 5.56% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 155 自傷行為・自殺企図 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>106</td> <td>33</td> <td>44</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>104</td> <td>33</td> <td>44</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 106 | 33 | 44 | 21 | 女 | 104 | 33 | 44 | 21 | 男 | 1 | | | | 155 自傷行為・自殺企図 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>8.04%</td> <td>4.56%</td> <td>12.39%</td> <td>5.60%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>8.49%</td> <td>4.82%</td> <td>13.06%</td> <td>5.90%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>1.14%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 8.04% | 4.56% | 12.39% | 5.60% | 女 | 8.49% | 4.82% | 13.06% | 5.90% | 男 | 1.14% | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 106 | 33 | 44 | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 104 | 33 | 44 | 21 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 8.04% | 4.56% | 12.39% | 5.60% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 8.49% | 4.82% | 13.06% | 5.90% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 1.14% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 156 過剰・仮性適応の疑い | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>60</td> <td>57</td> <td>25</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>60</td> <td>55</td> <td>25</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td></td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 60 | 57 | 25 | 11 | 女 | 60 | 55 | 25 | 11 | 男 | | 2 | | | 156 過剰・仮性適応の疑い | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>4.55%</td> <td>7.88%</td> <td>7.04%</td> <td>2.93%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>4.90%</td> <td>8.03%</td> <td>7.42%</td> <td>3.09%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td></td> <td>5.56%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 4.55% | 7.88% | 7.04% | 2.93% | 女 | 4.90% | 8.03% | 7.42% | 3.09% | 男 | | 5.56% | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 60 | 57 | 25 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 60 | 55 | 25 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 4.55% | 7.88% | 7.04% | 2.93% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 4.90% | 8.03% | 7.42% | 3.09% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | | 5.56% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 157 多重被害問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>男</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 10 | 3 | 1 | | 女 | 10 | 3 | 1 | | 男 | | | | | 157 多重被害問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>0.76%</td> <td>0.41%</td> <td>0.28%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>0.82%</td> <td>0.44%</td> <td>0.30%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>男</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 0.76% | 0.41% | 0.28% | | 女 | 0.82% | 0.44% | 0.30% | | 男 | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 10 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 10 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 0.76% | 0.41% | 0.28% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 0.82% | 0.44% | 0.30% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 158 性被害問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>98</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>93</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 98 | 14 | 16 | 12 | 女 | 93 | 13 | 15 | 12 | 男 | 5 | 1 | 1 | | 158 性被害問題 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>7.43%</td> <td>1.94%</td> <td>4.51%</td> <td>3.20%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>7.59%</td> <td>1.90%</td> <td>4.45%</td> <td>3.37%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>5.68%</td> <td>2.78%</td> <td>6.25%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 7.43% | 1.94% | 4.51% | 3.20% | 女 | 7.59% | 1.90% | 4.45% | 3.37% | 男 | 5.68% | 2.78% | 6.25% | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 98 | 14 | 16 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 93 | 13 | 15 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 5 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 7.43% | 1.94% | 4.51% | 3.20% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 7.59% | 1.90% | 4.45% | 3.37% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 5.68% | 2.78% | 6.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 159 家出・無断外出 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>132</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>125</td> <td>27</td> <td>31</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>7</td> <td>1</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 132 | 28 | 32 | 23 | 女 | 125 | 27 | 31 | 23 | 男 | 7 | 1 | 1 | | 159 家出・無断外出 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>10.01%</td> <td>3.87%</td> <td>9.01%</td> <td>6.13%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>10.20%</td> <td>3.94%</td> <td>9.20%</td> <td>6.46%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>7.95%</td> <td>2.78%</td> <td>6.25%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 10.01% | 3.87% | 9.01% | 6.13% | 女 | 10.20% | 3.94% | 9.20% | 6.46% | 男 | 7.95% | 2.78% | 6.25% | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 132 | 28 | 32 | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 125 | 27 | 31 | 23 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 7 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 10.01% | 3.87% | 9.01% | 6.13% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 10.20% | 3.94% | 9.20% | 6.46% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 7.95% | 2.78% | 6.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 160 暴力・暴言・いじめ加害 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>51</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>45</td> <td>17</td> <td>25</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 51 | 18 | 26 | 13 | 女 | 45 | 17 | 25 | 12 | 男 | 6 | 1 | 1 | 1 | 160 暴力・暴言・いじめ加害 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>3.87%</td> <td>2.49%</td> <td>7.32%</td> <td>3.47%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>3.67%</td> <td>2.48%</td> <td>7.42%</td> <td>3.37%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6.82%</td> <td>2.78%</td> <td>6.25%</td> <td>5.56%</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 3.87% | 2.49% | 7.32% | 3.47% | 女 | 3.67% | 2.48% | 7.42% | 3.37% | 男 | 6.82% | 2.78% | 6.25% | 5.56% |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 51 | 18 | 26 | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 45 | 17 | 25 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 3.87% | 2.49% | 7.32% | 3.47% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 3.67% | 2.48% | 7.42% | 3.37% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6.82% | 2.78% | 6.25% | 5.56% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 161 夜間徘徊・虞犯行為 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>87</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>82</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 87 | 8 | 8 | 20 | 女 | 82 | 8 | 8 | 20 | 男 | 4 | | | | 161 夜間徘徊・虞犯行為 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>6.60%</td> <td>1.11%</td> <td>2.25%</td> <td>5.33%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>6.69%</td> <td>1.17%</td> <td>2.37%</td> <td>5.62%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>4.55%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 6.60% | 1.11% | 2.25% | 5.33% | 女 | 6.69% | 1.17% | 2.37% | 5.62% | 男 | 4.55% | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 87 | 8 | 8 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 82 | 8 | 8 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 6.60% | 1.11% | 2.25% | 5.33% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 6.69% | 1.17% | 2.37% | 5.62% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 4.55% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 162 万引き・盗み | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>70</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>63</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 70 | 10 | 14 | 9 | 女 | 63 | 10 | 13 | 8 | 男 | 6 | | 1 | 1 | 162 万引き・盗み | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>初期在宅</th> <th>一時保護</th> <th>施設入所</th> <th>引取り</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>合計</td> <td>5.31%</td> <td>1.38%</td> <td>3.94%</td> <td>2.40%</td> </tr> <tr> <td>女</td> <td>5.14%</td> <td>1.46%</td> <td>3.86%</td> <td>2.25%</td> </tr> <tr> <td>男</td> <td>6.82%</td> <td></td> <td>6.25%</td> <td>5.56%</td> </tr> </tbody> </table> | | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | 合計 | 5.31% | 1.38% | 3.94% | 2.40% | 女 | 5.14% | 1.46% | 3.86% | 2.25% | 男 | 6.82% | | 6.25% | 5.56% |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 70 | 10 | 14 | 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 63 | 10 | 13 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 5.31% | 1.38% | 3.94% | 2.40% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 女 | 5.14% | 1.46% | 3.86% | 2.25% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 男 | 6.82% | | 6.25% | 5.56% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

表 123-2. 初期の在宅から一時保護、施設入所、引取り後までの子どもの問題症状の推移一覧 続き(参考情報)
各表題横の質問項目Noでそれぞれの表・図を照合確認できる。

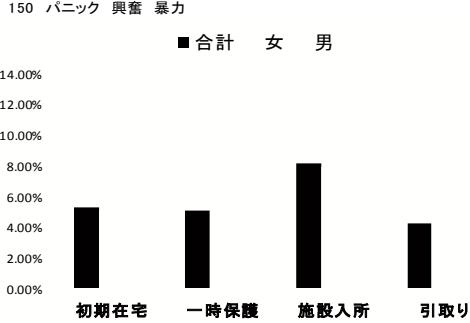
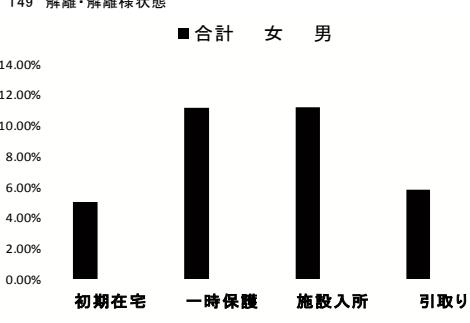
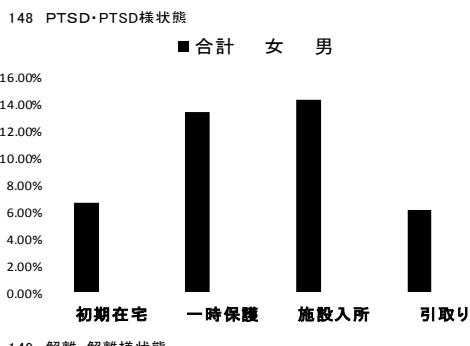
| 163 シンナー・薬物 | | | | |
|-------------|------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 3 | | | |
| 女 | 3 | | | |
| 男 | | | | |

| 164 児童買春・援助交際 | | | | |
|---------------|------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 30 | 1 | 2 | 4 |
| 女 | 30 | 1 | 2 | 4 |
| 男 | | | | |

| 165 その他の性的問題 | | | | |
|--------------|------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 78 | 32 | 30 | 21 |
| 女 | 69 | 26 | 25 | 20 |
| 男 | 9 | 6 | 5 | 1 |

| 166 その他 | | | | |
|---------|------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 26 | 15 | 8 | 6 |
| 女 | 22 | 11 | 6 | 5 |
| 男 | 4 | 4 | 2 | 1 |

| 総延べ件数 | | | | |
|-------|------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 1443 | 685 | 500 | 332 |
| 女 | 1369 | 665 | 484 | 325 |
| 男 | 64 | 20 | 16 | 6 |



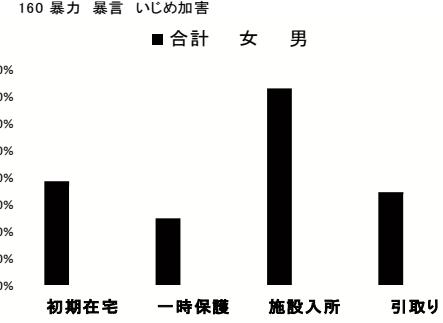
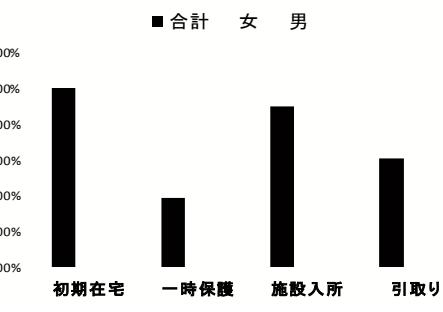
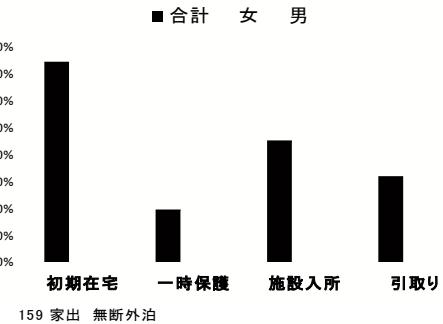
| 163 シンナー・薬物 | | | | |
|-------------|-------|------|------|-----|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 0.23% | | | |
| 女 | 0.24% | | | |
| 男 | | | | |

| 164 児童買春・援助交際 | | | | |
|---------------|-------|-------|-------|-------|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 2.27% | 0.14% | 0.56% | 1.07% |
| 女 | 2.45% | 0.15% | 0.59% | 1.12% |
| 男 | | | | |

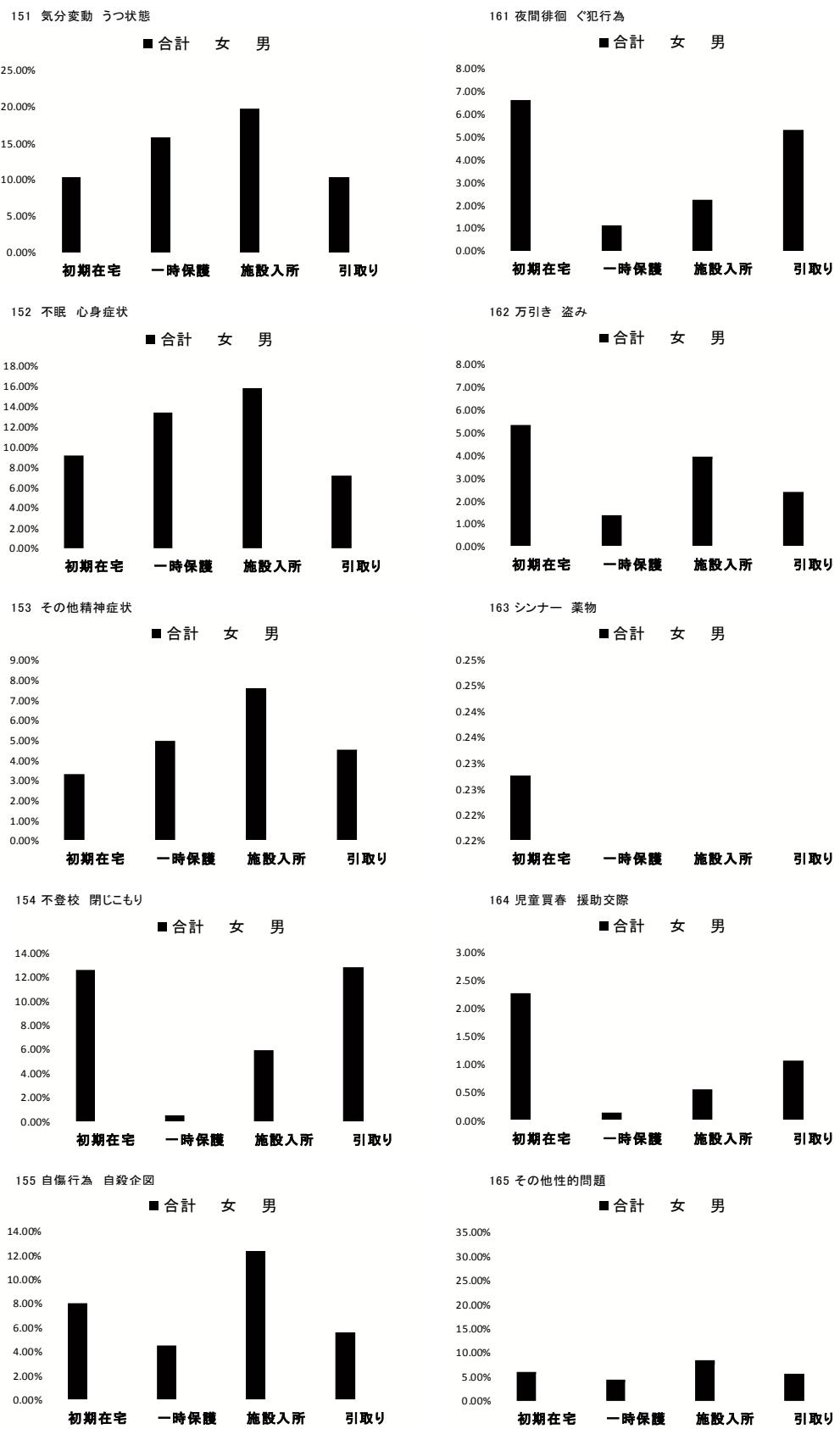
| 165 その他の性的問題 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|-------|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 5.91% | 4.43% | 8.45% | 5.60% |
| 女 | 5.63% | 3.80% | 7.42% | 5.62% |
| 男 | 10.23% | 16.67% | 31.25% | 5.56% |

| 166 その他 | | | | |
|---------|-------|--------|--------|-------|
| | 初期在宅 | 一時保護 | 施設入所 | 引取り |
| 合計 | 1.97% | 2.07% | 2.25% | 1.60% |
| 女 | 1.80% | 1.61% | 1.78% | 1.40% |
| 男 | 4.55% | 11.11% | 12.50% | 5.56% |

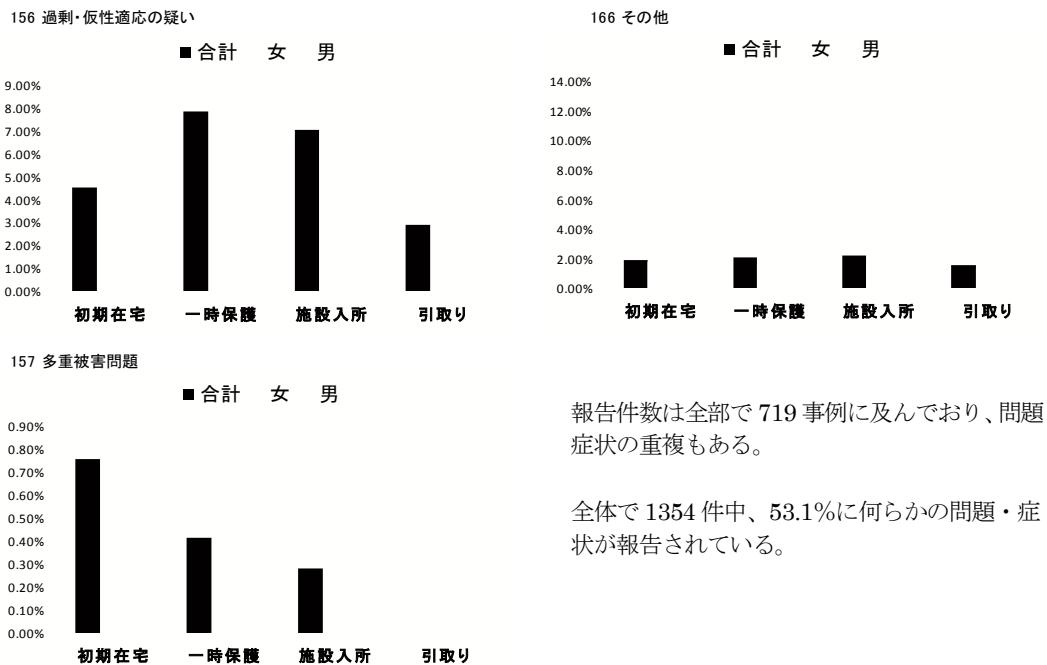
■ 合計 女 男



一覧図 51.-1 問題・症状については上記集計表の各N oと照合している。



一覧図 51.-2 問題・症状については上記集計表の各N oと照合している。



一覧図 51.-3 以降の図表は上記集計表の各 N_o と照合している。

② やや高い頻度で認められた問題・症状群について

報告された各問題・症状のうち、いずれかの段階でその該当件数が対象数の 10% を超えたものに着目すると、148 PTSD・PTSD 様症状、149 解離・解離様状態、150 パニック 興奮 暴力、151 気分変動 うつ状態、152 不眠 心身症状、154 不登校 閉じこもり、155 自傷行為 自殺企図、159 家出 無断外泊、165 そのほか的問題 の 9 項目が挙げられた。

いずれの問題・症状についても、初期在宅状態時の出現頻度については十分な情報把握ができているかどうかに疑問が残る。一時保護以降については行動観察下にあっての情報として一定の評価の下で報告されていると考えられる。

これを見ると、一時保護とともに症状が表面化し、施設入所中にも症状が認められるものが多くみられる（148 PTSD・PTSD 様症状、149 解離・解離様状態、151 気分変動 うつ状態、152 不眠 心身症状）。特に、148 PTSD・PTSD 様症状、151 気分変動 うつ状態、152 不眠 心身症状は一時保護から施設入所という時間経過と共に増加する傾向（女性被害者）が一貫しており、ほぼ同じ傾向を示している。

これらのトラウマとの関連が深いとみられる心身症状群は、性暴力被害問題が抑圧されている在宅状態、引き取り後の環境では十分な観察を得ていない可能性があること、問題の発見・発覚によって、被害者自身が問題に直面化することで、症状が表面化しやすいことなどが説明仮説としては挙げられる。

また中には男性の事例数が少なすぎて状況が見えないものもある（148 PTSD・PTSD 様症状 155 自傷行為 自殺企図）。

男性に関しては施設入所中に突出して表出が認められる問題（150 パニック 興奮 暴力、165 そのほか的問題）がいずれも男性被害者に特徴的に認められ、在宅時に発見・発覚した性暴力被害を経験した男性の多くが、施設生活においていわゆる行動化（acting-out）と呼ばれるような行動上の問題を示しやすいことがうかがわれる。

154 不登校・閉じこもりと159 家出・無断外出は初期の在宅時に最も多く注目される問題行動であり、一時保護によって環境的に一時問題とならなくなるが、施設～引取りと在宅に戻っていく中で問題が再燃する傾向（男女とも）が認められている。

在宅の子どもに何らかの性暴力被害の発見・発覚があり、一時保護されるということは、それまでの何もないフリがその時点で途切れる意を意味する。おそらく問題症状の増加は、もともとの発見・観察密度の違いも含まれるだろうが、それ以上に、それまでは隠されていたものが表面化し、直面化することで一時的にストレスが急迫する結果によるとみられる。それは本来そうあるべき葛藤があらわになったことを意味するのではないかと考えられるが、同時に密度の高いケアを一時保護と同時に開始する必要性を示している。また男性被害者においては施設入所後にパニック・興奮・暴力や、性的問題行動を表面化させやすい傾向があるようにみえ、これについてもあらかじめ対応体制の整備が検討されるべきであろう。

不登校や家出は対応の経過により引き取られた後も高頻度に見られる問題行動であり、出現頻度からみると分離保護の期間の影響・効果があまり認められない適応障害とも考えられる。

全体に家庭引取りになった事例では不登校・閉じこもり以外はいずれの問題も減少傾向を示している。これは引取りが可能となる過程に、加害者排除や家族との再統合など、被害者にとって肯定的な事態が前提としてあるからかもしれない。ただし、別な見方をすれば、再び何もないフリに戻った可能性も否定できない。

この項目で取り上げた問題・症状群のグラフを再掲する。

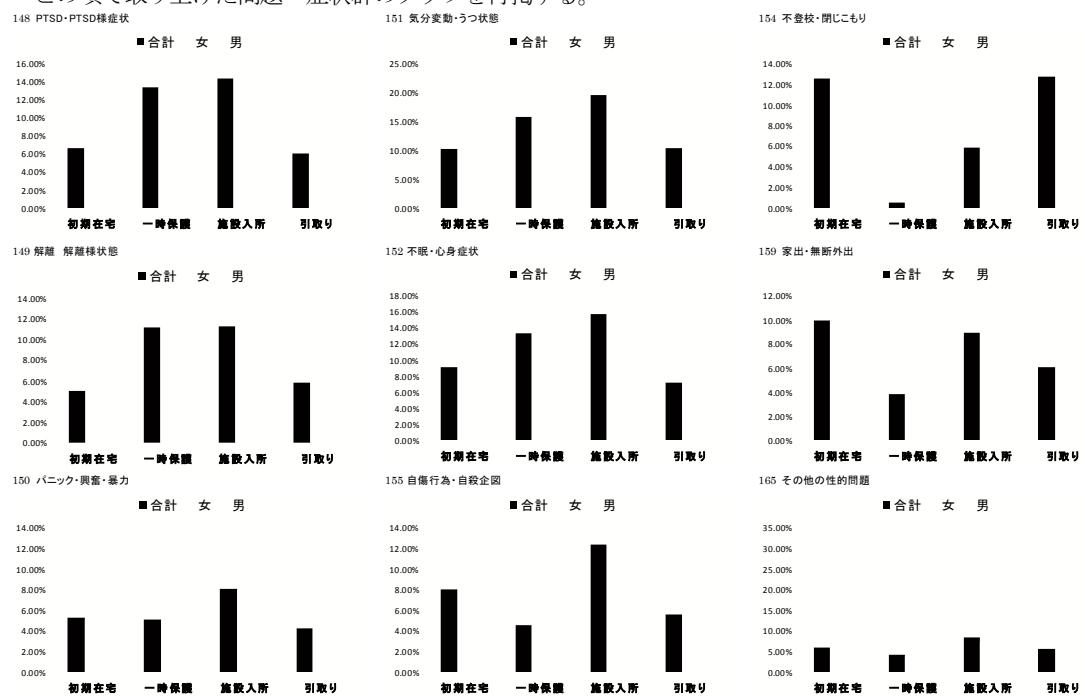


図 52. 問題・症状の内、いずれかの項目が対象群の 10% を超えたものの一覧 項目 No. は質問 No. として表 120 と照合可能

ここまでに示した問題、症状の経過情報については、先にあげたような基礎的な条件にばらつきが大きいこと、いずれもの事例数が少なく、全体に占める構成比が数パーセントのものがほとんどであることなどから、評価には慎重であるべきデータであり、参考情報にとどめる。より詳細な検討は今後の総合的な研究に委ねたい。

4) 家族対応と必要なケアの開始 再被害の阻止

4)-1 在宅事案、発覚からの対応、加害者、非加害保護者、家族・親族、関係者へのアプローチ

① 調査と支援のための接触

在宅状態にある子どもに何らかの性暴力被害の発見・発覚があったことにより対応開始する事例では、初期調査による調査保護が実施された場合、その後の保護の告知面接で初めて子どもの保護者、親族への接触を開始することが多い。

一時保護にともなう保護者との接触については表 84～87 でその対応をみてきたが、概ね 80%を超える事例で保護者に告知面接で接触しており、調査保護の告知も 57%で実施されている。

表 124～128 は一時保護の有無に関わらず、対応開始とともに初期調査としての保護者・関係者への接觸状況である。（別紙資料 2 A 票 表 93～97 再掲）

表 124. 関係者面接調査 加害者（疑い）

| | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 10. 性別 | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 645 47.6 | 620 45.8 | 89 6.6 |
| 女性 | 1257 100.0 | 601 47.8 | 573 45.6 | 83 6.6 |
| 男性 | 91 100.0 | 44 48.4 | 42 46.2 | 5 5.5 |

表 125. 関係者面接調査 非加害保護者

| | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 10. 性別 | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 977 72.2 | 256 18.9 | 121 8.9 |
| 女性 | 1257 100.0 | 919 73.1 | 229 18.2 | 109 8.7 |
| 男性 | 91 100.0 | 54 59.3 | 27 29.7 | 10 11.0 |

表 126. 関係者面接調査 親以外の家族・同居人

| | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 10. 性別 | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 225 16.6 | 780 57.6 | 349 25.8 |
| 女性 | 1257 100.0 | 204 16.2 | 723 57.5 | 330 26.3 |
| 男性 | 91 100.0 | 20 22.0 | 55 60.4 | 16 17.6 |

表 127. 関係者面接調査 祖父母・親族

| | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 10. 性別 | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 292 21.6 | 729 53.8 | 333 24.6 |
| 女性 | 1257 100.0 | 267 21.2 | 675 53.7 | 315 25.1 |
| 男性 | 91 100.0 | 24 26.4 | 52 57.1 | 15 16.5 |

表 128. 関係者面接調査 そのほか関係者・知人

| | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| 10. 性別 | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 258 19.1 | 722 53.3 | 374 27.6 |
| 女性 | 1257 100.0 | 242 19.3 | 665 52.9 | 350 27.8 |
| 男性 | 91 100.0 | 15 16.5 | 55 60.4 | 21 23.1 |

表 124～128 をみると、初期の被害調査として非加害保護者とは 6～7 割の事例で接觸し、5 割弱の事例では加害者とも接觸しているが、そのほかの親族・同居人・知人等については 1～2 割の事例でしか接觸できていないことが分かる。

これには相談事項の守秘義務が大きな壁になっている。

子ども虐待事案では、関係機関の持つ情報については法定化された要保護児童対策地域協議会を通じて、それぞれの機関の守秘義務の範囲を共有することで事実上、調査権に近い権限をもって互いの持つ個人情報を共有化できるのだが、家族・親族等の子どもとその家族に関係する個人に対しては、積極的な調査がしづらい現実がある。確かに性暴力被害問題は、風評被害を含め、センシティブな個人情報に属するため、容易には調査の対象者を広げにくいという課題がある。

これに付随する課題にきょうだい対応がある。被害にあったのと同性のきょうだいは原則被害調査の対象であり、場合によっては同時に調査保護が検討されなければならない。潜在する被害についての調査は即座に行わなければ容易に口止め等の隠ぺい圧力下に抑え込まれてしまうからである。

より微妙な課題は非加害の異性のきょうだいへの対応である。家族が加害者排除の痛みをくぐり抜けて再生と修復への過程をたどろうとするとき、被害者のきょうだいの存在は極めて重要なのが、現在の体制下では、その家族成員を一同に集め、力を結集するためには非加害保護者の相当の決断と力量、支援への協力が無ければ難しい。

また祖父母やおば・おじといった親族、いとこなどの世代の近い親族の支援も場合によっては重要である。特にDVを伴う性暴力加害者の場合、多数の親族内被害者を生む加害者となる危険性を含め、長期にわたる追跡・再加害の危険性があり、被害者を守るのに親族のネットワークが重要となる。これについても現時点での児童相談所の権限ではその全体を主導的にマネジメントすることは難しい。

② 加害者へのアプローチ

もともと一時保護の告知の段階から一部の児童相談所は加害者に積極的に接触しようとはしていない。加害を疑われた側でも、児童相談所のアプローチを避けようとする動きを示す場合もある。しかし、在宅の子どもへの加害者は、多くの場合、子どもの生活における重要人物として子どもと生活を分かち合ってきた人物であることが多い。子どもへのケア、様々なアプローチにおいても子どもと加害者の生活史、分かち合ってきた経験や人間関係をよく知っておくこと、合わせて今後の子どもの人生に及ぼす加害者の影響をよく把握し、できれば加害者と直接に課題を共有しておくことが望ましい。

特に親権者、あるいはそれに近い親族が加害者として疑われる場合には、直接に加害者を知ることが重要である。

加害者と分かち合う関係の最初は、子どもの訴えにある加害行為に対する加害者の反応・態度である。通常、児童相談所が加害を疑われる人物と最初に接触したら、まず、子どもの訴えについての加害者の認識を率直に尋ねることから始める。

表 129. 加害者（疑い）の加害事実についての質問への反応

| 10. 性別 | 件数 | 加害事実を認める | る一部加害事実を認め | 性行為を認めずめるが加害 | 全事実否認に至らず | 無回答 |
|--------|--------------|-------------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 合計 | 645 100.0 | 229 35.5 | 83 12.9 | 137 21.2 | 182 28.2 | 14 2.2 |
| 女性 | 601 100.0 | 215 35.8 | 76 12.6 | 126 21.0 | 170 28.3 | 14 2.3 |
| 男性 | 44 100.0 | 14 31.8 | 7 15.9 | 11 25.0 | 12 27.3 | - |

（別紙資料2 A票 表98の再掲）

談所の調査に対して加害事実を全面否認していないことである。直接調査された、およそ7割の加害を疑われる人物が不完全ながら加害行為を否定していないことは注目すべきことである。ここから加害者への対応が開始されなければならない。ポイントは当人の人生課題や治療的働きかけではなく、子どもの安全確保のための条件提示であり、しばしば保護者としての子どもへの安全責任と自身の行為の侵害性の無自覚さへの修正である。ただし、加害者もまた未成年であり、児童福祉の支援対象者である場合には、それに応じた対応が設定されなければならない。

児童相談所が恥ずかしがったり、ためらったり、嫌悪・忌避することなく、子どもの被害と今後の安全のために、加害を疑われる人物と話し合い、子どもへの再接近を断念させることは極めて重要な長期ケアの開始要件のひとつとなる。もちろん犯罪行為が含まれる場合には警察への通報が検討されなければならない。

表130は児童相談所の加害者への接觸・対応の状況である。接觸ありが629件：46.5%あるのに対して接觸無しも606件：44.8%で、接觸の有無は半々に2分されている。

表129によれば、確認された全加害（疑い）者1478人のうち43.6%：645人に児童相談所が接觸したことが分かる。

注目されるのは、多くの加害者が児童相

表 131 は加害者への指導形態を示す。一般的助言・指導が最も多く 535 件 : 39.5% であるが、一部、カウンセリング 80 件 : 5.9%、グループ指導への参加 5 件 : 0.4% がある。カウンセリングについてはあるいは未成年の加害者を含む対応であるかもしれないが、グループ指導は、おそらく暴力的な対人関係への見直しや DV 問題から離脱を目指す成人のグループへの参加を示している件数とみられる。ただ全体の 54.2% : 73 件については無回答であり、おそらく加害者への接触は意識的には行われていないとみられる。

表 130. 児童相談所の加害者への接觸・対応の状況

| 1 O . 性別 | 件 数 | あり | なし | 無 回 答 |
|----------|---------------|-------------|-------------|-------------|
| | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 629 46.5 | 606 44.8 | 119 8.8 |
| 女性 | 1257 100.0 | 587 46.7 | 563 44.8 | 107 8.5 |
| 男性 | 91 100.0 | 42 46.2 | 38 41.8 | 11 12.1 |

(別紙資料 2 A 票 表 115 の再掲)

表 131. 加害者への指導形態

| 1 O . 性別 | 件 数 | 一 般 的 助 言 ・ 指 導 | 個 別 カ ウ ン セ リ ン グ | 加 グ ル ー ブ 指 導 へ の 参 加 | 無 回 答 |
|----------|---------------|--------------------------------------|---|---|-------------|
| | | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 535 39.5 | 80 5.9 | 5 0.4 | 734 54.2 |
| 女性 | 1257 100.0 | 500 39.8 | 71 5.6 | 5 0.4 | 681 54.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 35 38.5 | 9 9.9 | - | 47 51.6 |

(別紙資料 2 A 票 表 116 の再掲)

表 132. 加害者の反応

| 1 O . 性別 | 件 数 | 「指 表 面 に 的 的 従 う 」 (積 極 的) | 「指 導 に 拒 否 」 (消 極 的) | 不 安 定 | 其 の 他 | 無 回 答 |
|----------|---------------|---|--|-------------|-------------|-------------|
| | | | | | | |
| 合 計 | 1354 100.0 | 430 31.8 | 131 9.7 | 29 2.1 | 49 3.6 | 715 52.8 |
| 女性 | 1257 100.0 | 395 31.4 | 127 10.1 | 26 2.1 | 47 3.7 | 662 52.7 |
| 男性 | 91 100.0 | 35 38.5 | 4 4.4 | 3 3.3 | 2 2.2 | 47 51.6 |

(別紙資料 2 A 票 表 117 の再掲)

表 132 は児童相談所の対応に対する加害者側の反応である。

表 130、131 によれば、児童相談所としては概ね 620~630 件前後の事例の加害者に何らかの助言・指導を試みているようである。重複加害者の多い中で、おそらく中心となるのは保護者・養育者に近い加害者群であろうと考えられる。そのうち 68% 程度の加害者は表面的～積極的な対応幅で指導に従う反応を示していくことになる。

残念ながら継続的な調査ではない本調査でわかるのはここまでである。一般的に成人の性暴力加害者が行動変容に至る有効な指導法はまだ全世界で見つかっていない。一部の性暴力加害者の下位グループでは、指導・治療を試みることで、かえって行動が悪化することが報告されているなど、まだまだ未知の困難な課題である。

③ 非加害者へのアプローチ

表 133 は初期調査における非加害保護者の子どもの被害についての認知状況である。非加害保護者の 54.9%は子どもの訴えた被害事実を確認するが、13.9%はその一部のみしか認めず、残る 31.2%の非加害保護者は直ちには子どもの被害の訴えの内容を認知しない。

非加害保護者は支援機関からみると、被害にあった子どもにとって、最も重要な支援者であり、子どもの安全を確保してくれる子どもの庇護者と期待される人物である。しばしば子どもを守ると自らも申し出る重要なキーパーソンである。しかし、子どもはしばしばそう単純には感じていない。多くの非加害保護者にとって、発覚・開示された性暴力は、自分自身への重大で深刻な裏切り行為を意味する。子ども自身からか、パートナーからか、家族からか、そのいずれか、あるいはすべてからか、なのである。

表 133. 非加害保護者の被害認知

| 100. 性別 | 件数 | 被害事実を確認する | る一部被害事実を認め | を認めず認めても被害 | 全事実否認に至らず | 無回答 |
|---------|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|-----------|
| 合 計 | 977 100.0 | 536 54.9 | 136 13.9 | 91 9.3 | 175 17.9 | 39 4.0 |
| 女性 | 919 100.0 | 497 54.1 | 129 14.0 | 89 9.7 | 167 18.2 | 37 4.0 |
| 男性 | 54 100.0 | 36 66.7 | 6 11.1 | 2 3.7 | 8 14.8 | 2 3.7 |

(別紙資料2 A票 表99の再掲)

おそらく疫学的な観点からみると、まず、子どもの何らかの被害に気付いた段階で、取るものもとりあえず、子どもを連れて加害者の影響下から離脱するか、加害者を排除する非加害の保護者の一群が存在する。このような保護者と子どもは、公的サービスの前にはめったに登場しない。児童相談所はたまにこうした保護者からの電話相談で接触する機会があるが、彼らは自ら必要を認めるまでは相談に訪れる事にも慎重である。そのことが被害にあった子どもと非加害の保護者にとってベストかどうかはわからないが、子どもたちの再被害の危険性はかなり低いとみられる。

児童相談所が何らかの性暴力被害の発見・発覚によって接触する事例は、こうした対処が開始されないうちに、先に子どもが追いつめられるか、あるいは子どもが開示するまでは、発覚の機会を誰もが見つけられなかつた家族である。それだけ巧妙に事態が隠されていたか、あるいは周囲に気付く機会が無かつたか、気づける機会をつかめないでいた家族である。あきらかにこうした事態に子どもが開示するまで、非加害の保護者が全く気付かないできしたこと自体には、子どもの安全維持についてのなんらかの不利な条件があると考えるのが自然である。中には気付くだけの条件はあったが認められないできた、あるいは事態を過小評価して直面化を避けてしまった、極端な場合、それぐらいのこと我慢しなさいと子どもに言い放っていた保護者もいる。こうした家族の特徴は、何か重要なことに際して「子どもの安全・安心が第一」ではない方にある。

児童相談所が出会う事例の家族機能が上記のようであるとすると、非加害保護者は事態の衝撃にすぐには対処できないことがしばしば起こる。長期の家庭内性暴力被害はの発覚は、非加害保護者に強いダメージを与える。ダメージはまず、家族内の信頼と親密性への裏切り行為による衝撃として、次に家庭崩壊による生活を続けていくことの破綻、経済・社会的不安となって非加害保護者に降りかかる。

多くの非加害保護者が被害にあったと開示した子どもへの強い不信感と怒りを、自分が親として子どもを、守ってやれなかつた痛みと共に覚える。それらの感情に耐え難い場合にはしばしば事態そのものを過小評価してやり過ごそうとすることもある。

子どもはこうした非加害保護者の激しい不安感情や葛藤、怒りに敏感に反応する。非加害の保護者と子どもが共に被害事態を過小評価して福祉機関の介入を不要と感じるのは、こうした共同防衛意識が強く働いている場合であることが多い。こういう対応では子どもの安全は第一の優先事項とはならず、子どもは守られないままとなる。

非加害の保護者が子どもを自分が守ることは容易であると主張しながら、ほか方では子どもの被害事実そのものを十分に評価せずあまり信じていないということはよく起こりうることであり、注意が必要である。

④ DV 問題の関与

Bancroft と Silverman が DV 加害者の子どもへの性暴力の危険性を指摘して以来(Bancroft & Silverman 2002)、DV 問題は子ども虐待において心理的虐待、身体的虐待やネグレクトの随伴事態としてだけでなく、性的虐待の重要な原因の一つと認識されるようになった。

本研究でも加害者が親権者・監護責任者である場合とそれ以外の家庭内性暴力問題である場合に DV の存在に有意差が生じていることが見いだされている(図 31)。

表 134 は在宅での子どもの性暴力被害事案における DV 問題についての児童相談所の認知程度を示す。

表 134. 在宅での子どもの性暴力被害事案におけるパートナー間の DV 問題

| 10. 性別 | 件数 | D V 関 係 あ り | D V と も よ く 支 配 関 係 あ り 当 事 者 | D V 様 支 配 関 係 の 疑 い | D V 様 支 配 関 係 認 め ず | 無 回答 |
|--------|---------------|----------------------------|---|--|--|-------------|
| 合 計 | 1354 100.0 | 145 10.7 | 53 3.9 | 93 6.9 | 474 35.0 | 589 43.5 |
| 女性 | 1257 100.0 | 134 10.7 | 49 3.9 | 84 6.7 | 447 35.6 | 543 43.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 11 12.1 | 4 4.4 | 8 8.8 | 26 28.6 | 42 46.2 |

(別紙資料 2 A 票 表 101 の再掲)

児童相談所からみた DV 問題には二つの様相がある。ひとつは当事者間で DV 問題が自覚されている場合である。もうひとつは、支援担当者からみると明らかな DV 様の支配関係が実態としてみとめられるのだが、当事者にはそれを認めがたいか否認する傾向が認められる場合である。

表 134 によれば、明らかな DV 問題が認められているのは 145 事例 : 10.7% であり、支援者側からみると DV 問題がありそうなのだが、当事者がそれと認めていない事案が 146 事例 : 10.8%、ほぼ同数となっている。合計 291 事例 : 21.5% の非加害保護者は無力化されてきたと考えなければならない。この傾向は被害者の性別に関係せず共通している。

DV の性暴力加害の特徴は、非加害保護者が無力化され、家族全体が被害にあった子どもを守る力を奪われていること、加害者は被害者の年齢に関係なく、生涯加害行為を続ける危険性が高いことである。家族が DV 問題から離脱することが遂げられない限り、この問題性は続く。

⑤ 加害者排除と非加害保護者への支援

ガイドライン 2011 年版によれば、加害者排除に動けない非加害保護者が多い中、子どもの安全に関しては不十分な非加害保護者も含め、また認知されない DV 問題を抱える家族に対しても、少なくとも子どもの最善の利益と安全確保のために、非加害保護者への支援関係を確保することが重要である。

一部には被害開示した子どもを敵視して、一切の支援協力を拒むまでに至る非加害保護者もあるが、多くの非加害保護者は加害者との生活継続と被害にあった子どもの関係修復の 2 重関係に入る。

表 135、136 は在宅で何らかの性暴力被害の発見・発覚から対応開始した事例における加害者排除の実態である(別紙資料 2 A 票 表 113、114 の再掲)。

表 135 は加害者がパートナー・家族・親族であった場合、表 136 は加害者が家族・親族以外の第三者であった場合の非加害保護者の態度・行動としての加害者排除の状況である。

表 135. 加害者がパートナー・家族・親族であった場合の非加害保護者の態度・行動としての加害者排除

| 10. 性別 | 件数 | 除加害者別を積極的に排 | 居・交流と一時的に別 | き加害者排除せずで | ばう者を積極的にか | 無回答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 354 26.1 | 172 12.7 | 286 21.1 | 102 7.5 | 440 32.5 |
| 女性 | 1257 100.0 | 334 26.6 | 161 12.8 | 272 21.6 | 98 7.8 | 392 31.2 |
| 男性 | 91 100.0 | 18 19.8 | 11 12.1 | 13 14.3 | 3 3.3 | 46 50.5 |

表 136. 加害者がパートナー・家族・親族以外であった場合の非加害保護者の態度・行動としての加害者排除

| 10. 性別 | 件数 | 極加害者に遮断の接觸を積 | 時加害者に遮断の接觸を一 | き加害者排除せずで | ばう者を積極的にか | 無回答 |
|--------|---------------|--------------|--------------|-----------|-----------|--------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 107 7.9 | 28 2.1 | 62 4.6 | 16 1.2 | 1141 84.3 |
| 女性 | 1257 100.0 | 102 8.1 | 24 1.9 | 60 4.8 | 16 1.3 | 1055 83.9 |
| 男性 | 91 100.0 | 5 5.5 | 4 4.4 | 2 2.2 | - | 80 87.9 |

表 135、136 を見る限り加害者を積極的に排除しているのは全体の 26%未満、7 割は一時的以上の排除はしていないことが認められる。一部の加害者は自ら去っていくことがあるのと、家族・親族ではない者が加害者であった場合には、その人物との接点を閉じれば済むのかもしれないが、加害者が家族・親族以外の場合には非加害保護者が積極的に加害者排除に動いた痕跡はさらに低くなっている。被害者がもはやそこにはおらず、児童相談所が分離保護していることも影響しているかもしれない。

4-2 在宅指導の状況 一時保護からの帰宅と、もともと一時保護しなかった事例

表 77 によれば別件保護を含めおよそ 723 件が一時保護されている。ところが表 137 によれば、いったん親子分離したとみられる事例、一時保護したとみられる事例は全部でおよそ 1132 件となっている。おそらく初動以降の経過の中でさらに 400 件余りの事例に何らかの分離介入を行ったことになる。そのうちおよそ 3 割：375 件の事例が家庭引取りとなっている。

表 137. 一時保護以降の子どもの身柄の行き場所

| 10. 性別 | 件数 | 引取り | 施設入所 | 現在一時保護中 | 無回答 |
|--------|---------------|-------------|-------------|----------|-------------|
| 合計 | 1354 100.0 | 375 27.7 | 749 55.3 | 8 0.6 | 222 16.4 |
| 女性 | 1257 100.0 | 356 28.3 | 687 54.7 | 8 0.6 | 206 16.4 |
| 男性 | 91 100.0 | 18 19.8 | 59 64.8 | - | 14 15.4 |

(別紙資料 2 A 票 表 118 の再掲)

表 138. 引き取り先

| 10. 性別 | 件数 | もとの家庭 | 加害者のいらない自宅 | 親族宅 | その他 | 無回答 |
|--------|--------------|-------------|-------------|------------|-----------|----------|
| 合計 | 375 100.0 | 134 35.7 | 156 41.6 | 58 15.5 | 24 6.4 | 3 0.8 |
| 女性 | 356 100.0 | 125 35.1 | 150 42.1 | 57 16.0 | 22 6.2 | 2 0.6 |
| 男性 | 18 100.0 | 9 50.0 | 5 27.8 | 1 5.6 | 2 11.1 | 1 5.6 |

(別紙資料 2 A 票 表 119 の再掲)

表 139. 引取りの主たる理由

| 10. 性別 | 件数 | 被害が確証されない | 子どもが帰宅を強く望んだ | 整無外のまま戻らざる調 | 適切な施設が見当たらず | 子どもの安全が確保されたもの | その他 | 無回答 |
|--------|--------------|-----------|--------------|-------------|-------------|----------------|-----------|----------|
| 合計 | 375 100.0 | 35 9.3 | 41 10.9 | 5 1.3 | 2 0.5 | 276 73.6 | 21 5.6 | 2 0.5 |
| 女性 | 356 100.0 | 32 9.0 | 41 11.5 | 5 1.4 | 2 0.6 | 265 74.4 | 16 4.5 | 2 0.6 |
| 男性 | 18 100.0 | 3 16.7 | - | - | - | 10 55.6 | 5 27.8 | - |

(別紙資料2 A票 表120の再掲)

表138によれば、加害者が排除されていない元の家庭にもどったのは家庭復帰の35.7%：134件のみである。そのほかの事例は親族や加害者のいなくなった家に帰っている。

表139によれば、引取りの73.6%が子どもの安全が確保されたことを理由に引取りとなっている。他方、被害が確証されない、子どもが強く帰宅を望んだ、無断外出のまま戻らなかつなどの理由で引取りとなつた事例も21.6%：81件、さらに施設が見当たらず引取りとなつた事例もある。

表140. 引き取り後の指導

| 10. 性別 | 件数 | 児童福祉司指導 | 継続指導 | 調査継続 | 終結 | 無回答 |
|--------|--------------|-------------|-------------|----------|------------|-----------|
| 合計 | 375 100.0 | 127 33.9 | 182 48.5 | 8 2.1 | 46 12.3 | 12 3.2 |
| 女性 | 356 100.0 | 123 34.6 | 172 48.3 | 8 2.2 | 42 11.8 | 11 3.1 |
| 男性 | 18 100.0 | 4 22.2 | 9 50.0 | - | 4 22.2 | 1 5.6 |

(別紙資料2 A票 表121の再掲)

表141. 引き取り後の問題再発

| 10. 性別 | 件数 | あり | 疑い | 不明 | 無し | 別の問題 | 無回答 |
|--------|--------------|-----------|-----------|-----------|-------------|------------|----------|
| 合計 | 375 100.0 | 15 4.0 | 13 3.5 | 30 8.0 | 262 69.9 | 49 13.1 | 6 1.6 |
| 女性 | 356 100.0 | 15 4.2 | 13 3.7 | 29 8.1 | 247 69.4 | 47 13.2 | 5 1.4 |
| 男性 | 18 100.0 | - | - | 1 5.6 | 14 77.8 | 2 11.1 | 1 5.6 |

(別紙資料2 A票 表122の再掲)

表140は引き取り後の指導の展開状況を示す。375件中、児童福祉司指導が33.9%：127件、継続指導が48.5%：182件実施されており、児童福祉司指導件数の比率も高いが、全体で309件：82.4%が指導継続されている。

一方初めから一時保護されずに在宅状態で支援が開始された事案は、「別紙資料 A票 表42」によれば、602件あり、児童福祉司指導が58件：9.6%、継続指導259件：43.9%、調査継続91件：15.1%となっている。また、終結が166件：27.6%である。状況不明の無回答は28件と少ない。

表141は引き取り後の問題状況を示す。約7割が問題なしとなっているが、7.5%では問題の再発あるいは再発が疑われる状況にあり13%では別件での問題が発生している。個々の事例の経過時間や元の入所期間は特に確認していないので、これらは全くの途中経過状況である。こうした継続的な状況については、継続的な調査設定による状態像の把握が必要であり、今後の検討に委ねたい。

4-3 施設入所後の支援

施設入所した事例は、別紙資料2 A票 表123によれば、749件あり、別紙資料2 A票 表133によれば、そのうち75件：10.0%が児童福祉司指導、142件：19.0%が継続指導となり、これらの指導事例は計217件、約3割である。

5) 法的対応

5)ー1 施設入所・親権関係

① A群：在宅の子どもの事例

「別紙資料2 A票 表123」によれば、施設入所したのは749件あり「別紙資料2 A票 表126」によれば児童福祉法第28条の申し立て件数は37件：4.9%である。そのうち承認されたものは33件、申し立て中は2件、取り下げが2件である（別紙資料2 A票 表127）。すべて女性被害の事例である。

施設入所してから、接触制限をかけた状況を表142に示す。さらに接近禁止命令をかけたのは8件である（別紙資料2 A票 表130）。これ以降の事例対応は段階的親子再接触や加害者排除の原則に基づく作業となるが、継続的な事例情報が無いため、ここまでとなる。時系列的に事例情報を追え、経過の中でさらに法的対応がみられる事例はあるかもしれない。

児童福祉法第33条の6の請求（親権喪失の宣告）事例はA群では見られなかった。

表142. 接触制限の状況

| 10. 性別 | 件数 | 措置先の秘匿 | 通信・面会の制限 | 検討中 | 制限なし | 無回答 | |
|--------|--------------|------------|-------------|----------|-------------|-------------|------|
| | | | | | | 427 | 57.0 |
| 合計 | 749 100.0 | 76 10.1 | 134 17.9 | 7 0.9 | 105 14.0 | | |
| 女性 | 687 100.0 | 75 10.9 | 127 18.5 | 6 0.9 | 97 14.1 | 382 55.6 | |
| 男性 | 59 100.0 | 1 1.7 | 6 10.2 | 1 1.7 | 7 11.9 | 44 74.6 | |

（別紙資料2 A票 表129の再掲）

② A～B・4群まで全体での法的対応：施設入所と親権

法第28条の申し立てはA群のほかはB・3群にみられたが、B-1、B-2、B・4群には見られなかった。

A群は6)ー1に挙げたとおりであるが、B-3群で2件あり、既に2件とも承認されている。

接触制限はB-2で保護先の秘匿が1件、通信・面会の制限が1件（別紙資料4 B-2票 表115）、B-3で保護先の秘匿4件、通信・面会の制限が17件、検討中1件である（別紙資料5 B-3票 表113）

接近禁止命令はA群では8件（6)ー1参照 および別紙資料2 A票 表130 参照）であるが、B-3群に1件（すべて女性被害事例）、計9件である。

児童福祉法第33条の6の請求（親権喪失の宣告）事例はどの群でも見られなかった。

③ A～B・4群まで全体での法的対応：家裁送致

家庭裁判所への送致がみられたのは B-2群、B-3群である。A群、B-1、B-4群には見られていない。

家庭裁判所への送致が行われるのは、観護措置を求めてのことなので、何らかの問題行動が非行・反社会的問題行動に至っているために安全に児童福祉施設で暮らすことが困難となっており、かつ、児童自立支援施設への措置変更では対応が不十分であるか、既に児童自立支援施設に身を置きながらなお、指導困難な状態が認められる場合に、強制付きの国立児童自立支援施設送致、あるいは医療少年院での処遇等を視野に入れて行われる。

B-2群、すなわち施設入所中に家性暴力被害の発見・発覚から対応が開始され、かつ一時保護が必要であった事例群である。女性被害者で1件が申し立てられ、観護措置が取られた後、児童自立支援施設送致となっている（別紙資料4 B-2票 表106～108参照）。

B-3群、すなわち施設入所中に性的虐待・家庭内性暴力被害の発見・発覚から対応が開始され、そのまま入所中の施設での支援が継続された事例群である。ただし、その後の経過として措置変更等は部分的に発生している。性別不詳であるが、1件が申し立てられ、観護措置が取られた後、児童自立支援施設送致となっている（別紙資料5 B-3票 表117～119参照）。

5)―2 刑事・司法関係

性暴力被害事案における警察・検察との関係は、従来から注目されてきた。しかし、刑事訴訟法のハードルは高く、また性犯罪問題は、日常的に児童相談所が接することの多い生活安全課、少年係と違って、刑事課とのやり取りになる。犯罪の立件要件や、問うことのできる罪状、被害者本人の告訴意志や弁護人の支援、取り調べの過酷さの緩和、事情聴取への付添い、児童相談所が提出する告発状の被害確認面接記録やそのほかの資料の証拠性や資料の取り扱いの在り方、そして公判廷における証言や反対尋問など、課題は多く、また被害にあったこどもにとって過酷な世界が展開する。表143～154に今回の調査で報告された様々な刑事・司法手続きに関する情報を集約する。

表143. 初動からの警察との連携・連絡状況

| | | 件数 | 初動からの警察との連絡・連携 | | |
|-----|----|-------|----------------|-------|------|
| | | | あり | なし | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 | 276 | 845 | 233 |
| | | 100.0 | 20.4 | 62.4 | 17.2 |
| | 女性 | 1257 | 263 | 782 | 212 |
| | | 100.0 | 20.9 | 62.2 | 16.9 |
| | 男性 | 91 | 12 | 59 | 20 |
| | | 100.0 | 13.2 | 64.8 | 22.0 |
| B-1 | 合計 | 11 | 2 | 7 | 2 |
| | | 100.0 | 18.2 | 63.6 | 18.2 |
| | 女性 | 8 | 1 | 5 | 2 |
| | | 100.0 | 12.5 | 62.5 | 25.0 |
| | 男性 | 3 | 1 | 2 | - |
| | | 100.0 | 33.3 | 66.7 | - |
| B-2 | 合計 | 31 | 4 | 25 | 2 |
| | | 100.0 | 12.9 | 80.6 | 6.5 |
| | 女性 | 18 | 3 | 13 | 2 |
| | | 100.0 | 16.7 | 72.2 | 11.1 |
| | 男性 | 13 | 1 | 12 | - |
| | | 100.0 | 7.7 | 92.3 | - |
| B-3 | 合計 | 49 | 5 | 41 | 3 |
| | | 100.0 | 10.2 | 83.7 | 6.1 |
| | 女性 | 41 | 4 | 34 | 3 |
| | | 100.0 | 9.8 | 82.9 | 7.3 |
| | 男性 | 6 | | 6 | - |
| | | 100.0 | - | 100.0 | - |
| B-4 | 合計 | 169 | 10 | 137 | 22 |
| | | 100.0 | 5.9 | 81.1 | 13.0 |
| | 女性 | 95 | 10 | 74 | 11 |
| | | 100.0 | 10.5 | 77.9 | 11.6 |
| | 男性 | 69 | | 58 | 11 |
| | | 100.0 | - | 84.1 | 15.9 |
| 全 | 合計 | 1614 | 297 | 1055 | 262 |
| | | 100.0 | 18.4 | 65.4 | 16.2 |
| | 女性 | 1419 | 281 | 908 | 230 |
| | | 100.0 | 19.8 | 64.0 | 16.2 |
| | 男性 | 182 | 14 | 137 | 31 |
| | | 100.0 | 7.7 | 75.3 | 17.0 |

表144.児童買春・児童ポルノ法に関する通報

| | | 件数 | 児童買春・児童ポルノ法通報 | | | |
|-----|----|-------|---------------|------|-----|------|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 | 24 | 915 | | 415 |
| | | 100.0 | 1.8 | 67.6 | - | 30.6 |
| | 女性 | 1257 | 23 | 852 | | 382 |
| | | 100.0 | 1.8 | 67.8 | - | 30.4 |
| | 男性 | 91 | 1 | 60 | | 30 |
| | | 100.0 | 1.1 | 65.9 | - | 33.0 |
| B-1 | 合計 | 11 | | 8 | | 3 |
| | | 100.0 | - | 72.7 | - | 27.3 |
| | 女性 | 8 | | 6 | | 2 |
| | | 100.0 | - | 75.0 | - | 25.0 |
| | 男性 | 3 | | 2 | | 1 |
| | | 100.0 | - | 66.7 | - | 33.3 |
| B-2 | 合計 | 31 | | 28 | | 3 |
| | | 100.0 | - | 90.3 | - | 9.7 |
| | 女性 | 18 | | 16 | | 2 |
| | | 100.0 | - | 88.9 | - | 11.1 |
| | 男性 | 13 | | 12 | | 1 |
| | | 100.0 | - | 92.3 | - | 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 | | 40 | | 9 |
| | | 100.0 | - | 81.6 | - | 18.4 |
| | 女性 | 41 | | 34 | | 7 |
| | | 100.0 | - | 82.9 | - | 17.1 |
| | 男性 | 6 | | 4 | | 2 |
| | | 100.0 | - | 66.7 | - | 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 | | 139 | | 30 |
| | | 100.0 | - | 82.2 | - | 17.8 |
| | 女性 | 95 | | 77 | | 18 |
| | | 100.0 | - | 81.1 | - | 18.9 |
| | 男性 | 69 | | 57 | | 12 |
| | | 100.0 | - | 82.6 | - | 17.4 |
| 全 | 合計 | 1614 | 24 | 1130 | 0 | 460 |
| | | 100.0 | 1.5 | 70.0 | 0.0 | 28.5 |
| | 女性 | 1419 | 23 | 985 | 0 | 411 |
| | | 100.0 | 1.6 | 69.4 | 0.0 | 29.0 |
| | 男性 | 182 | 1 | 135 | 0 | 46 |
| | | 100.0 | 0.5 | 74.2 | 0.0 | 25.3 |

表145.そのほか警察への通報・相談状況

表146.警察・検察の事情聴取への付添状況

| | | 件数 | その他の警察への通報・相談 | | | |
|-----|----|---------------|---------------|-------------|----------|-------------|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 185 13.7 | 758 56.0 | 2 0.1 | 409 30.2 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 179 14.2 | 700 55.7 | 2 0.2 | 376 29.9 |
| | 男性 | 91 100.0 | 5 5.5 | 56 61.5 | - | 30 33.0 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | 2 18.2 | 7 63.6 | - | 2 18.2 |
| | 女性 | 8 100.0 | 1 12.5 | 5 62.5 | - | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | 1 33.3 | 2 66.7 | - | - |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | 7 22.6 | 21 67.7 | - | 3 9.7 |
| | 女性 | 18 100.0 | 4 22.2 | 12 66.7 | - | 2 11.1 |
| | 男性 | 13 100.0 | 3 23.1 | 9 69.2 | - | 1 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | 3 6.1 | 38 77.6 | - | 8 16.3 |
| | 女性 | 41 100.0 | 2 4.9 | 33 80.5 | - | 6 14.6 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 9 5.3 | 132 78.1 | - | 28 16.6 |
| | 女性 | 95 100.0 | 8 8.4 | 71 74.7 | - | 16 16.8 |
| | 男性 | 69 100.0 | 1 1.4 | 56 81.2 | - | 12 17.4 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 206 12.8 | 956 59.2 | 2 0.1 | 450 27.9 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 194 13.7 | 821 57.9 | 2 0.1 | 402 28.3 |
| | 男性 | 182 100.0 | 10 5.5 | 127 69.8 | 0 0.0 | 45 24.7 |

表147. 刑事告訴の状況

| | | 件数 | 刑事告訴 | | | |
|-----|----|---------------|-----------|--------------|----------|-------------|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 69 5.1 | 847 62.6 | 7 0.5 | 431 31.8 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 69 5.5 | 783 62.3 | 7 0.6 | 398 31.7 |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 61 67.0 | - | 30 33.0 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | 1 9.1 | 6 54.5 | - | 4 36.4 |
| | 女性 | 8 100.0 | 1 12.5 | 5 62.5 | - | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | - | 3 9.7 |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | - | 2 11.1 |
| | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | - | 1 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | - | 8 16.3 |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | - | 6 14.6 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 4 2.4 | 138 81.7 | - | 27 16.0 |
| | 女性 | 95 100.0 | 4 4.2 | 76 80.0 | - | 15 15.8 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 57 82.6 | - | 12 17.4 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 74 4.6 | 1060 65.7 | 7 0.4 | 473 29.3 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 74 5.2 | 915 64.5 | 7 0.5 | 423 29.8 |
| | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 135 74.2 | 0 0.0 | 47 25.8 |

表149. 刑事告発・児童福祉法違反の状況

| | | 件数 | 事情聴取への付添い | | | |
|-----|----|---------------|-------------|-------------|-----------|-------------|
| | | | あり | なし | 部分的 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 130 9.6 | 780 57.6 | 10 0.7 | 434 32.1 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 128 10.2 | 722 57.4 | 10 0.8 | 397 31.6 |
| | 男性 | 91 100.0 | 1 1.1 | 56 61.5 | - | 34 37.4 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | 1 9.1 | 6 54.5 | - | 4 36.4 |
| | 女性 | 8 100.0 | 1 12.5 | 5 62.5 | - | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | 6 19.4 | 22 71.0 | - | 3 9.7 |
| | 女性 | 18 100.0 | 3 16.7 | 13 72.2 | - | 2 11.1 |
| | 男性 | 13 100.0 | 3 23.1 | 9 69.2 | - | 1 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | 1 2.0 | 40 81.6 | - | 8 16.3 |
| | 女性 | 41 100.0 | 1 2.4 | 34 82.9 | - | 6 14.6 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 3 1.8 | 131 77.5 | 1 0.6 | 34 20.1 |
| | 女性 | 95 100.0 | 3 3.2 | 74 77.9 | 1 1.1 | 17 17.9 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 52 75.4 | - | 17 24.6 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 141 8.7 | 979 60.7 | 11 0.7 | 483 29.9 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 136 9.6 | 848 59.8 | 11 0.8 | 424 29.9 |
| | 男性 | 182 100.0 | 4 2.2 | 122 67.0 | 0 0.0 | 56 30.8 |

表148. 刑事告発（暴行・傷害）の状況

| | | 件数 | 刑事告発(暴行・傷害) | | | |
|-----|----|---------------|-------------|--------------|----------|-------------|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 34 2.5 | 878 64.8 | 4 0.3 | 438 32.3 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 34 2.7 | 815 64.8 | 4 0.3 | 404 32.1 |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 60 65.9 | - | 31 34.1 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | - | 4 36.4 |
| | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | - | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | 1 3.2 | 27 87.1 | - | 3 9.7 |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | - | 2 11.1 |
| | 男性 | 13 100.0 | 1 7.7 | 11 84.6 | - | 1 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | - | 8 16.3 |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | - | 6 14.6 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 3 1.8 | 141 83.4 | - | 25 14.8 |
| | 女性 | 95 100.0 | 3 3.2 | 75 78.9 | - | 17 17.9 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 62 89.9 | - | 7 10.1 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 38 2.4 | 1094 67.8 | 4 0.2 | 478 29.6 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 37 2.6 | 947 66.7 | 4 0.3 | 431 30.4 |
| | 男性 | 182 100.0 | 1 0.5 | 138 75.8 | 0 0.0 | 43 23.6 |

表150. 刑事告発・青少年保護条例違反の状況

| | | 件数 | 刑事告発 児童福祉法違反 | | | | 件数 | 刑事告発 青少年保護条例違反 | | | | |
|-----|----|---------------|--------------|--------------|-----------|-------------|----|----------------|-----------|--------------|----------|-------------|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 | | あり | なし | 検討中 | 無回答 | |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 41 3.0 | 864 63.8 | 9 0.7 | 440 32.5 | 合計 | 1354 100.0 | 16 1.2 | 882 65.1 | 8 0.6 | 448 33.1 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 41 3.3 | 802 63.8 | 9 0.7 | 405 32.2 | 女性 | 1257 100.0 | 16 1.3 | 820 65.2 | 8 0.6 | 413 32.9 |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 59 64.8 | - | 32 35.2 | 男性 | 91 100.0 | - | 59 64.8 | - | 32 35.2 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | - | 4 36.4 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | - | 4 36.4 |
| | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | - | 2 25.0 | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | - | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | - | 3 9.7 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | - | 3 9.7 |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | - | 2 11.1 | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | - | 2 11.1 |
| | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | - | 1 7.7 | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | - | 1 7.7 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | - | 8 16.3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | - | 8 16.3 |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | - | 6 14.6 | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | - | 6 14.6 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 1 0.6 | 141 83.4 | 1 0.6 | 26 15.4 | 合計 | 169 100.0 | 3 1.8 | 139 82.2 | 1 0.6 | 26 15.4 |
| | 女性 | 95 100.0 | 1 1.1 | 76 80.0 | 1 1.1 | 17 17.9 | 女性 | 95 100.0 | 3 3.2 | 74 77.9 | 1 1.1 | 17 17.9 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 61 88.4 | - | 8 11.6 | 男性 | 69 100.0 | - | 61 88.4 | - | 8 11.6 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 42 2.6 | 1081 67.0 | 10 0.6 | 481 29.8 | 合計 | 1614 100.0 | 19 1.2 | 1097 68.0 | 9 0.6 | 489 30.3 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 42 3.0 | 935 65.9 | 10 0.7 | 432 30.4 | 女性 | 1419 100.0 | 19 1.3 | 951 67.0 | 9 0.6 | 440 31.0 |
| | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 137 75.3 | 0 0.0 | 45 24.7 | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 137 75.3 | 0 0.0 | 45 24.7 |

表 151. 少年法による対応状況

| | | 件数 | 少年法による対応 | | | | 件数 | 警察・検察への上申書の提出 | | | | |
|-----|----|---------------|-----------|--------------|----------|-------------|----|---------------|-----------|--------------|-------------|--|
| | | | あり | なし | 検討中 | 無回答 | | あり | なし | 無回答 | | |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 12 0.9 | 901 66.5 | 2 0.1 | 439 32.4 | 合計 | 1354 100.0 | 18 1.3 | 896 66.2 | 440 32.5 | |
| | 女性 | 1257 100.0 | 12 1.0 | 839 66.7 | 2 0.2 | 404 32.1 | 女性 | 1257 100.0 | 18 1.4 | 833 66.3 | 406 32.3 | |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 59 64.8 | - | 32 35.2 | 男性 | 91 100.0 | - | 60 65.9 | 31 34.1 | |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | - | 4 36.4 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | 4 36.4 | |
| | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | - | 2 25.0 | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | 2 25.0 | |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | - | 2 66.7 | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | 2 66.7 | |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | 1 3.2 | 27 87.1 | - | 3 9.7 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | 3 9.7 | |
| | 女性 | 18 100.0 | 1 5.6 | 15 83.3 | - | 2 11.1 | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | 2 11.1 | |
| | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | - | 1 7.7 | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | 1 7.7 | |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | - | 8 16.3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | 8 16.3 | |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | - | 6 14.6 | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | 6 14.6 | |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | - | 2 33.3 | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | 2 33.3 | |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 2 1.2 | 141 83.4 | - | 26 15.4 | 合計 | 169 100.0 | - | 138 81.7 | 31 18.3 | |
| | 女性 | 95 100.0 | 1 1.1 | 77 81.1 | - | 17 17.9 | 女性 | 95 100.0 | - | 77 81.1 | 18 18.9 | |
| | 男性 | 69 100.0 | 1 1.4 | 60 87.0 | - | 8 11.6 | 男性 | 69 100.0 | - | 57 82.6 | 12 17.4 | |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 15 0.9 | 1117 69.2 | 2 0.1 | 480 29.7 | 合計 | 1614 100.0 | 18 1.1 | 1110 68.8 | 486 30.1 | |
| | 女性 | 1419 100.0 | 14 1.0 | 972 68.5 | 2 0.1 | 431 30.4 | 女性 | 1419 100.0 | 18 1.3 | 967 68.1 | 434 30.6 | |
| | 男性 | 182 100.0 | 1 0.5 | 136 74.7 | 0 0.0 | 45 24.7 | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 134 73.6 | 48 26.4 | |

表 153. 告訴・告発時の弁護士の付添状況

| | | 件数 | 警察・検察への上申書の提出 | | | | 件数 | 少年法による対応 | | | | |
|-----|----|---------------|---------------|--------------|-------------|----|---------------|-----------|--------------|-------------|-------------|--|
| | | | あり | なし | 無回答 | あり | | あり | なし | 無回答 | | |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 18 1.3 | 896 66.2 | 440 32.5 | 合計 | 1354 100.0 | 12 1.2 | 882 65.1 | 8 0.6 | 448 33.1 | |
| | 女性 | 1257 100.0 | 18 1.4 | 833 66.3 | 406 32.3 | 女性 | 1257 100.0 | 18 1.4 | 833 66.3 | 406 32.3 | | |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 60 65.9 | 31 34.1 | 男性 | 91 100.0 | - | 60 65.9 | 31 34.1 | | |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | 4 36.4 | 合計 | 11 100.0 | - | 6 75.0 | 2 25.0 | | |
| | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | 2 25.0 | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | 2 25.0 | | |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | 2 66.7 | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | 2 66.7 | | |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | 3 9.7 | 合計 | 31 100.0 | - | 28 90.3 | 3 9.7 | | |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | 2 11.1 | 女性 | 18 100.0 | - | 16 88.9 | 2 11.1 | | |
| | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | 1 7.7 | 男性 | 13 100.0 | - | 12 92.3 | 1 7.7 | | |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | 8 16.3 | 合計 | 49 100.0 | - | 41 83.7 | 8 16.3 | | |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | 6 14.6 | 女性 | 41 100.0 | - | 35 85.4 | 6 14.6 | | |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | 2 33.3 | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | 2 33.3 | | |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | - | 138 81.7 | 31 18.3 | 合計 | 169 100.0 | - | 138 81.7 | 31 18.3 | | |
| | 女性 | 95 100.0 | - | 77 81.1 | 18 18.9 | 女性 | 95 100.0 | - | 77 81.1 | 18 18.9 | | |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 57 82.6 | 12 17.4 | 男性 | 69 100.0 | - | 57 82.6 | 12 17.4 | | |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 18 1.1 | 1110 68.8 | 486 30.1 | 合計 | 1614 100.0 | 18 1.1 | 1110 68.8 | 486 30.1 | | |
| | 女性 | 1419 100.0 | 18 1.3 | 967 68.1 | 434 30.6 | 女性 | 1419 100.0 | 18 1.3 | 967 68.1 | 434 30.6 | | |
| | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 134 73.6 | 48 26.4 | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 134 73.6 | 48 26.4 | | |

表 147～154 から見えてくるのは一つの特徴は、在宅の子どもの性被害問題の深刻さである。日本の刑事訴訟法は被害者の年齢、加害者と被害者の関係に関する親告罪の要件、日時の特定、時効の設定、繰り返し手の事情聴取、被害立証をめぐる反対尋問など、子どもの被害者にとって過酷な条件にある。

| | | 件数 | 告訴・告発時の弁護士付添い | | |
|-----|----|---------------|---------------|-------------|-------------|
| | | | あり | なし | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 23 1.7 | 736 54.4 | 595 43.9 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 23 1.8 | 688 54.7 | 546 43.4 |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 45 49.5 | 46 50.5 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | - | 7 63.6 | 4 36.4 |
| | 女性 | 8 100.0 | - | 6 75.0 | 2 25.0 |
| | 男性 | 3 100.0 | - | 1 33.3 | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | - | 26 83.9 | 5 16.1 |
| | 女性 | 18 100.0 | - | 15 83.3 | 3 16.7 |
| | 男性 | 13 100.0 | - | 11 84.6 | 2 15.4 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | - | 37 75.5 | 12 24.5 |
| | 女性 | 41 100.0 | - | 31 75.6 | 10 24.4 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | 4 66.7 | 2 33.3 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 2 1.2 | 119 70.4 | 48 28.4 |
| | 女性 | 95 100.0 | 2 2.1 | 66 69.5 | 27 28.4 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | 49 71.0 | 20 29.0 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 25 1.5 | 925 57.3 | 664 41.1 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 25 1.8 | 806 56.8 | 588 41.4 |
| | 男性 | 182 100.0 | 0 0.0 | 110 60.4 | 72 39.6 |

表 154. 刑事告訴・告発のその後の経過状況

| 件数 | | | その後の経過 | | | | | | | | |
|-----|----|---------------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|--------------|
| | | | 捜査中 | 逮捕 | 起訴 | 不起訴 | 示談・取り下げ | 公判中 | 有罪 | 無罪 | 無回答 |
| A | 合計 | 1354 100.0 | 15 1.1 | 59 4.4 | 7 0.5 | 18 1.3 | 12 0.9 | 12 0.9 | 60 4.4 | 2 0.1 | 1169 86.3 |
| | 女性 | 1257 100.0 | 15 1.2 | 58 4.6 | 7 0.6 | 18 1.4 | 12 1.0 | 11 0.9 | 59 4.7 | 2 0.2 | 1075 85.5 |
| | 男性 | 91 100.0 | - | 1 1.1 | - | - | - | 1 1.1 | - | - | 89 97.8 |
| B-1 | 合計 | 11 100.0 | 1 9.1 | - | - | - | - | - | 1 9.1 | - | 9 81.8 |
| | 女性 | 8 100.0 | - | - | - | - | - | - | 1 12.5 | - | 7 87.5 |
| | 男性 | 3 100.0 | 1 33.3 | - | - | - | - | - | - | - | 2 66.7 |
| B-2 | 合計 | 31 100.0 | 2 6.5 | 1 3.2 | - | 1 3.2 | - | - | - | - | 27 87.1 |
| | 女性 | 18 100.0 | 2 11.1 | 1 5.6 | - | - | - | - | - | - | 15 83.3 |
| | 男性 | 13 100.0 | - | - | - | 1 7.7 | - | - | - | - | 12 92.3 |
| B-3 | 合計 | 49 100.0 | 1 2.0 | - | - | - | 1 2.0 | - | - | - | 47 95.9 |
| | 女性 | 41 100.0 | 1 2.4 | - | - | - | 1 2.4 | - | - | - | 39 95.1 |
| | 男性 | 6 100.0 | - | - | - | - | - | - | - | - | 6 100.0 |
| B-4 | 合計 | 169 100.0 | 1 0.6 | 3 1.8 | - | - | - | - | 2 1.2 | - | 163 96.4 |
| | 女性 | 95 100.0 | 1 1.1 | 3 3.2 | - | - | - | - | 2 2.1 | - | 89 93.7 |
| | 男性 | 69 100.0 | - | - | - | - | - | - | - | - | 69 100.0 |
| 全 | 合計 | 1614 100.0 | 20 1.2 | 63 3.9 | 7 0.4 | 19 1.2 | 13 0.8 | 12 0.7 | 63 3.9 | 2 0.1 | 1415 87.7 |
| | 女性 | 1419 100.0 | 19 1.3 | 62 4.4 | 7 0.5 | 18 1.3 | 13 0.9 | 11 0.8 | 62 4.4 | 2 0.1 | 1225 86.3 |
| | 男性 | 182 100.0 | 1 0.5 | 1 0.5 | 0 0.0 | 1 0.5 | 0 0.0 | 1 0.5 | 0 0.0 | 0 0.0 | 178 97.8 |

ことがどのような利益を子どもにもたらすのか、おそらく、この時間設定とエネルギーの焦点の違いは、子どもの被害についての刑事事件では特に難しい問題を我々に突きつける。おそらくもっと長い時間経過の中

で、被害者が事実と向き合い、自らの課題として告訴や告発を選ぶべき作業が必要なのではないか、あるいは、もっと被害者本人の立証責任を過酷に問うことのない制度整備を考えられるべきではないかと思われる。

全体での刑事告訴・告発は計188件である。そのうち122件ほどが事件として扱われているように見える。裁判になったものでは有罪が多く確定しているように見える。

表153の付添い、表152の上申書の提出、表153の弁護士の付添は特に法的手続きにおける子どもへの支援として重要である。告発全体の件数に比してまだまだこうした支援体制の充実が望まれる。同時に刑事手続きにおける子どもへの心身への支援体制の充実・強化、さらにはそうした法的手手続きの基礎となる刑事訴訟法における子どもの性暴力被害の扱いについての見直し・検討も重要な課題である。

さらに児童相談所としては、表144にある児童買春・児童ポルノ法問題をはじめとして、被害にあった子どもへの初動対応において、事件性をどのように扱い、刑事捜査と児童福祉としての子どもの安全保護の体制をどのように一体的に組むべきかについても重要な検討課題がある。